



SpeechLine Digital Wireless

システムドキュメント

このPDF文書は、元のインタラクティブなHTMLドキュメントから作成されています。

PDF形式ではHTMLの全機能と要素をサポートしていません。そのため、このPDF文書にはHTML版取扱説明書の全内容とインタラクティブ要素が含まれていない可能性があります。

完全かつインタラクティブなHTML版取扱説明書の使用を推奨します。

Sennheiser Documentation App (iOSおよびAndroid向けに無料で提供) でご覧いただけます。あるいは、SpeechLine Digital



【システム情報】

SpeechLine Digital Wireless: システム情報

SpeechLine Digital Wirelessシリーズの**個々の製品に関する詳細**は、
「SpeechLine Digital Wirelessシリーズの製品」を参照してください。

利用可能なアクセサリーについては、「アクセサリー」を参照してください。

SpeechLine Digital Wireless **システムの全体計画**については、
「SpeechLine Digital Wireless：システム計画」をご覧ください。

SpeechLine Digital Wireless**シリーズの全製品に関する取扱説明書**は、
「SpeechLine Digital Wireless：取扱説明書」でご覧いただけます。



スピーチライン デジタルワイヤレスは、話し言葉のために特別に設計された初のデジタルワイヤレスマイクシステムです。スピーチライン デジタルワイヤレスは、将来を見据えたソリューションであり、セットアップ、使用、管理が簡単で、発表者が技術ではなく自分の言葉に集中できるようにします。

スピーチライン・デジタルワイヤレスは、音声用途に特化したモバイル送信機（ハンドヘルド型またはボディパック型）、音声最適化コンデンサーマイク（ハンドヘルド送信機用マイクカプセル、ボディパック送信機用クリップオンマイクまたはヘッドセットマイク）、およびラック受信機で構成されます。送信機は充電式リチウムイオンバッテリーパックで駆動され、バッテリー駆動時間は15時間以上です。バッテリーパックは専用充電器またはUSB経由で充電可能です。SpeechLine Digital Wirelessは自動周波数管理機能を搭載し、現場で空き周波数を自動検索するため、事前の煩雑な周波数計画が不要です。さらに、自動干渉管理機能により常に安定した無線接続を確保し、最高の伝送信頼性を提供します。自動マイク感度調整機能により、手動でのレベル調整が不要となり、セットアップがさらに簡便になります。加えて、ネットワーク統合により、メディア制御システム（例：AMX、Crestron）やブラウザベースのSennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して、SpeechLine Digital Wirelessを遠隔操作・監視することが可能です。



Focus on the spoken word



話し言葉は、今も昔も私たちが知る最も個人的で強力なコミュニケーション手段です。人々を説得し、知識を伝え、意見や思考、見解、そして感情を声にできるからです。だからこそ、ワイヤレスマイクや関連受信機といったオーディオ機器を使用する際、内容の損失が一切ないことが極めて重要です。



SpeechLine Digital Wireless – 講演者、講師、プレゼンターのためのプロフェッショナルソリューション



最高級のワイヤレスマイクとレシーバーは、話者が意識する必要のないものです。なぜなら、それらはすぐに使用可能で、自動的に最も信頼性の高い無線リンクを確立し、多様な用途と最大限の伝送信頼性を提供するからです。SpeechLine Digital Wirelessシリーズのマイクとレシーバーは、最適な音声明瞭度を実現するように設計されており、暗号化伝送による最大限のセキュリティを提供します。既存の会議システム、メディア制御システム、電話システムへのシームレスな統合を可能にします。控えめなデザインは、会議室や研修室、講堂、プレゼンテーションステージに完璧に溶け込みます。



主な用途

プレゼンテーション、会議、電話会議のいずれで使用する場合でも、優れた音声明瞭度、簡単な操作、便利な制御が常に最優先されます。

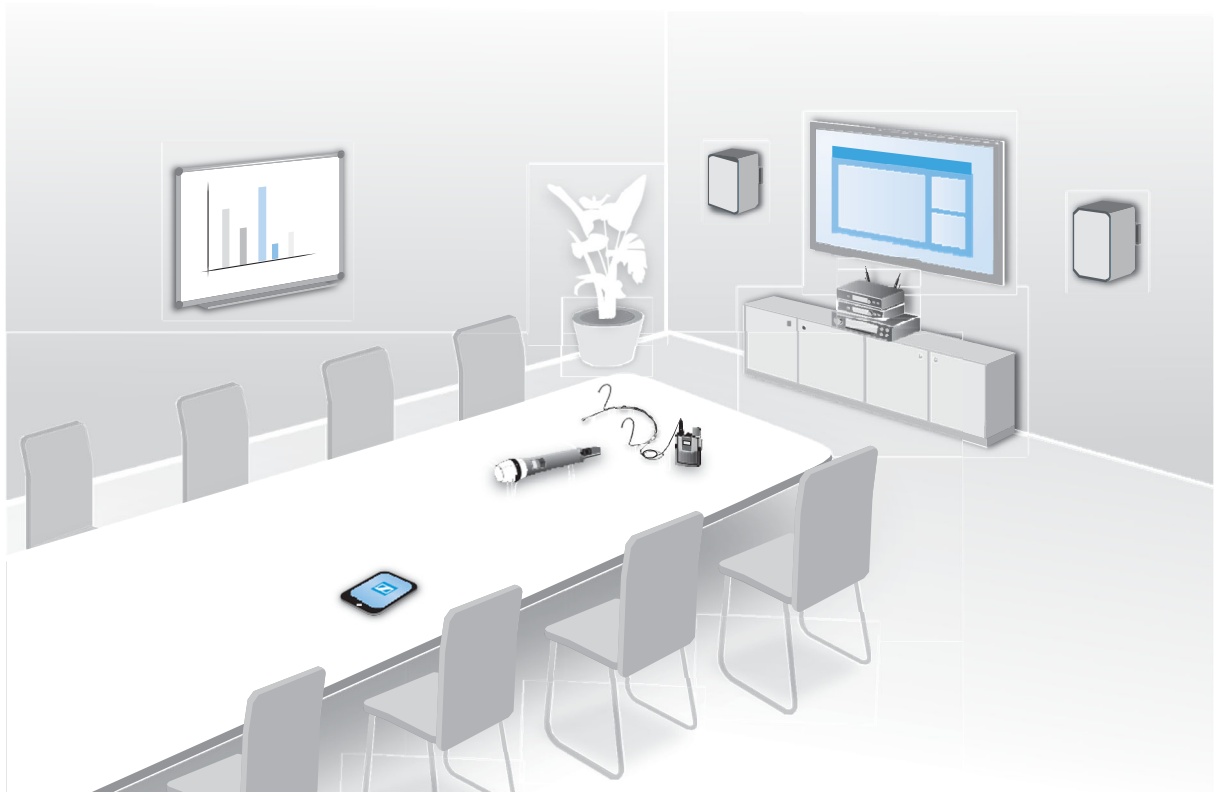
プレゼンテーション



大ホールや大規模会議室など、多数の聴衆を前にしたプレゼンテーションでは、話者の言葉が理解できることが不可欠です。話者がプレゼン中に歩き回ったり、聴衆から背を向けた場合でも、SpeechLine Digital Wirelessにより常に明瞭な音声が保たれます。



会議・ミーティング



プロフェッショナルな会議において、良好な音声明瞭度とマイクシステムの容易な操作性は重要な要件です。会議室や研修室が広ければ広いほど、音声明瞭度を高める音響システムの有用性は増します。特に大規模な会議室では、端に座った発言者の声が反対側では聞き取りにくい。発言者が個々の参加者に話しかけるなどして方向を変えるたびに、その反対方向では声が聞き取りにくくなる。SpeechLine Digital Wirelessは、発言者の移動の自由を制限しません。



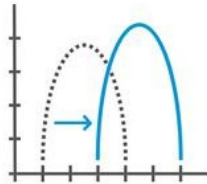
Web会議・オンラインミーティング



現代のオフィス環境において、国際チームの連携にはテレカンファレンスの重要性が増しています。電話だけでは会議室内の全参加者に十分な音声伝送を提供できないため、SpeechLine Digital Wirelessシステムは既存のテレカンファレンス装置（例：ゼンハイザー TeamConnectシステム）に容易に接続可能です。これにより音声信号が処理され、遠隔参加者と接続が確立されます。



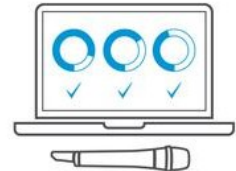
SpeechLine Digital Wirelessの特徴は？



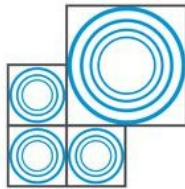
Automatic Frequency
Management



Automatic Interference
Management



Software Based
Status Monitoring



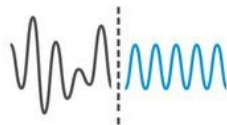
Multi-Room Mode



Dante™ Interface



Advanced 256-bit
AES Encryption



Automatic Audio Level
Management



Convenient
Recharging



Multichannel
Operation



Optimum Speech
Intelligibility



License-Free
Operation



Future-proof 1.9 GHz



自動周波数管理

SpeechLine Digital Wirelessは、空いている伝送周波数を自動で検出します。空いている周波数の検索に手動操作は不要です。これにより、ワイヤレスマイクと受信機は極めて短時間で使用可能になります：接続し、電源を入れるだけです。

送信機と受信機は工場出荷時にペアリング済みで、すぐに連携して動作します。必要に応じて、このペアリングはいつでも変更可能です。例えば、クリップ式マイクからハンドヘルド送信機への切り替え時などが該当します。複数の送信機を使用することも可能です。例えば、大学で各講師が各自のマイクを使用する場合などが挙げられます。

自動マイク感度調整

使用するマイクに合わせて入力感度を手動で調整する必要はなく、音声レベルは異なる話者に対して自動的に調整されます。さらに、男性声と女性声用に異なるサウンドプロファイルが定義されています。これにより、SpeechLine Digital Wirelessシリーズの高品質マイクは歪みなくその性能を最大限に発揮できます。

自動レベル管理

音声信号のレベルは自動的に最適に調整され、話者の声が明瞭に聞こえるようになっています。必要に応じて、受信機の出力レベルをミキシングコンソールやアンプの入力に合わせて手動で調整できます。

自動干渉管理

DECT電話などからの干渉信号に対して、システムは周波数を自動変更することで即座に対応します。これにより干渉や音声途切れを防ぎ、途切れない接続を保証します。自動周波数変更は、マイク使用者や聴衆には気づかれません。複数のスピーカーが同時に無線リンクを使用している場合、互いに干渉しないよう周波数が自動的に選択されます。新たに追加された無線リンクに対して周波数は即時適応され、進行中の伝送を妨げたり中断したりすることはありません。



将来性のある免許不要の音声伝送

SpeechLine Digital Wirelessは将来性のある1.9 GHz周波数帯で動作します。この帯域での伝送は、デジタルディペンデントの規制変更や周波数オークションの影響を受けません。さらに、この帯域の周波数は免許なしで利用可能です。SpeechLine Digital Wirelessなら、使用周波数帯の変更による新規オーディオ機器の購入リスクを心配する必要はありません。SpeechLine Digital Wirelessシステムの導入は、将来を見据えた投資です。

1.9 GHz周波数帯域を最適に活用するため、Speech-Line Digital Wirelessは2つの動作モードを提供します：最大20*のリンクを並列で使用する場合、アダプティブパワーモードにより極めて簡単な起動と信頼性の高い最大通信距離を確保します。マルチルームモードでは、送信電力を調整することで、より多くのリンクを接続することが可能です。これらの調整オプションにより、SpeechLine Digital Wirelessは同一施設内で設置規模が大きく異なる多様なプロジェクトに最適なソリューションとなります。

* 現地で承認されたバリエーションに依存します

盗聴防止オーディオ伝送

企業環境において、暗号化され盗聴防止された情報伝送は特に重要です。このため、SpeechLine Digital Wirelessシリーズの開発にあたり、265ビットAES暗号化を採用しました。無線伝送のセキュリティは、送信機と受信機が新たに接続されるたびに新しい鍵を生成することで確保されます。これにより、あらゆる会議やカンファレンスにおいて、送信機とペアリングされた受信機のみが音声信号を復号できることが保証されます。暗号化は無効化できないため、SpeechLine Digital Wirelessは常に安全です。

長いバッテリー寿命

動作中にバッテリーパックの交換や充電は不要です。バッテリー寿命は約15時間で、非常に長い会議日でも十分です。適応型送信電力によるインテリジェントなエネルギー管理がバッテリー寿命を最大化します。

バッテリーパックの充電には、送信機からの取り外しは不要です。ハンドヘルド型およびポケット型送信機用のオプション品「CHG 2」充電器、または付属のUSB充電ケーブルで直接充電が可能です。



ゼンハイザー Control Cockpit ソフトウェアによる簡単な制御

ゼンハイザー コントロールコックピットは、SpeechLine Digital Wirelessシステム全体の操作、制御、メンテナンスを容易にする中核ソフトウェアです。使いやすいゼンハイザー コントロールコックピットソフトウェアは、ネットワーク対応のSpeechLine Digital Wirelessデバイスを常に包括的に把握できます。すべてのステータス情報を一目で確認でき、1台または複数のデバイスの設定調整を同時に簡単に行えます。ルームオーバービューでは、全コンポーネントの位置情報と対応するステータス情報が連動表示されるため、ユーザーは特定のデバイスの設置場所と状態を常に把握できます。ゼンハイザー コントロール コックピットは、イントラネット内のあらゆる場所から、あらゆるプラットフォームのウェブブラウザ経由でアクセス可能です。その結果、数百台のデバイスからなる大規模なシステム構成でも、最小限の手間で管理することが可能となります。

www.sennheiser.com/control-cockpit-software



SpeechLine Digital Wirelessシリーズの製品

利用可能なアクセサリについては「アクセサリ」を参照してください。

SLラックレシーバー DWレシーバー



9.5インチラックレシーバー（SL Rack Receiver DW）は、SpeechLine Digital Wireless システムの核となる装置です。ラックレシーバーと送信機間の双方向通信により、すべての送信機設定をレシーバー上で調整可能です。レシーバーの自動周波数管理機能により手動での周波数設定が不要となり、自動干渉管理機能により最高の伝送信頼性が保証されます。使いやすいペアリング機能により、送信機と受信機間の信頼性の高い接続が確保されます。ネットワーク統合により、メディア制御システム（例：AMX、Crestron）またはゼンハイザーのControl Cockpitソフトウェアを使用して、受信機をリモート制御および監視できます。アンテナは受信機背面に設置するか、ラック前面に取り付けることが可能です。

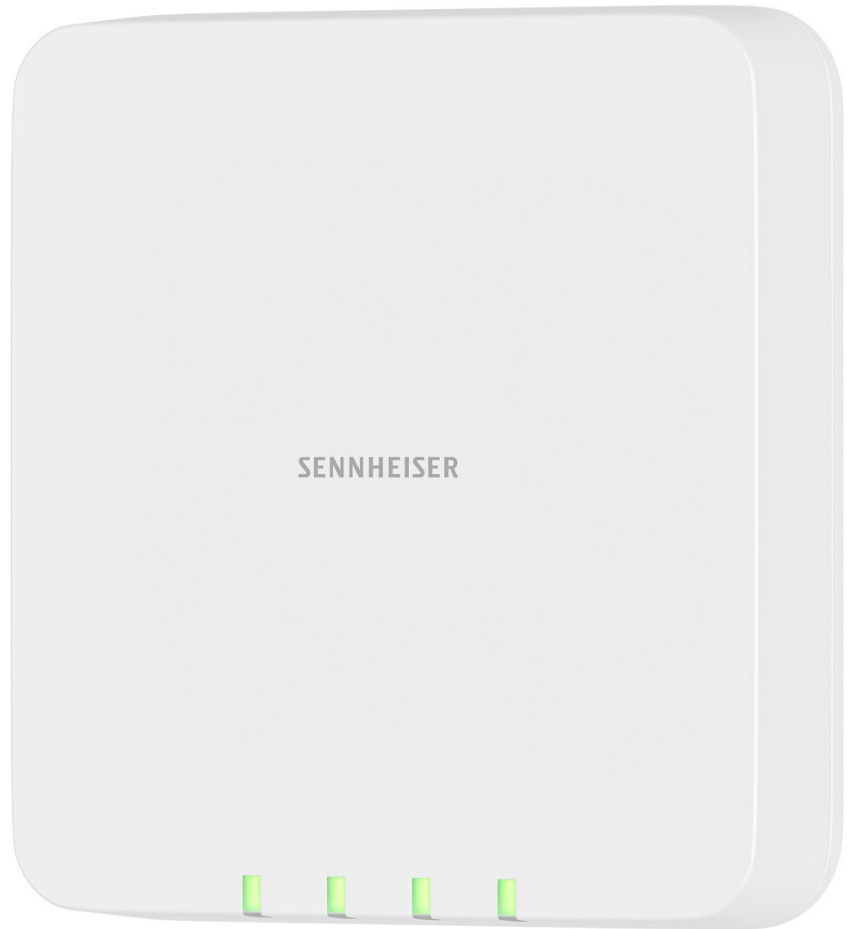


また、異なる長さのアンテナケーブルをアンテナを受信機から離れた場所に設置することも可能です。アンテナケーブルは別売アクセサリとしてご用意しています。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「SL Rack Receiver DW」を参照のこと



SL マルチチャンネルレシーバー DW



SpeechLineマルチチャンネルレシーバーは、2チャンネルまたは4チャンネル仕様で、SpeechLineシリーズに最適な追加機器です。目立たないデザインにより、壁面や天井など、あらゆる空間に迅速かつ容易に設置可能です。PoEおよびDante対応により、単一のネットワークケーブルで動作します。複雑なアナログオーディオ配線は過去のものとなりました。マルチチャンネルレシーバーは既存設備にも便利なソリューションを提供します。内蔵オートミキサーとアナログミックス出力により、全オーディオチャンネルを単純な合計信号として使用可能です。オーディオミックスはDante経由でデジタル出力も可能なため、DSP交換なしで既存システムを拡張できます。受信機と送信機間の双方向通信により、モバイル送信機の全設定をSennheiser Control Cockpitで容易に行えます。受信機の自動周波数管理機能により手動設定が不要となり、自動干渉管理が最高の伝送信頼性を保証します。ユーザーフレンドリーなペアリング機能で送信機と受信機の確実な接続を確保。ネットワーク統合により、メディア制御システム（例：AMX、Crestron）経由での受信機の遠隔制御・監視も可能です。内蔵アンテナにより複雑なアンテナ設置は不要となりました。



設置および操作に関する情報は取扱説明書「SL MCR DW」を参照



ハンドヘルド送信機



ハンドヘルド送信機（SL Handheld DW）は、インタビューや聴衆からの質問など、複数人が同時に話す場合に最適です。必要に応じてマイクカプセルを交換できます。ハンドヘルド送信機には高品質なMME 865-1マイクカプセルが付属します。MME 865-1は優れた存在感と高いフィードバック耐性を備え、特に音声用途向けに設計されています。

操作が簡単のため、スピーカーはすぐに使用でき、追加の説明は不要です。プレゼンテーション中のストレスのない話しを可能にし、不要な操作オプションによる注意散漫を防ぐため、ハンドヘルド送信機の機能は最小限に抑えられています。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「SLハンドヘルドDW」を参照のこと



ボディパック型送信機



コンパクトで頑丈なボディパック型送信機（SL Bodypack DW）は、すべてのゼンハイザー製ヘッドセットおよびクリップオンマイク（例：SL Headmic 1、MKE 1）と互換性があります。送信機と受信機間の双方向通信により、送信機側の設定調整は不要です。送信機のLCディスプレイには、リンク名、バッテリー状態、受信品質が表示されます。ボディパック送信機の機能は最小限に抑えられており、プレゼンテーション中のストレスのない話しを可能にし、不要な操作オプションで話者が気を散らされることがないように配慮されています。簡単にアクセスできるミュートスイッチにより、必要に応じて送信機をミュートできます。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「SL Bodypack DW」を参照してください。



ワイヤレスSLテーブルスタンド133-S DW



ワイヤレスSLテーブルスタンド133-S DWは、スピーチ用に設計されています。すべてのゼンハイザーXLR-3グースネックマイクと互換性があり、演壇での討論、スピーチ、プレゼンテーションに最適です。

ケーブルが一切不要なため、SL テーブルスタンド 133-S DW は非常に汎用性が高く、幅広い用途に適しています。

SL テーブルスタンド 133-S DW はワイヤレス充電または USB 経由で充電可能です。2 台のモバイルデバイス用ワイヤレス充電ベース CHG 2W は別売です。SL テーブルスタンド 133-S DW には最大 10 時間持続する充電式バッテリーが付属します。

ゼンハイザー コントロール コックピットソフトウェアを使用すると、ワイヤレステーブルスタンドを遠隔で監視および制御できます。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「SLテーブルスタンド133-S DW」を参照してください。



ワイヤレスSLテーブルスタンド153-S DW



ワイヤレス SL テーブルスタンド 153-S DW は、スピーチ用に設計されています。XLR-5 ソケットを装備しており、MEG 14-40-L-II B グースネックマイクへの有線接続が可能です。

完全ワイヤレス設計のため、SLテーブルスタンド153-DWはあらゆる環境での臨時の記者会見やパネルディスカッションに最適なソリューションです。

SL Tablestand 153-S DWは、ワイヤレスまたはUSB経由で充電可能です。2台のモバイルデバイス用ワイヤレス充電ベースCHG 2Wは別売です。SL Tablestand 153-S DWには専用の充電状態LEDが装備されており、バッテリー残量を明確に表示します。

Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用すると、SL Tablestand 153-S DWをリモートで監視・制御できます。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「SL Tablestand 153-S DW」をご参照ください。



ワイヤレス SL Boundary 114-S DW



ワイヤレス SL Boundary 114-S DW パウンダリーマイクは、スピーチ用に設計されています。

ケーブルが一切不要なため、SL Boundary 114-S DW は非常に汎用性が高く、幅広い用途に適しています。

SL Boundary 114-S DWは、ワイヤレスまたはUSB経由で充電可能です。2台のモバイルデバイス用ワイヤレス充電ベースCHG 2Wは別売です。SL Boundary 114-S DWには最大10時間持続する充電式バッテリーが付属します。

ワイヤレス境界マイクを遠隔で監視・制御するには、ゼンハイザー コントロール コックピットソフトウェアをご利用いただけます。

設置および操作に関する詳細は取扱説明書「SL Boundary 114-S DW」をご参照ください。



CHG 2充電器



CHG 2 充電器は、SpeechLine Digital Wireless シリーズの送信機を最大2台同時に充電できます。各充電スロットの2色LEDが現在の充電状態を表示します。ハンドヘルド型とボディバック型の両方の送信機を充電できるユニバーサル充電スロットを備えています。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「CHG 2 充電器」を参照してください。



CHG 4N充電器



CHG 4Nはネットワーク対応充電器で、4つの独立した充電スロットを備えています。これらのポートはSL Bodypack DWおよびSL Handheld DWに使用可能です。各充電スロットの4つのLEDが現在の充電状態を表示します。汎用性の高いネットワークインターフェースはIPv4およびIPv6に対応し、シームレスな統合を実現します。Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用すれば、設定やステータスメッセージの監視およびリモート制御が可能です。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「CHG 4N充電器」を参照してください



CHG 2W 充電ベース



CHG 2Wは便利なワイヤレス充電を提供する充電ベースです。

CHG 2W 充電ベースは、SL テーブルスタンド 133-S DW、SL テーブルスタンド 153-S DW、SL バウンダリー 114-S DW と互換性があります。

設置および操作に関する情報は、取扱説明書「CHG 2W 充電ベース」をご覧ください。



アクセサリ

SpeechLine デジタルワイヤレスシリーズには、さまざまなアクセサリパーツをご用意しています。

クリップオンマイクおよびヘッドセットマイク



MKE 1 クリップオンマイクは、マイククリップまたは粘着テープで衣服に取り付けます。SL Headmic 1 ヘッドセットマイクは、首に巻く調整可能なフレームを備えたヘッドウェア型マイクです。目立たないデザインのマイクにより、聴衆は話者に集中できます。マイクはボディバック送信機に接続されるため、話者は完全に自由に動き回ることができます。

設置および操作に関する情報は、取扱説明書「SL Headmic 1 ヘッドセットマイク」および「MKE 1 クリップオンマイク」を参照してください。



AWM 2 アンテナ壁掛けマウント

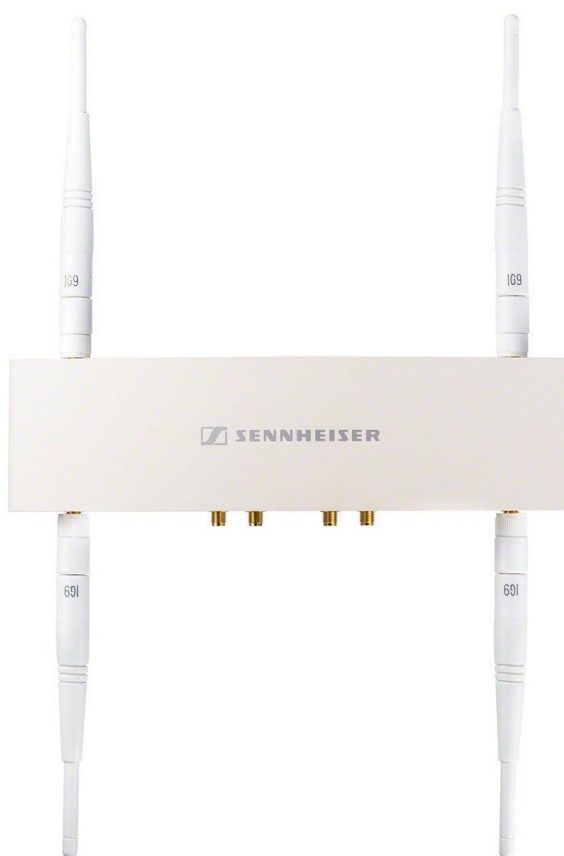


AWM 2 アンテナ壁掛けマウントを使用すると、アンテナを受信機から離れた位置に設置できます（例：受信機を目立たない場所に設置する必要がある場合、または受信機の位置が最適な受信状態を得るためのアンテナ設置位置にない場合）。AWM 2 はマイクスタンドに簡単に取り付けられるほか、壁への恒久設置も可能です。

設置および操作に関する情報は取扱説明書「AWM 2 アンテナ壁掛けマウント」をご参照ください



AWM 4 アンテナ壁掛けマウント



AWM 4アンテナ壁掛けマウントを使用すると、アンテナを受信機から離れた位置に設置できます。これにより、最適な位置に配置でき、ほとんど目立たなくなります（例：受信機を目立たない場所に設置する必要がある場合、または受信機の位置が受信状態を最適化するアンテナ位置として不適切な場合）。AWM 4はマイクスタンドに簡単に取り付けられるほか、壁に恒久的に設置することも可能です。

設置および操作に関する詳細は取扱説明書「AWM 4 アンテナ壁掛けマウント」をご参照ください。



SL PASC 2 パッシブアンテナスプリッター

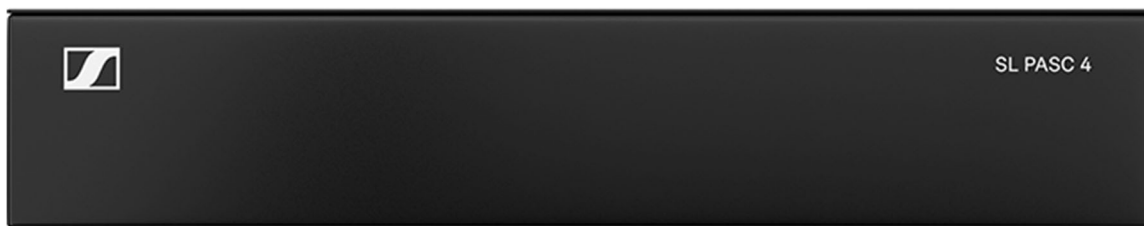


SL PASC 2は、SpeechLine Digital Wirelessマイクロホンシリーズ用のパッシブ2ウェイ真のダイバーシティアンテナスプリッター/コンバイナーです。最大2つのSpeechLine Digital Wireless無線リンクからのアンテナ信号を分配するために使用されます。AWM 2またはAWM 4リモートアンテナと組み合わせることで、必要なアンテナケーブルの数を最小限に抑えます。 ラック受信機は付属のSMA-Rケーブルを使用してSL PASC 2に接続します。

設置および操作に関する情報は、取扱説明書「SL PASC 2 パッシブアンテナスプリッター/コンバイナー」を参照してください。



SL PASC 4 パッシブアンテナスプリッター



SL PASC 4は、SpeechLine Digital Wirelessマイクロホンシリーズ用のパッシブ4ウェイ真のダイバーシティアンテナスプリッター/コンバイナーです。最大4つのSpeechLine Digital Wireless無線リンクからのアンテナ信号を分配するために使用されます。AWM 2またはAWM 4リモートアンテナと組み合わせることで、必要なアンテナケーブルの数を最小限に抑えます。 ラック受信機は付属のSMA-Rケーブルを使用してSL PASC 4に接続します。

設置および操作に関する情報は、取扱説明書「SL PASC 4 パッシブアンテナスプリッター/コンバイナー」を参照してください。



アンテナケーブル

- CL 5、AWM 2用R-SMAアンテナケーブル、5m、品番505976
 - CL 10、AWM 2用R-SMAアンテナケーブル、10m、品番506263
 - CL 20、AWM 2用R-SMAアンテナケーブル、20m、品番506264
-
- CL 1 PP、AWM 4用R-SMAアンテナケーブル、1 m、品番 507425
 - CL 5 PP、AWM 4 用 R-SMA アンテナケーブル、5 m、商品番号 507426
 - CL 10 PP、AWM 4用R-SMAアンテナケーブル、10m、品番507427
 - CL 20 PP、AWM 4用R-SMAアンテナケーブル、20m、品番507428



システムプランニング

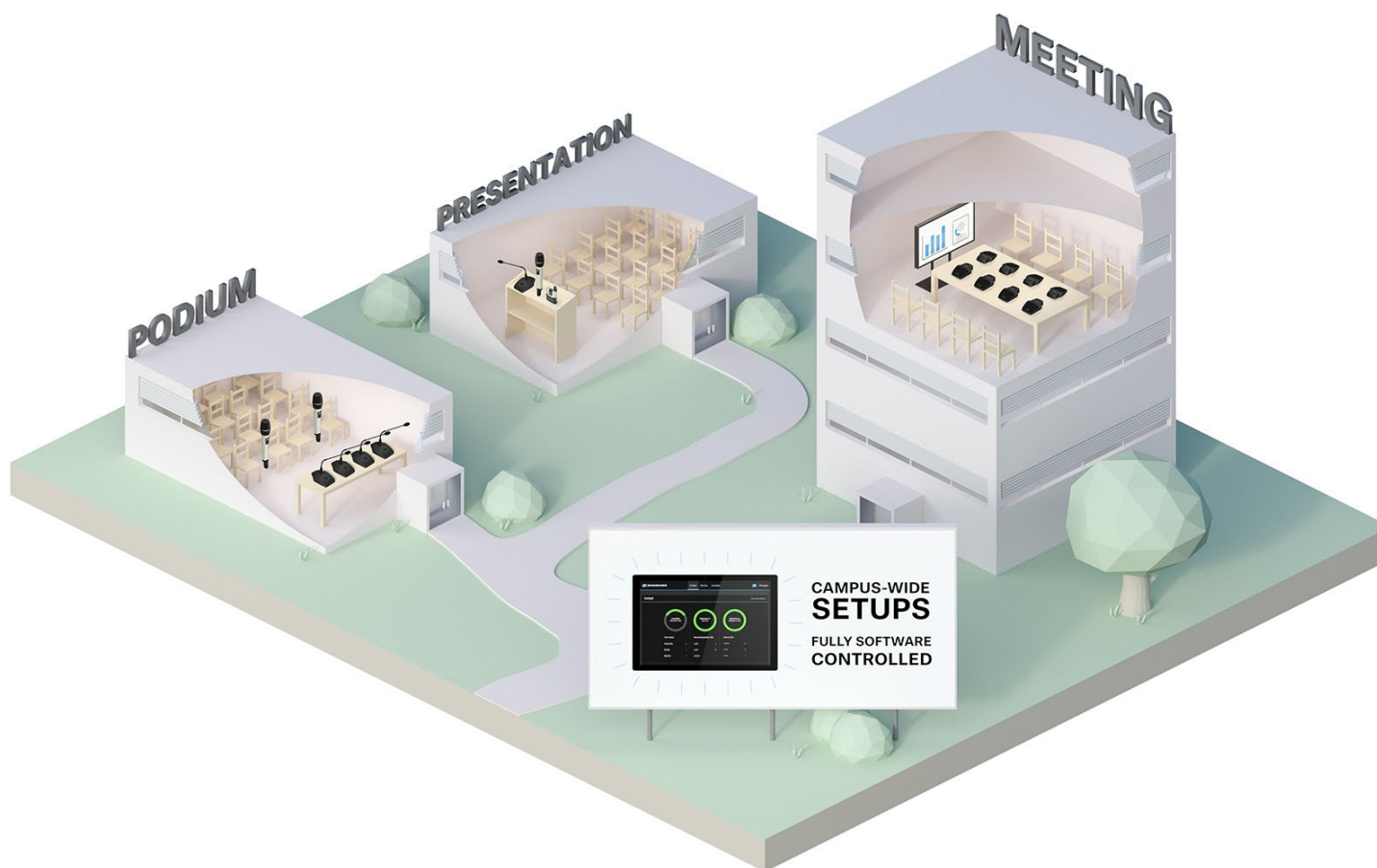
SpeechLine Digital Wireless: システム計画

本ドキュメントのこのセクションには、システム計画に役立つ情報が記載されています：

計画準備：国別の周波数バリエーションに関する重要な情報、送信電力の適切な使用、および空間利用に関する推奨事項。→ 「計画」

アンテナの使用：アンテナの設置および使用時に考慮すべき重要な情報。→ 「アンテナ設置に関する推奨事項」

マルチルームモード：同一建物内の複数部屋でSpeechLine Digital Wirelessを使用する場合の重要な情報。→ 「マルチルームモード」



ワイヤレスオーディオシステムの設置計画を立てる際には、設置対象となる部屋の数や規模、導入予定のワイヤレスマイクリンク数など、考慮すべき点がいくつかあります。

これらの要素は、プロジェクトの規模に関わらず極めて重要です。本ドキュメントでは、SpeechLine Digital Wirelessの設置計画を進める際のアドバイスを提供します。

計画ツール

計画をさらに容易にするため、www.sennheiser.com/speechline-dw の SpeechLine Digital Wireless 製品ページで計画ツールを提供しています。

SpeechLine Digital Wireless 製品ページ



計画

計画の開始時には、以下の点を考慮する必要があります。

国別モデル

SpeechLine Digital Wireless のどの国別バリエーションがお客様の地域に適しているかを確認してください。以下の 8 つの国別バリエーションが利用可能です。

使用する国別バリエーションにより、1.9 GHz周波数帯で使用可能な1レンジあたりの最大リンク数が決定されます。

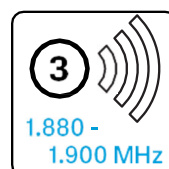
-3 EU バリエーション:



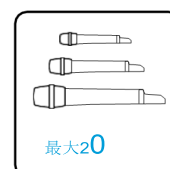
主な国と地域



電源



周波数範囲



受信範囲あたりの無線
リンク数

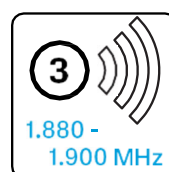
-3 英国仕様:



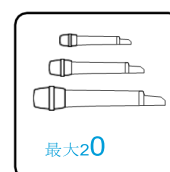
主な国と地域



電源



周波数範囲

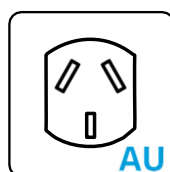


受信範囲あたりの無線
リンク数

-3 AU バリエーション:



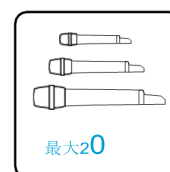
主な国と地域



電源



周波数範囲



受信範囲あたりの無線
リンク数



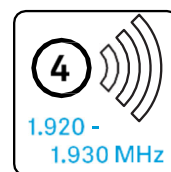
-4 EU仕様:



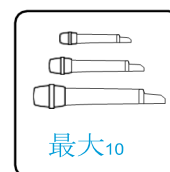
主な国と地域



電源



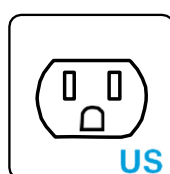
周波数範囲

受信範囲あたりの無線
リンク数

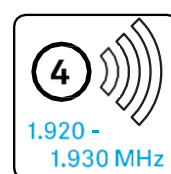
-4 米国仕様:



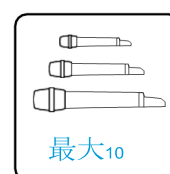
主な国と地域



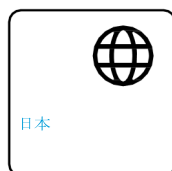
電源



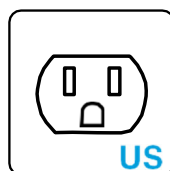
周波数範囲

受信範囲あたりの無線
リンク数

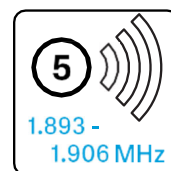
-5 米国仕様:



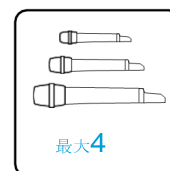
主な国と地域



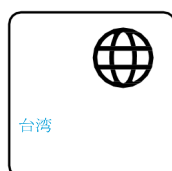
電源



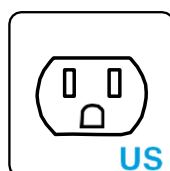
周波数範囲

受信範囲あたりの無線
リンク数

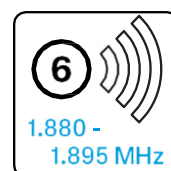
-6 米国仕様:



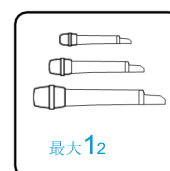
主な国と地域



電源



周波数範囲

受信範囲あたりの無線
リンク数

-7 EU仕様:



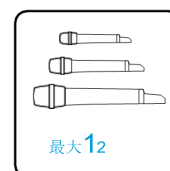
主な国と地域



電源



周波数範囲



受信範囲あたりの無線
リンク数



部屋の数とサイズ

- ▷ 設置に必要な部屋数を決定する。
- ▷ 各個室の設備内容と使用方法を決定する。
- ▷ 各部屋に必要なオーディオ機器、すなわちSpeechLine Digital Wirelessリンクの希望台数を決定する。
- ▷ 1.9 GHz周波数帯を使用している他の機器（例：DECT機器）がないか確認する。
- ▷ 現場で使用する1.9 GHz機器の数が利用可能なスペクトルを超えないことを再確認してください（「1.9 GHz周波数帯の共有利用」を参照）。



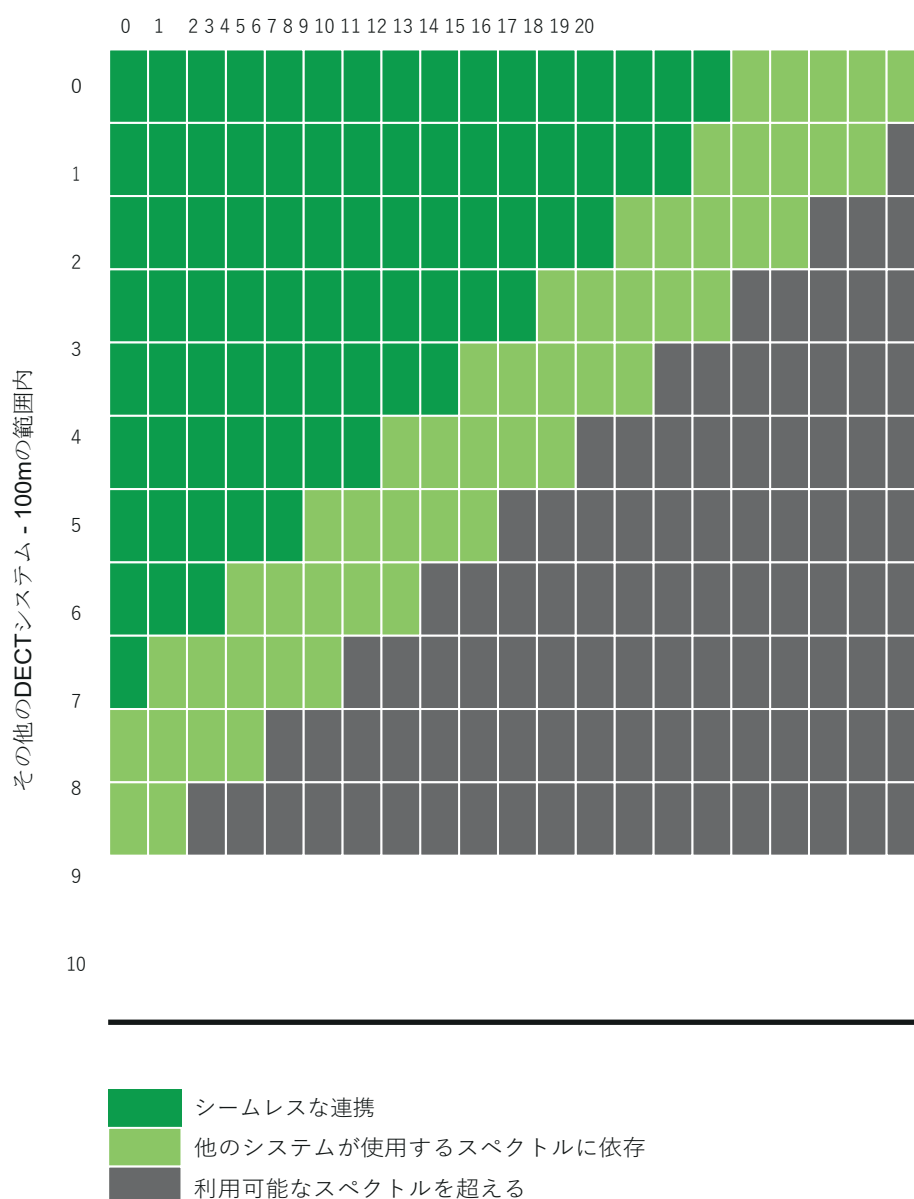
1.9 GHz周波数帯域の共有利用

SpeechLine Digital Wireless を 1.9 GHz 周波数帯を使用する他のデバイス（Sennheiser TeamConnect Wireless や DECT 電話など）と組み合わせて使用する場合、SpeechLine Digital Wireless リンクの最大数は、使用する他のデバイスの数によって異なります。

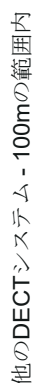
以下の表は、国ごとの条件に基づくシステムの組み合わせを示しています（「国別バリエーション」も参照）。

ヨーロッパ、インドネシア、インド、英国、香港、シンガポール、マレーシア、オーストラリア

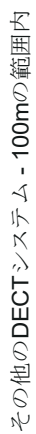
SpeechLine Digital Wireless リンク - 範囲ごと（調整可能）



SpeechLine デジタルワイヤレスリンク - 範囲ごと（調整可能）



SpeechLine デジタルワイヤレスリンク - 範囲ごと
(調整可能)





環境条件の分析

SpeechLine Digital Wirelessシステムの設置計画を立てる際には、環境条件も慎重に分析する必要があります。既に他の1.9 GHz機器（例：DECT電話機やDECTアクセスポイント）が設置されていませんか？

設置計画時には以下の点に留意してください

- ▷ DECTアクセスポイント（例：DECT電話システム用）の位置を確認してください。また、「1.9 GHz周波数帯の共有利用」に記載されている情報にも注意してください。

- ▷ 設置タイプを決定する（例：マイク受信機の設置場所と方法）。

- ▷ アンテナをレシーバーから離れた場所に設置するかどうかを決定してください。アンテナを遠隔設置する場合、ケーブル長による損失の可能性も考慮してください。「アンテナ設置に関する推奨事項」も参照してください。

- ▷ リモートアンテナを設置する際は、次のDECTアクセスポイントから最低3mの距離を保ってください。

- ▷ ネットワーク制御を非常に簡素化するため、受信機をネットワークに接続するにはネットワークスイッチの使用を推奨します。



アンテナ設置に関する推奨事項

アンテナ設置時には様々な要素を考慮する必要があります。本章では、アンテナ設置時に従うべき手順と推奨事項を説明します。

SpeechLine Digital Wireless のアンテナ設定と計画

各室へのSpeechLine Digital Wirelessデバイスの設置計画を立てる際には、以下のガイドラインに従ってください。

- ▷ SpeechLine Digital Wireless のレシーバーはすべて 1 つのラックにまとめて取り付けてください。
- ▷ 送信機と受信アンテナの間に直接的な見通しを確保してください。
- ▷ 部屋の特性に応じて、受信アンテナの設置方法にはいくつかの選択肢があります。以下の順序で推奨します：
 - オプション1：AWM 2（受信機1台用）またはAWM 4（受信機2台用）を使用した遠隔設置。 >> 「オプション1：AWM 2またはAWM 4アンテナ壁掛けマウントを直接受信機（複数可）に接続」
 - オプション2：AWM 2またはAWM 4を使用してリモート設置し、アンテナスプリッター（パッシブスプリッター SL PASC 2またはSL PASC 4）で複数の受信機を組み合わせる。 >> 「オプション2：複数のリンクを1台のAWM 2/AWM 4に統合」
 - オプション3：ラック（前面）への設置。 >> 「オプション3：ラック設置 - 前面」
 - オプション4：ラック（背面）への設置。 >> 「オプション4：ラック設置 - 背面」
- ▷ アンテナを遠隔設置する場合、既存のDECTアクセスポイントとの最小距離を遵守し、ケーブル長も考慮してください。
- ▷ システムの最適な性能を発揮させるため、すべての受信機は共通の電源装置（例：中央にオン/オフスイッチを備えたマルチコンセント電源タップ）で一括して電源のオン/オフを行ってください。



4種類のアンテナ取り付けオプションに関する詳細は、「アンテナ取り付けオプション」をご参照ください。



アンテナ取り付けオプション

アンテナを遠隔設置する方法は複数あります。以下の4つのオプションを、指定された順序で推奨します。

>> 「オプション1：AWM 2またはAWM 4アンテナ壁掛けマウントを直接受信機へ接続」

>> 「オプション2：複数のリンクを1台のAWM 2/AWM 4に統合」

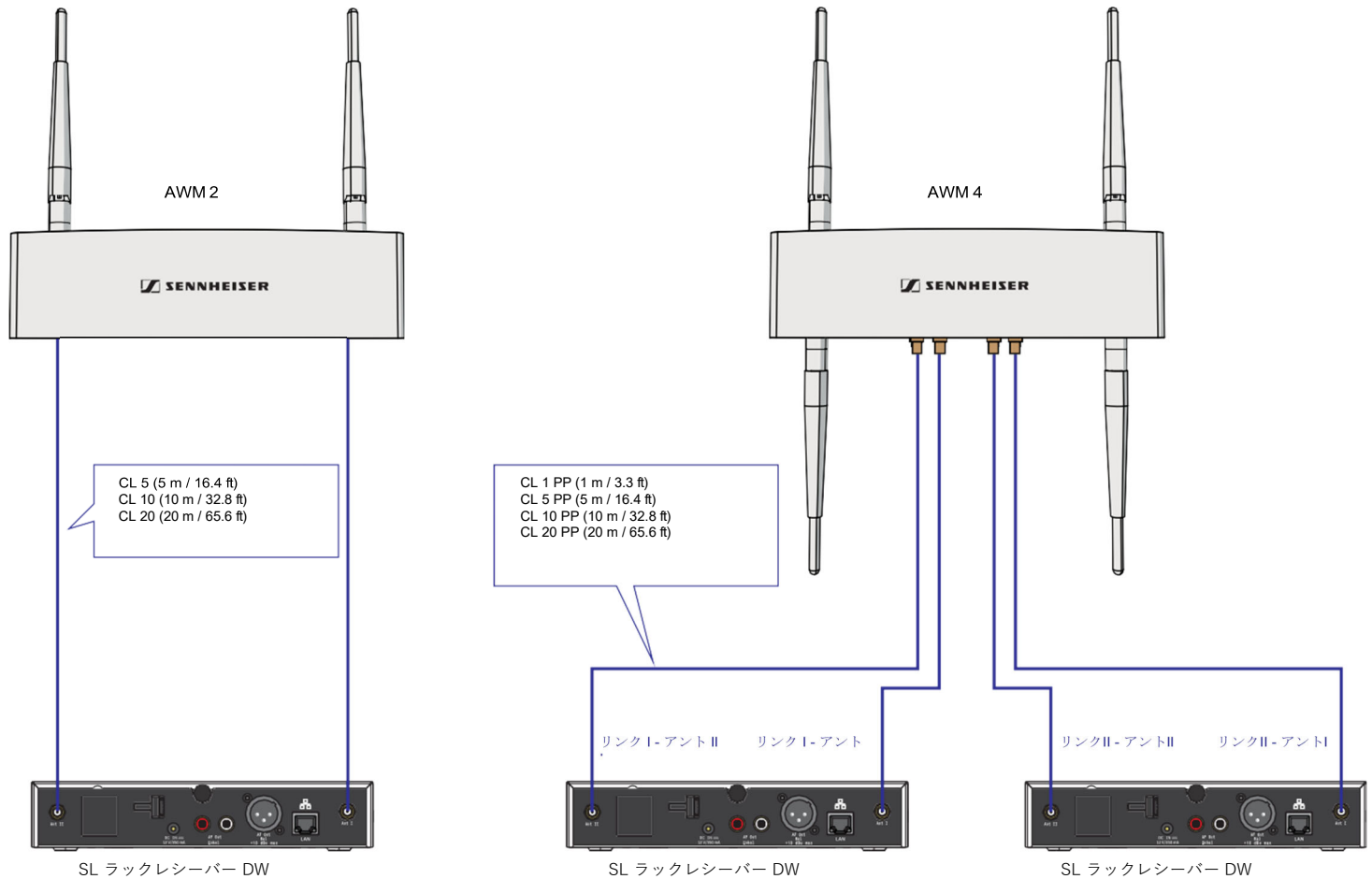
>> 「オプション3：ラックマウント - 前面」

>> 「オプション4：ラックマウント - 背面」



オプション1：AWM 2またはAWM 4アンテナ壁掛けマウントを直接受信機（複数可）に接続する

1台の受信機を1台のAWM 2アンテナ壁掛けマウントに直接接続するか、2台の受信機を1台のAWM 4アンテナ壁掛けマウントに直接接続できます。



- AWM 2 には、ゼンハイザーの延長ケーブルを使用できます
CL 5/10/20 を使用できます。
- AWM 4 には、Sennheiser 延長ケーブルを使用できます
CL 1/5/10/20 PP を使用できます。

延長ケーブル使用時の注意事項：

延長ケーブルによる信号損失

このシナリオでは、延長ケーブルを使用してアンテナを遠隔設置すると、ケーブルの長さに応じて送信電力が低下します。

受信機を送信電力を適切に設定することで、この信号損失を補償できます。



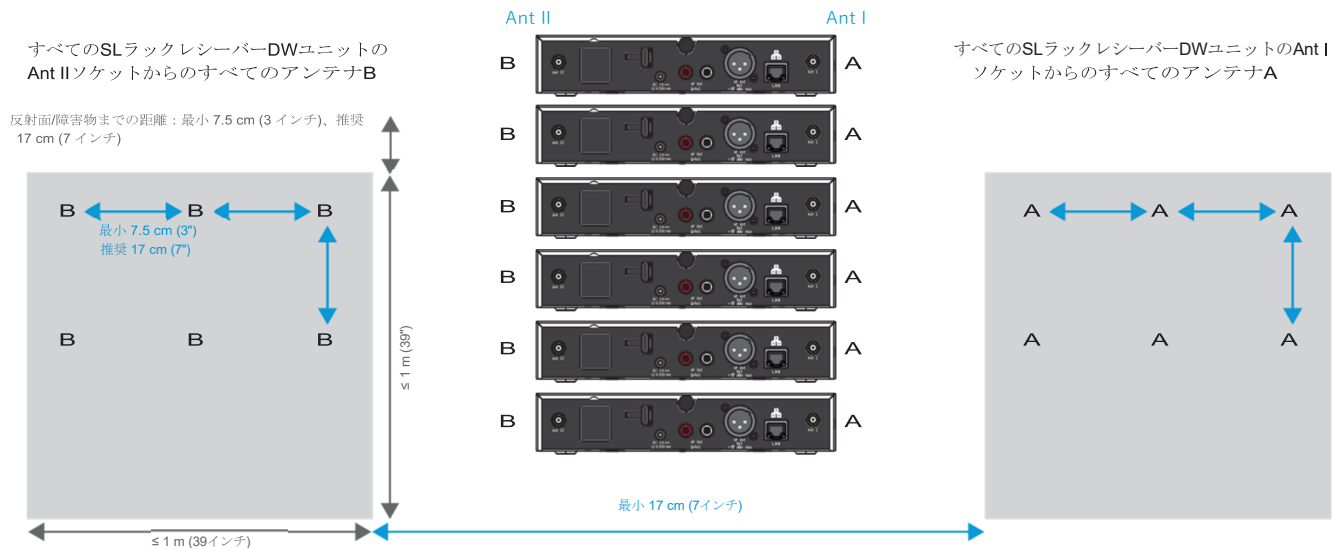
(SL Rack Receiver DW：システム設定メニュー → RF出力) を遵守してください：

- ケーブル長 5 m → レベル 1 以上
- ケーブル長 10 m → 選択レベル+1、最低レベル 2
- ケーブル長 20 m → 選択レベル+1、最低レベル 3
- ケーブル長 25 m 以上 → 選択レベル+2、最低レベル 4

リモートアンテナの距離と見通し距離

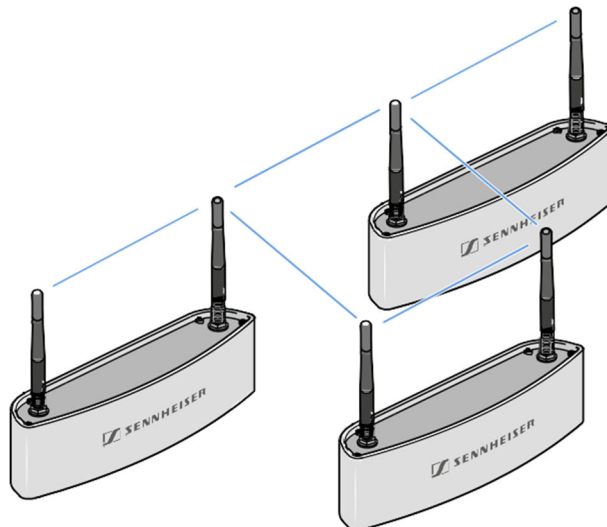
1つの部屋で複数のアンテナ壁掛けマウント (AWM 2/AWM 4) を使用する場合、またはアンテナを個別に設置・取り付けする場合、以下の点に注意してください：

- ▷ 全てのアンテナを可能な限り互いに近接させて配置してください。
- ▷ 全てのアンテナ間の距離が均等で、受信機背面またはAWM 2アンテナ壁掛けマウントに記載の距離と同一であることを確認してください。
- ▷ 可能であれば、アンテナを以下のようにグループ化してください：
 - 受信機のANT Iソケットからの全Aアンテナを、前述の要件に従って1つのグループにまとめる
 - 受信機のANT IIソケットからのBアンテナを全て、前述の要件に従って1つのグループにまとめる

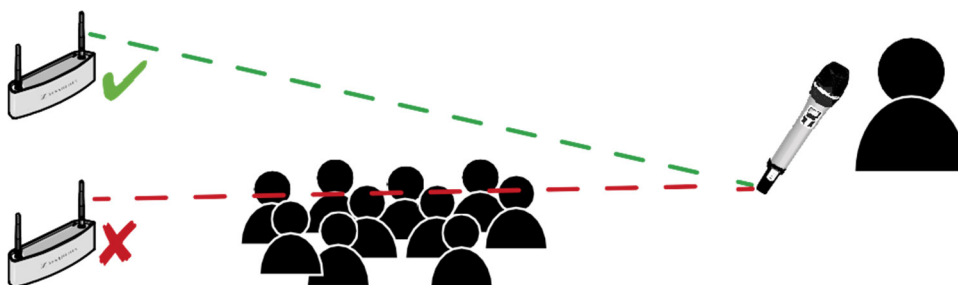




- ▷ 複数のAWM 2/AWM 4アンテナ壁掛けマウントを使用する場合、すべてのアンテナ間の距離が等しくなるようにしてください：



- ▷ 可能であれば、送信機とアンテナの間に障害物がない直線視界を確保するようにアンテナを配置してください。



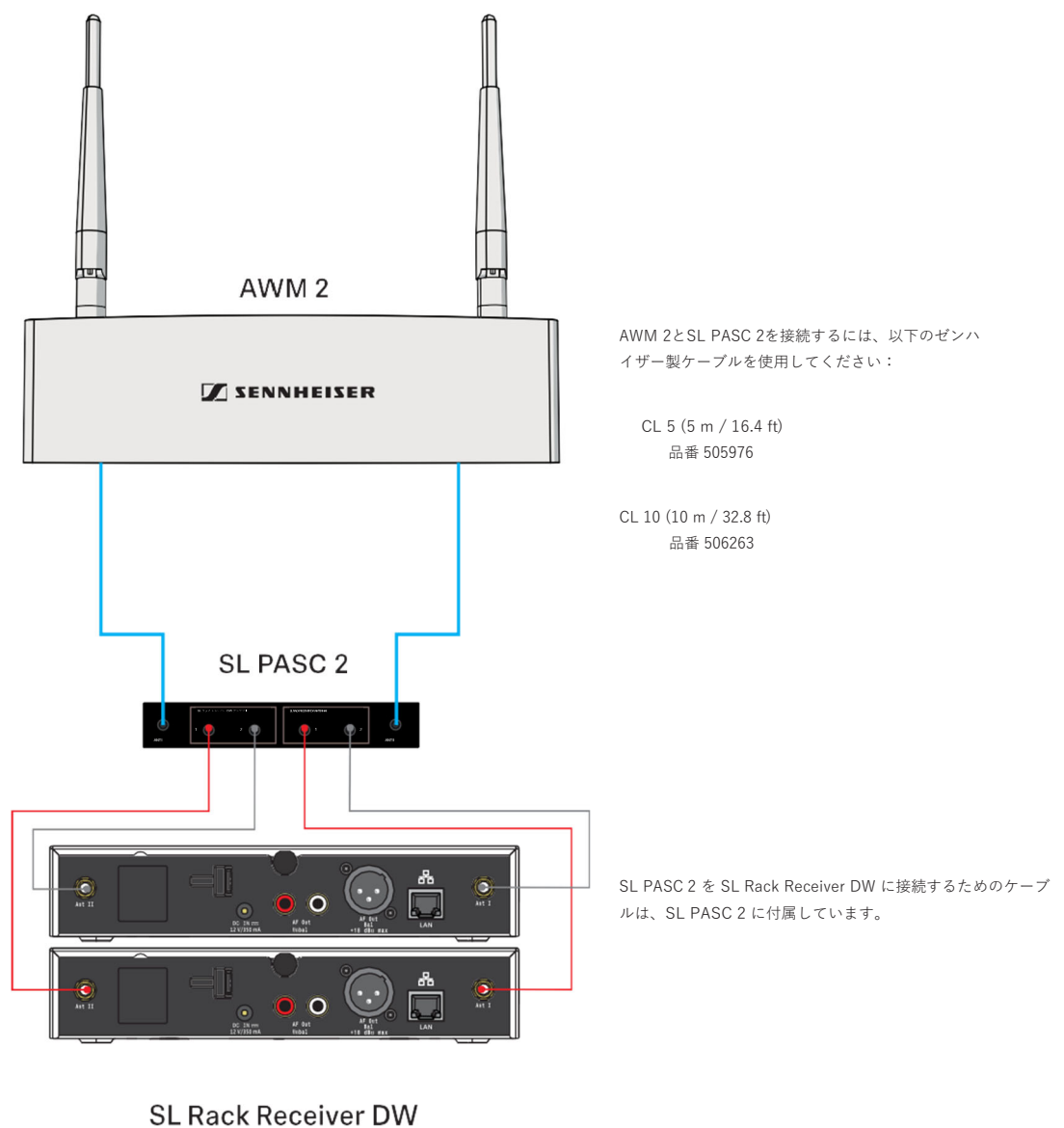


オプション2：複数のリンクを1台のAWM 2/AWM 4に集約

この方法では、パッシブアンテナスプリッター（SL PASC 2 または SL PASC 4）を AWM 2 または AWM 4 と組み合わせて使用し、複数の受信機からのアンテナ信号を結合できます。これにより、必要なアンテナケーブルの数を最小限に抑えられます。

AWM 2 と SL PASC 2 を使用した最大 2 リンクの組み合わせ

以下の図は、1台のAWM 2アンテナ壁掛けマウントで最大2つのリンクを結合する例を示しています。これにより、必要なアンテナケーブルの数が4本から2本に削減されます。

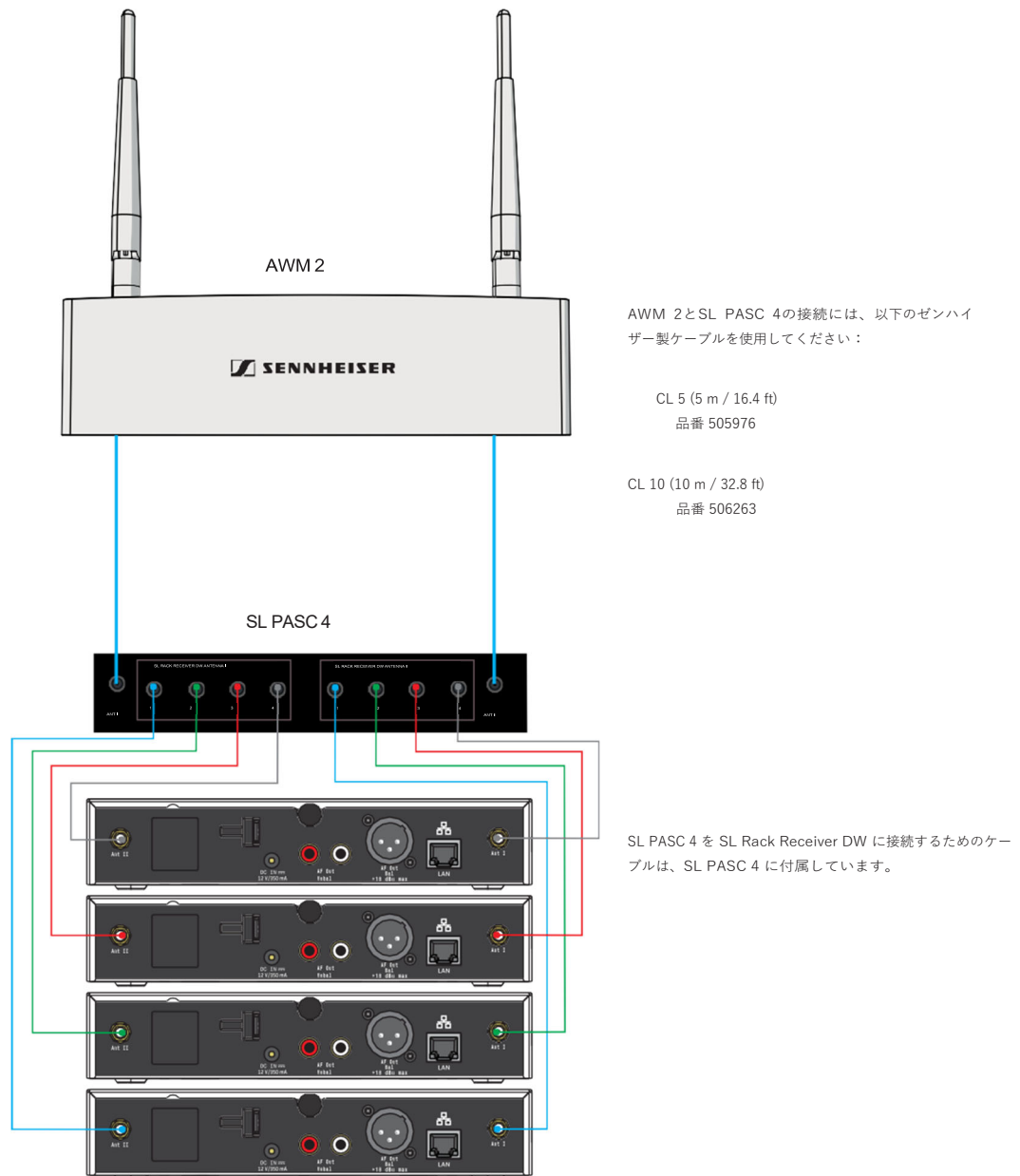


▷ 延長ケーブルの長さに関する以下の情報（「延長ケーブルおよびアンテナスプリッターによる信号損失」）を必ずお守りください。



AWM 2 および SL PASC 4 を使用した最大4リンクの組み合わせ

以下の図は、1台のAWM 2アンテナ壁掛けマウントで最大4つのリンクを組み合わせる例を示しています。これにより、必要なアンテナケーブルの数が8本から2本に削減されます。



SL Rack Receiver DW

▷ 延長ケーブルの長さに関する以下の情報（「延長ケーブルおよびアンテナスプリッターによる信号損失」）にご注意ください。



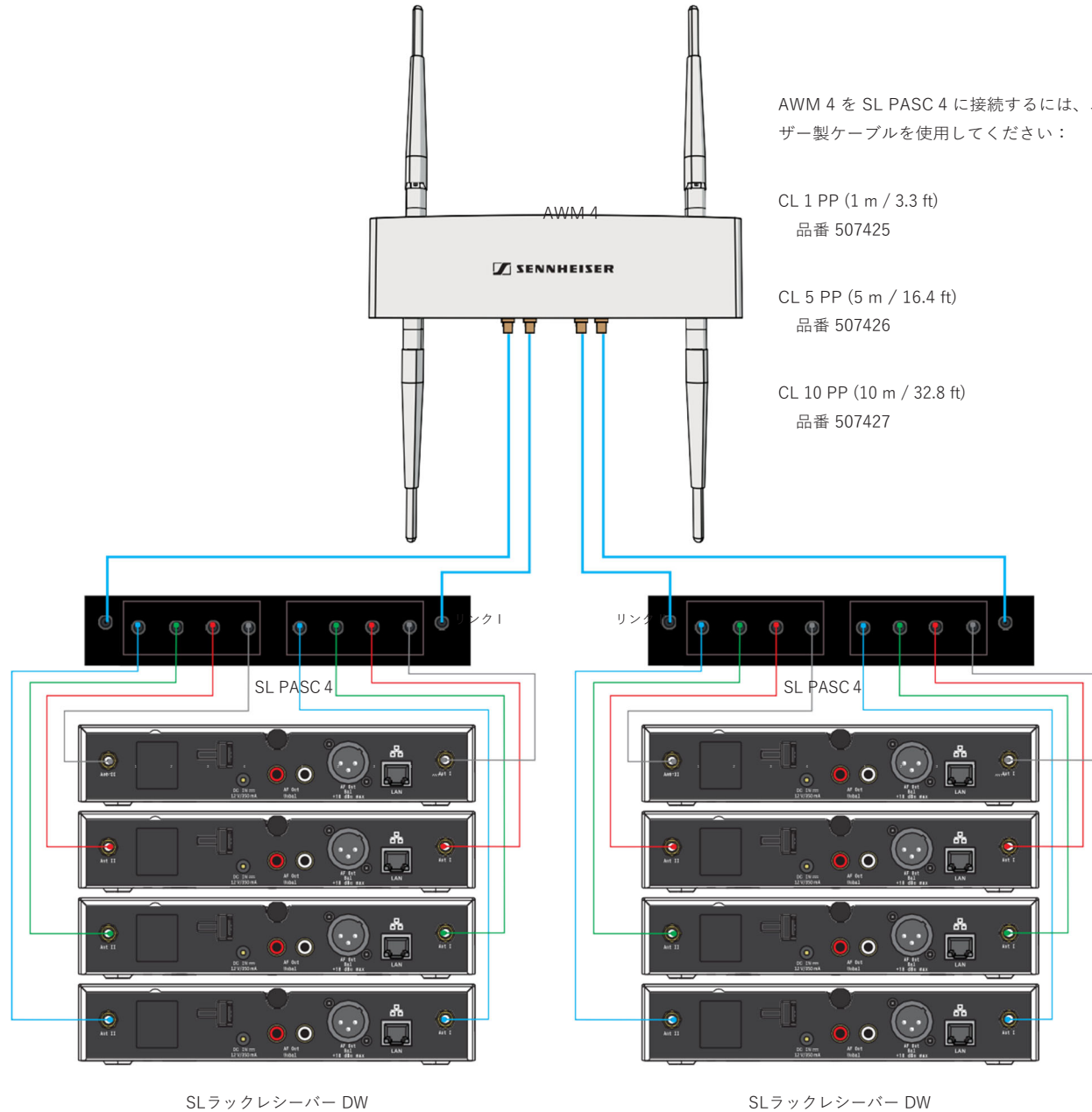
すべての受信機のアンテナソケットANT Iと、すべての受信機のアンテナソケットANT IIをそれぞれAWM 2の2本のアンテナのいずれかに必ず接続してください。

アンテナスプリッターの4つの接続のうち3つしか使用しない場合は、干渉信号を最小限に抑え、伝送電力を最大化するために、未使用の接続を終端抵抗（50 Ω）で閉じる必要があります。



AWM 4と2台のSL PASC 4ユニットを使用した最大8リンクの結合

以下の図は、1台のAWM 4アンテナ壁掛けユニットで最大8つのリンクを結合する例を示しています。これにより、必要なアンテナケーブルの数が16本から4本に削減されます。



SL PASC 4 を SL ラックレシーバー DW に接続するためのケーブルは、SL PASC 4 に付属しています。

▷ 延長ケーブルの長さに関する以下の情報（「延長ケーブルおよびアンテナスプリッターによる信号損失」）にご注意ください。



最大4台の受信機のANT Iアンテナソケットと、最大4台の受信機のANT IIアンテナソケットを、それぞれ1つのリンクの2つのソケットに必ず接続してください。AWM 4. アンテナスプリッターの全接続を使用しない場合は、未使用の接続を終端抵抗（50 Ω）で閉じ、干渉信号を最小限に抑え、伝送電力を最大化してください。



延長ケーブルおよびアンテナスプリッターによる信号損失

このシナリオでは、ケーブルの長さに応じて、延長ケーブルやアンテナスプリッターの使用、およびリモート設置されたアンテナによって、送信電力の損失が生じる可能性があります。

受信機の送信電力を適切に設定することで、この信号損失を補償できます。各ケーブル長に対応する最小送信電力設定（SLラック受信機DW：システム設定メニュー→RFパワー）を遵守してください。アンテナスプリッターは、約15mのケーブル長に相当する信号損失を引き起こします。これらの損失は送信電力レベルの計算に含める必要があります。

アンテナスプリッターとの組み合わせで推奨するケーブル長は以下の通りです：

- レシーバーからスプリッター：1 m → スプリッターからAWM 2/4：1 m
- 受信機からスプリッター：1 m → スプリッターからAWM 2/4：5 m
- レシーバーからスプリッター：1 m → スプリッターからAWM 2/4：10 m
- レシーバーからスプリッターへ：5 m → スプリッターから AWM 2/4 へ：1 m
- レシーバーからスプリッターへ：5 m → スプリッターから AWM 2/4 へ：5 m
- レシーバーからスプリッターまで：10 m → スプリッターから AWM 2/4 まで：1 m



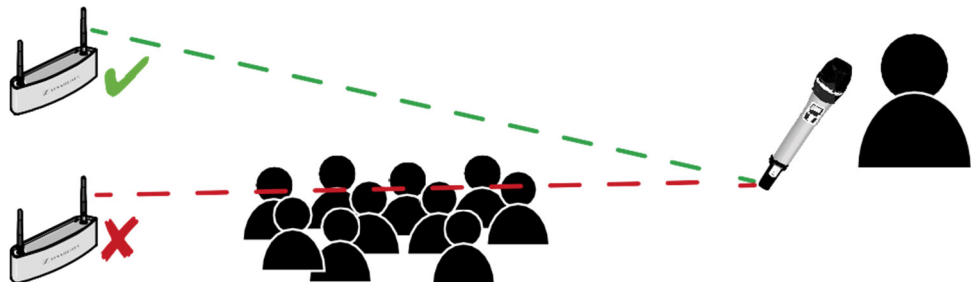
このバリエーションでは、10 mを超えるケーブルの使用は推奨されません。

これにより、受信機のメニューまたはゼンハイザー・コントロール・コックピットソフトウェアで全受信機を同時に設定する送信電力レベルは以下の通りとなります：

- 5mケーブル長+スプリッター → レベル2以上
- 10 mケーブル長+スプリッター → レベル3以上

直接視界

▷ 可能であれば、送信機とアンテナの間に障害物がない直線視界を確保するようにアンテナを配置してください。

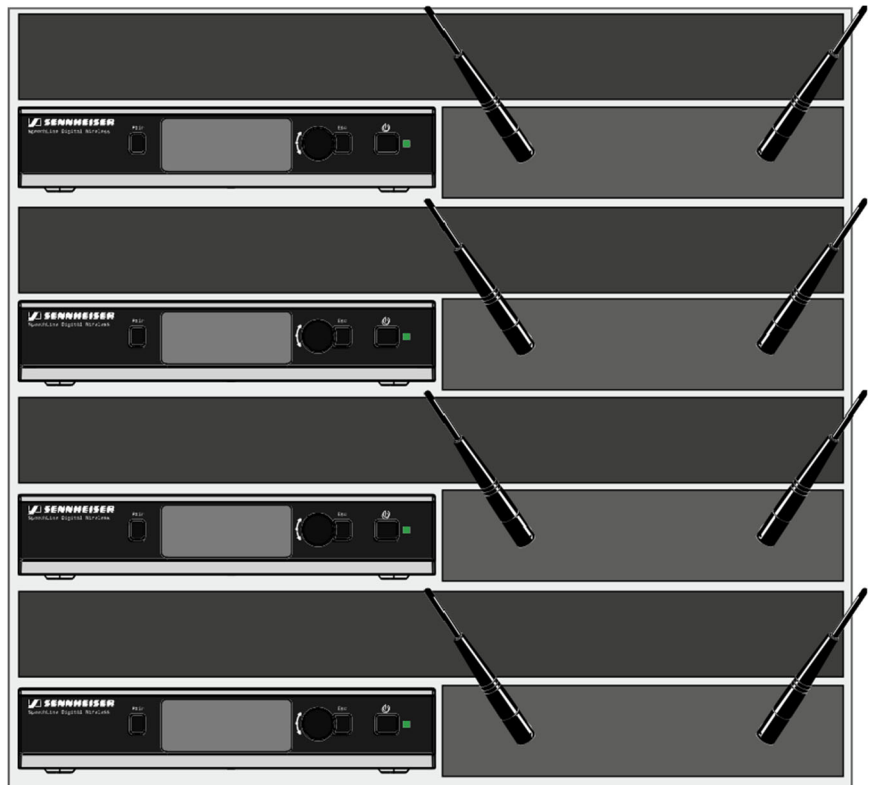




オプション3：ラックマウント - 前面

アンテナと受信機をラックと一緒に設置する場合は、GA 4 取り付けキットを使用してアンテナをラックの前面に取り付けることをお勧めします。

- ▷ 受信機とアンテナの間には常に1Uのスペースを確保してください。
- ▷ アンテナは約45° の角度で設置してください。

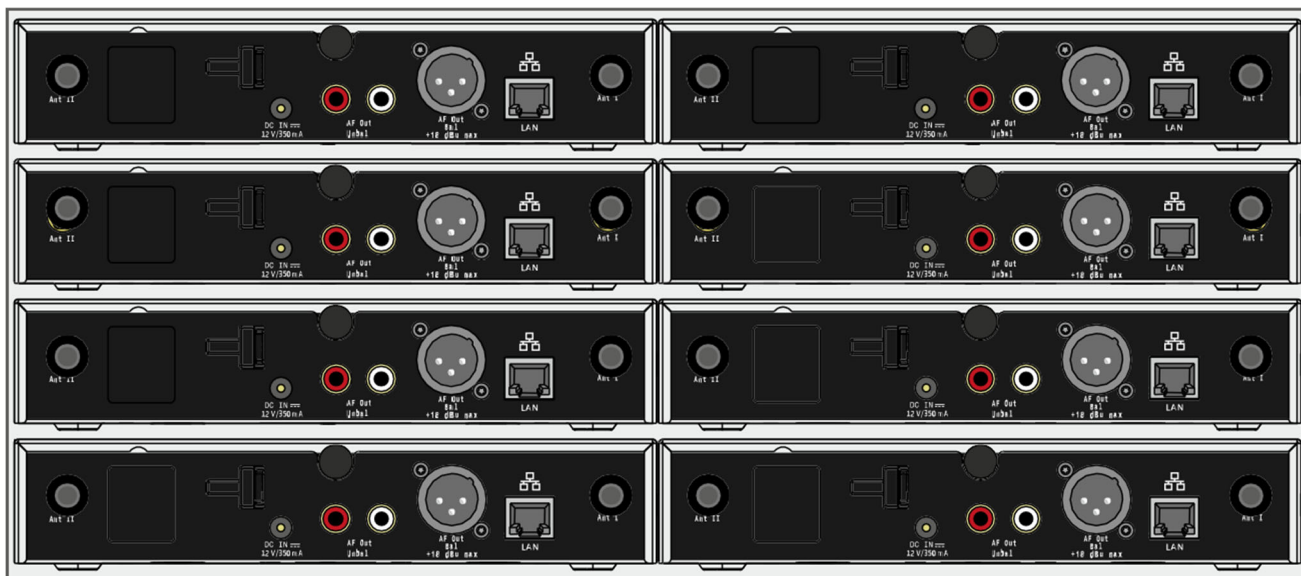




オプション 4: ラックマウント - 背面

アンテナをラック前面（オプション3）に取り付けられない場合、受信機のあるラックの背面に取り付けることも可能です。取り付け時には以下の情報に従ってください。

- ▷ アンテナは受信機から180度の角度を離すように配置してください。
- ▷ ケーブルがアンテナ受信を妨げないよう、すべてのケーブルを受信機近くに配線してください。ケーブルグリップを使用してください。
- ▷ システム性能を最大限に発揮させるため、アンテナがケーブル、金属板、ケースなどの遮蔽物によって覆われたり遮られたりしていないことを確認してください。
- ▷ この場合、可能であれば、送信機と受信機の間に直接の視線（見通し）を確保し、最高の無線周波数（RF）性能を実現してください。

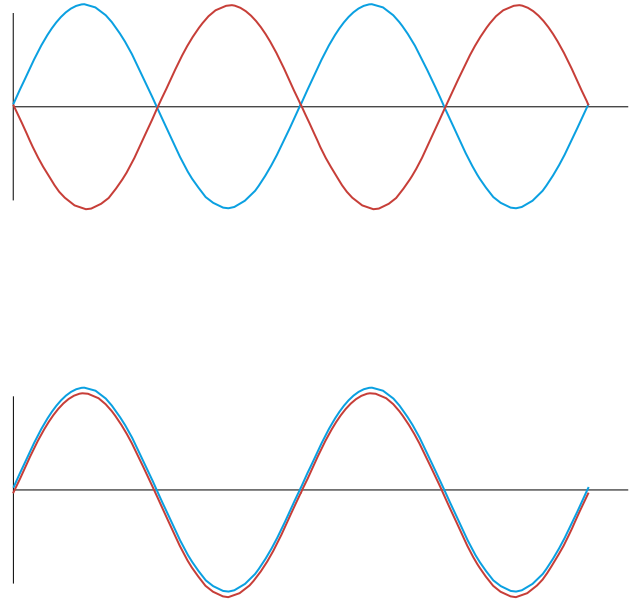
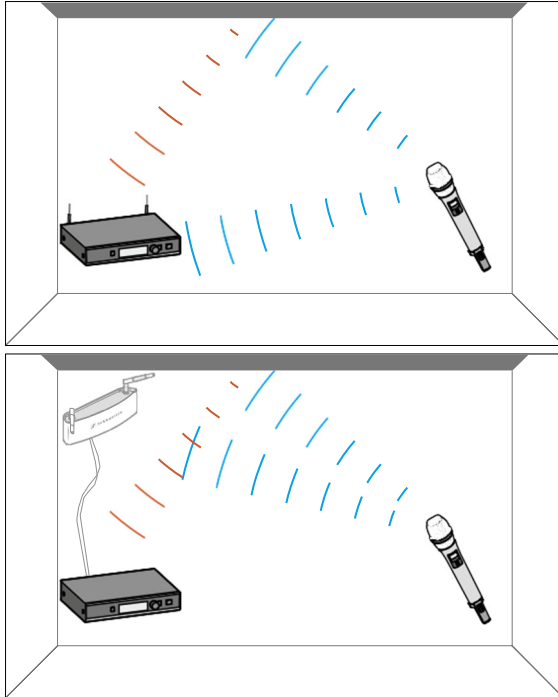




アンテナ使用に関するその他の重要な情報

反射面

導電性のある表面（金属構造のある天井など）は、RF 信号を反射する可能性があります。



信号は導電性表面によって反射されます。最悪の場合、青信号と赤反射信号が受信機に到達した時点で位相がずれるため、両信号が打ち消し合います。

- ▷ 室内に導電性表面がある場合は、受信機またはアンテナ壁マウントの位置を調整し、このような反射の影響を回避してください。

天井が反射面の場合は、アンテナを天井近くに設置することでこの問題を回避できます。

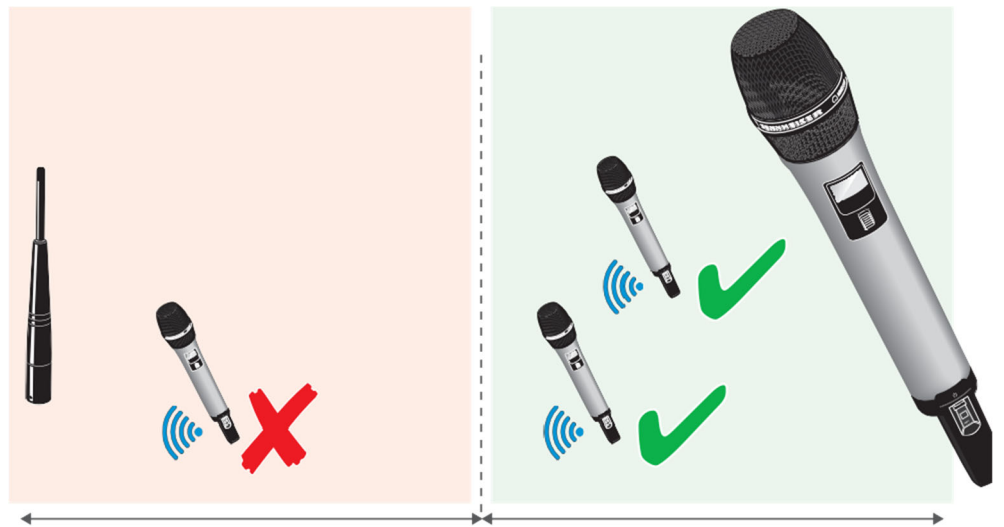
他の送信機による遮蔽効果

すべてのワイヤレスマイクシステムと同様に、送信機の配置が最適でない場合、ブロッキング効果が生じる可能性があります。これを回避するには、以下の推奨事項に従ってください：

- ▷ DECT電話機またはDECTアクセスポイントはアンテナから少なくとも7m離して設置してください。
- ▷ 携帯電話などの他の無線機器は、アンテナから少なくとも1~2m離して設置してください。
- ▷ 送信機が使用中の場合、遮蔽区域内に他の送信機を設置しないでください。やむを得ず設置する場合は、電源を切ってください。



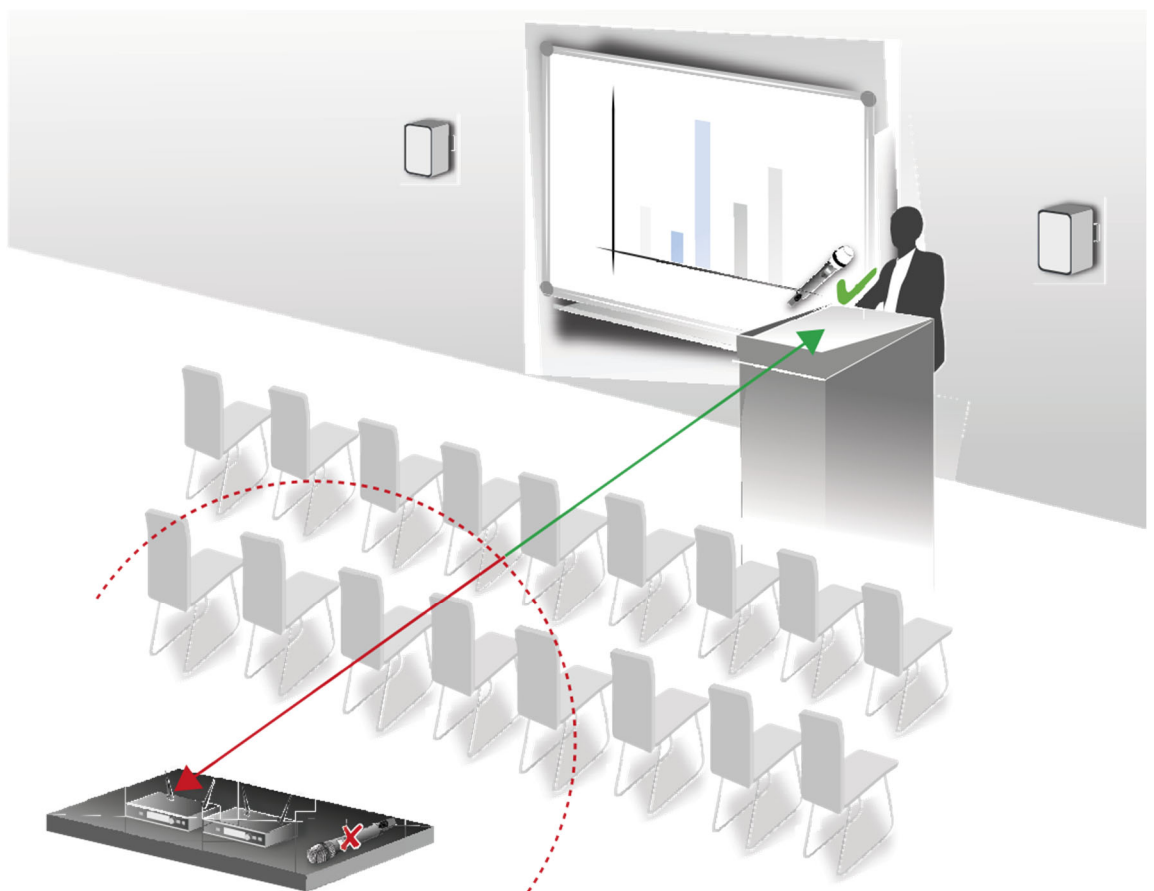
遮蔽エリアからの距離に関する目安：



遮蔽範囲

自由範囲比 1:1

例：





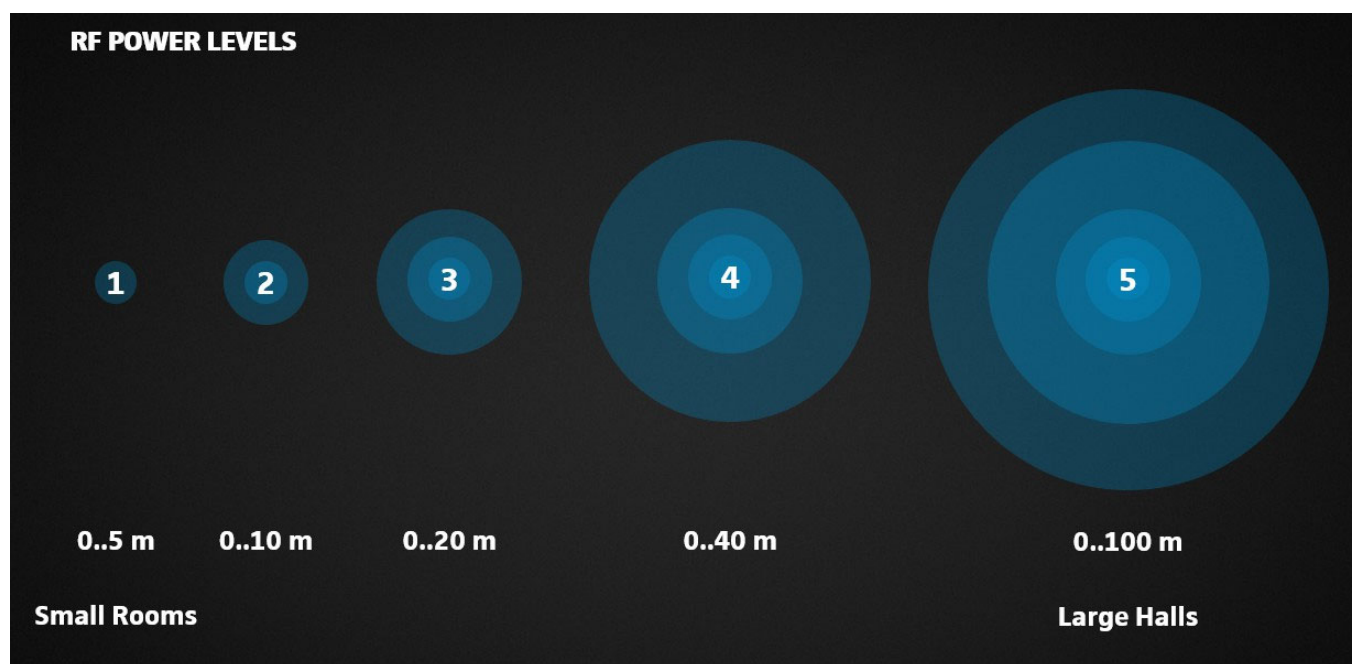
マルチルームモード

SpeechLine Digital Wirelessは、設置規模および国別の規制を考慮することで、1.9 GHz周波数帯域を最適に活用できます。

SpeechLine Digital Wirelessは、異なる設置タイプに対応する2つの動作モードを提供します：単一ルーム設置向けの自動モード（適応出力モード）と、マルチルーム設置向けの手動モード（マルチルームモード）です。

最大 20* のリンクを並行して使用する場合、**Adaptive Power Mode** により、非常に簡単な起動と信頼性の高い最大範囲が保証されます。

マルチルームモードでは、送信電力を調整することで、より多くのリンクを接続することが可能になります。



これらの調整オプションにより、SpeechLine Digital Wireless は、同じ場所でも設置規模が大きく異なるさまざまなプロジェクトに最適なソリューションとなります。

* 現地で承認されたバリエーションに依存します（「国別バリエーション」を参照）。

異なる規模のプロジェクトで SpeechLine Digital Wireless システムを設置および起動する際には、以下の手順に従ってください。



SLラックレシーバーDWのみを使用した単一ルーム設定

- ▷ すべてのレシーバーを1つのラックに設置してください（「ラックへのレシーバー設置」参照）。
- ▷ 受信機用のすべてのケーブルを接続してください（「受信機の接続」を参照）。
- ▷ 推奨される方法かつ可能な範囲で全てのアンテナを設置してください（「アンテナ設置に関する推奨事項」参照）。
- ▷ すべての受信機がオフになっていることを確認してください。
- ▷ 最初の受信機の電源を入れます。この受信機がマスターとなります。
- ▷ 必要に応じて送信機をペアリングしてください。ただし、セットは出荷時に既にペアリング済みですので、必要な場合のみ行ってください。
- ▷ 受信機と送信機の両方のLEDが緑色に点灯するまで待ちます。
- ▷ 最適な受信範囲を確保するため、歩行テストを実施してください（「歩行テスト（受信品質）の実施」を参照）。
- ▷ 他のすべての受信機をオンにしてください。これらはマスターと同期します。この手順中はマスター受信機の電源を入れたままにしておくことを確認してください。

SLマルチチャンネルレシーバーDWのみを使用したシングルルーム設定

- ▷ SLマルチチャンネルレシーバーDWを壁または天井に取り付け、レシーバー前面が室内を向くようにします（「レシーバーの取り付け」参照）。
- ▷ PoEを供給するLANケーブルを、最初のSLマルチチャンネルレシーバーDWの Dante I / PoE / Ctrl RJ-45ソケットに接続します（「レシーバーの接続」を参照）。このレシーバーがマスターとなります。
- ▷ レシーバーのLEDが赤色に点灯するまで待ちます。
- ▷ PoEを供給するLANケーブルを、他のすべてのSLマルチチャンネルレシーバーDWユニットの対応するDan-



te I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケットに接続してください（「受信機の接続」を参照）。
それらはマスターと同期します。



複数のSLマルチチャンネルレシーバーDWユニットを使用する場合、
「シングルケーブルモード」（工場出荷時設定、詳細は「レシーバー
の接続」参照）を使用することで、ネットワーク信号とオーディオ信
号をデジチェーン接続することが可能です。

レシーバー」参照）。

SL Rack Receiver DW と SL Multi-Channel Receiver DW の両方を単一ルームに設
置する場合

SLラックレシーバーDWとSLマルチチャンネルレシーバーDWの両方 を使用したシングルルーム設定

- ▷ SL Multi-Channel Receiver DW を、レシーバーの正面が室内を向くように壁また
は天井に取り付けます（「レシーバーの取り付け」を参照）。
- ▷ SL Multi-Channel Receiver DW を、レシーバーの正面が室内を向くように壁
または天井に取り付けます（「レシーバーのラックへの取り付け」および「レシ
ーバーの接続」を参照）。
- ▷ ラックレシーバー用のアンテナは、推奨される方法かつ可能な範囲で全て取り付
けてください（「アンテナ取り付けに関する推奨事項」を参照）。
- ▷ PoE 供給の LAN ケーブルを、最初の SL マルチチャンネルレシーバー DW の Dante
I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケットに接続します（「レシーバーの接続」を参照）。
このレシーバーがマスターとなります。
- ▷ レシーバーのLEDが赤く点灯するまで待ちます。
- ▷ PoE を供給する LAN ケーブルを、他のすべての SL マルチチャンネルレシーバー
DW ユニットの Dante I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケットに接続します（「レシーバー
の接続」を参照）。
それらはマスターと同期します。
- ▷ すべてのラックレシーバーの電源を入れます。
マスターと同期します。



複数のSL Multi-Channel Receiver DWユニットを使用する場合、「シングルケーブルモード」（工場出荷時設定、レシーバー」参照）。

PoE はデ이지チェーン接続できないため、追加の SL マルチチャンネルレシーバー DW には PoE インジェクターが必要です。

SL Rack Receiver DW を使用したマルチルームモードの設定

複数の部屋に SpeechLine Digital Wireless を設置する場合、以下の手順を部屋ごとに順番に実行することが重要です。1 つの部屋に SpeechLine Digital Wireless デバイスを設置する場合、他のすべての部屋のデバイスは電源をオフにする必要があります。

- ▷ 1つの部屋に設置するすべてのレシーバーを1つのラックに設置してください（「ラックへのレシーバー設置」を参照）。
- ▷ 受信機のすべてのケーブルを接続してください（「受信機の接続」を参照）。
- ▷ すべての受信機は、中央電源スイッチ付きのマルチソケット経由で電源供給してください。
- ▷ 推奨される方法かつ可能な範囲で全てのアンテナを設置してください（「アンテナ設置に関する推奨事項」参照）。
- ▷ すべての受信機が電源オフになっていることを確認してください。
- ▷ 最初の受信機の電源を入れます。この受信機がマスターとなります。
- ▷ 必要に応じて送信機をペアリングしてください。セットは出荷時にペアリング済みですので、必要な場合のみ行ってください。
- ▷ 受信機のRF出力を、受信機UIまたはSennheiser Control Cockpitに表示される部屋サイズに応じた推奨RF出力レベルに設定してください。
- ▷ 選択した値を確認するため、受信機の電源を入れ直してください（電源を切ってから再度入れる）。

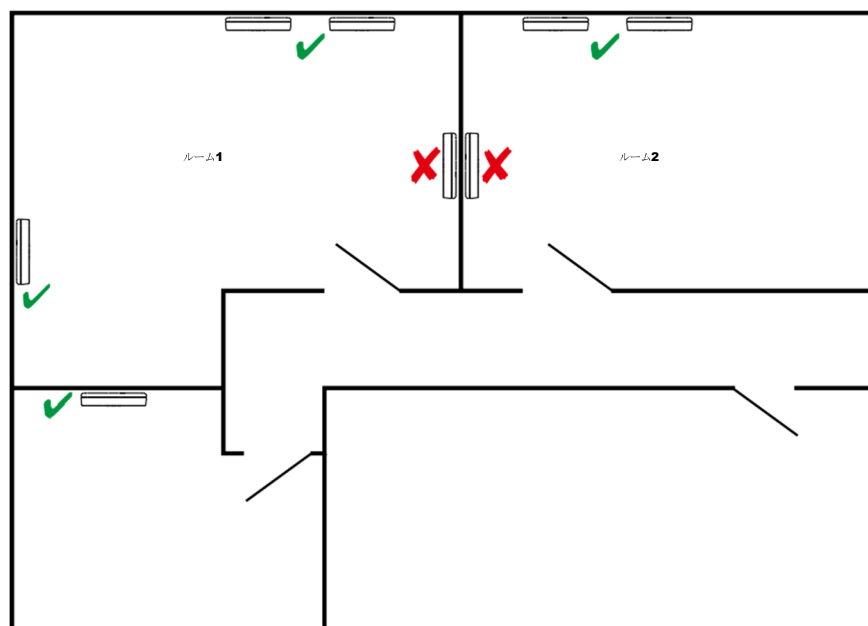


- ▷ 最適な受信カバレッジを確保するため、歩行テストを実施してください（「歩行テスト（受信品質）の実施」を参照）。
- ▷ 必要に応じてRF電力レベルを調整し、検証のため再度歩行テストを実施してください。
- ▷ 以降の全手順において、マスター受信機を必ず電源オンのままにしておくこと。
- ▷ その後、他のすべての受信機をオンにしてください。それらはマスターと同期します。
- ▷ 他のすべての受信機をマスター受信機と同じRF出力レベルに設定してください。
- ▷ 他の受信機の電源を入れ直してください。マスター受信機は常に電源を入れた状態にしておく必要があります。
- ▷ ラックの設定が完了したら、毎回マルチソケットの中央電源スイッチを使用して、すべての機器を同時に電源オフ/オンしてください。
- ▷ 受信機を個別に電源オン/オフしないように注意してください。

SLマルチチャンネルレシーバーDW専用マルチルームモード設定

複数の部屋にSpeechLine Digital Wirelessを設置する場合、以下の手順を順番に、部屋ごとに実行することが重要です。1つの部屋にSpeechLine Digital Wirelessデバイスを設置する際は、他のすべての部屋のデバイスをすべてオフにする必要があります。

- ▷ 1つの部屋のSLマルチチャンネルレシーバーDWユニットを全て、レシーバーの正面が室内を向くように壁または天井に取り付けます。
- 注記：マスター／フォロワー機能を確実にするため、以下の図に示すように、レシーバーは背中合わせではなく、横並びに設置してください。



- ▷ PoEを供給するLANケーブルを、最初のSLマルチチャンネルレシーバーDWの Dante I / PoE / Ctrl RJ-45ソケットに接続します（「レシーバーの接続」を参照）。
この受信機がマスターになります。
- ▷ すべての送信機をペアリングします。
- ▷ Sennheiser Control Cockpit に表示されている、部屋のサイズに応じた推奨 RF 出力レベルに受信機の RF 出力レベルを設定します。
- ▷ ウォークテストを実施し、最適な受信範囲を確保してください。
- ▷ 必要に応じてRF出力レベルを調整し、確認のため再度ウォークテストを実施してください。
- ▷ PoE を供給する LAN ケーブルを、その部屋にある他のすべての SL マルチチャンネルレシーバー DW ユニットの Dante I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケットに接続します（「レシーバーの接続」を参照）。
それらはマスターと同期します。
- ▷ 他のすべてのレシーバーを、マスターレシーバーと同じ RF 出力レベルに設定します。
- ▷ 次の部屋の機器を設置する前に、この部屋のすべての機器の電源を切ってください。

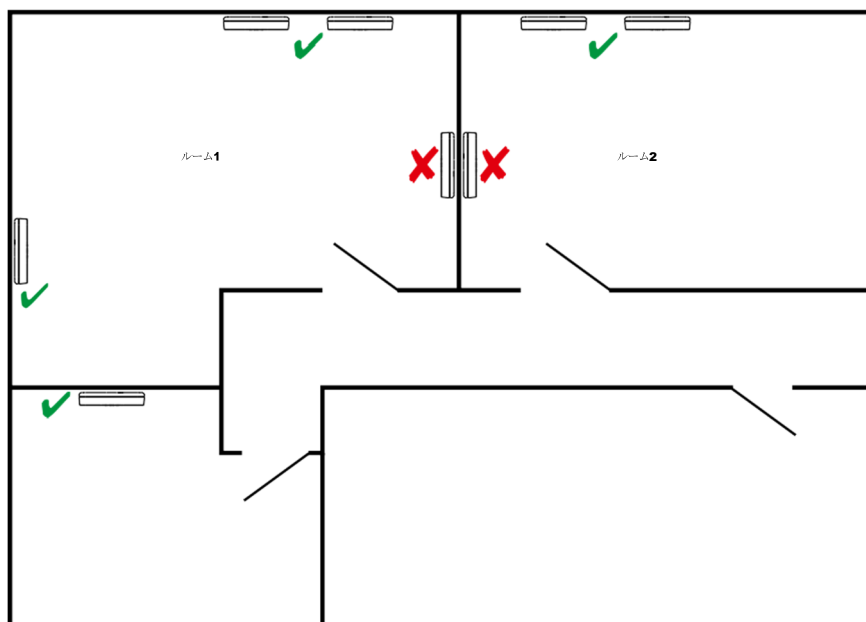


SLラックレシーバーDWとSLマルチチャンネルレシーバーDWの両方を使用したマルチルームモード設定

複数の部屋にSpeechLine Digital Wirelessを設置する場合、以下の手順を順番に、部屋ごとに実行することが重要です。1つの部屋にSpeechLine Digital Wirelessデバイスを設置する際は、他のすべての部屋のデバイスをすべてオフにしてください。

- ▷ 1つの部屋のSLマルチチャンネルレシーバーDWユニットをすべて、レシーバーの正面が室内を向くように壁または天井に取り付けます。

注：マスター/フォロワー機能を確実にするため、以下の図に示すように、レシーバーは背中合わせではなく、横並びに設置してください。



- ▷ すべてのSLラックレシーバーDWユニットを1つのラックに設置し、すべてのケーブル（電源、オーディオ、LAN）を接続してください（「レシーバーのラックへの設置」および「レシーバーの接続」を参照）。
- ▷ ラックレシーバー用アンテナは推奨方法かつ可能な範囲で全て取り付けてください（「アンテナ取り付けに関する推奨事項」参照）。
- ▷ PoE 供給の LAN ケーブルを、最初の SL マルチチャンネルレシーバー DW の Dante I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケットに接続します（「レシーバーの接続」を参照）。このレシーバーがマスターとなります。
- ▷ すべての送信機をペアリングします。



- ▷ Sennheiser Control Cockpit に表示されている、部屋のサイズに応じた推奨 RF 出力レベルに、レシーバーの RF 出力レベルを設定します。
 - ▷ 受信範囲が最適であることを確認するため、ウォークテストを実施してください。
 - ▷ 必要に応じて RF 電力レベルを調整し、検証のため再度ウォークテストを実施してください。
- ▷ PoE を供給する LAN ケーブルを、その部屋にある他のすべての SL マルチチャンネルレシーバー DW ユニットの Dante I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケットに接続します（「レシーバーの接続」を参照）。
- それらはマスターと同期します。
- ▷ 他のすべてのマルチチャンネルレシーバーを、マスターレシーバーと同じ RF 出力レベルに設定します。
- ▷ その後、すべての SL ラックレシーバー DW ユニットの電源を入れます。これらはマスターレシーバーと同期します。
- ▷ ラックレシーバーの電源を入れ直してください（電源を切ってから再度入れる）。マスターレシーバーは常に電源を入れた状態にしておく必要があります。
- ▷ 次の部屋の機器を設置する前に、この部屋のすべての機器の電源を切ってください。



取扱説明書

SpeechLine Digital Wireless: 取扱説明書

このマニュアルは、SpeechLine Digital Wireless シリーズの個々の製品の設置および使用に関する詳細な情報を提供します。



SL ラックレシーバー DW



SL MCR DW



SL Handheld DW



SL ボディパック DW



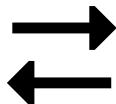
SL テーブルスタンド 133-S DW



SL テーブルスタンド 153-S DW



SL バウンダリー 114-S DW



ペアリング



歩行テスト



SL ヘッドマイク 1



MKE 1



CHG 2



CHG 4N



CHG 2W



AWM 2



AWM 4



SL PASC 2



SL PASC 4



SL ラックレシーバー DW

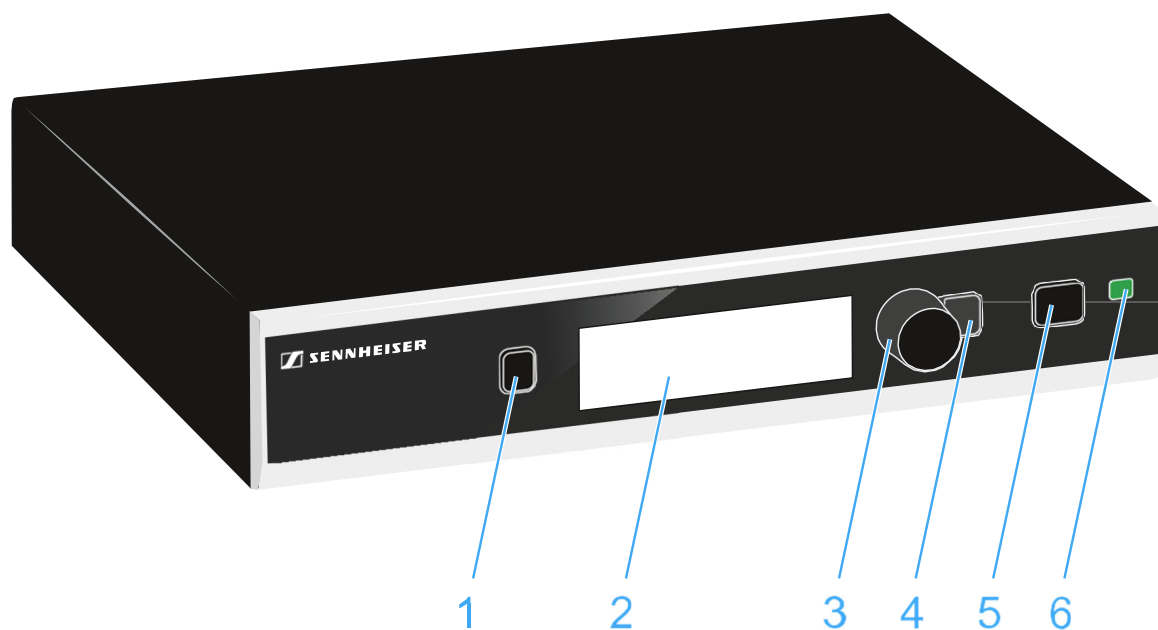
9.5インチラックレシーバー（SL Rack Receiver DW）は、SpeechLine Digital Wireless システムの核となる装置です。 ラックレシーバーと送信機間の双方向通信により、すべての送信機設定をレシーバー上で調整可能です。レシーバーの自動周波数管理機能により手動での周波数設定が不要となり、自動干渉管理機能により最高の伝送信頼性が保証されます。ユーザーフレンドリーなペアリング機能により、送信機とレシーバー間の確実な接続が確保されます。 ネットワーク統合により、メディア制御システム（例：AMX、Crestron）またはゼンハイザーControl Cockpitソフトウェアを使用した受信機のリモート制御・監視が可能です。アンテナは受信機背面またはラック前面に取り付け可能です。異なる長さのアンテナケーブルを使用すれば、受信機から離れた位置へのアンテナ設置も可能です。アンテナケーブルは別売アクセサリとしてご用意しています。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要と操作要素 – フロントパネル



1 ペアリングボタン

- 短押し：ペアリング済み送信機を識別します。
- 長押しで別の送信機とペアリングします。
- 「ペアリング」を参照してください。

2 表示パネル

- 「受信機の表示パネルの表示」を参照してください。

3 ジョグダイヤル

- メニューのナビゲーション、設定の変更、ホーム画面からサブホーム画面への切り替えには、ダイヤルを回します。
- 押すとメニューが開いたり、入力や選択を確認したりできます。

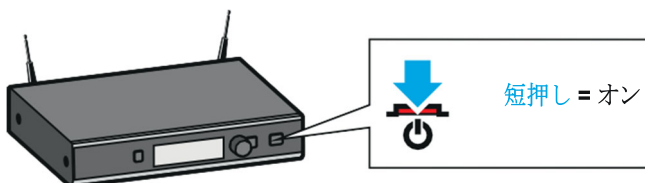
4 ESC ボタン

- 短押し：メニューの次の上位レベルに移動、または新しい設定や入力を確定せずにメニュー項目を終了します。
- 長押しすると、メニューを終了してホーム画面に戻ります。

5 スタンバイボタン

受信機の電源を入れるには：

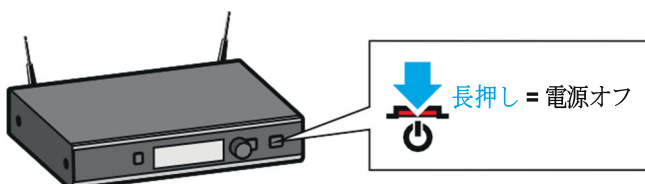
- ▷ **スタンバイボタン**を短押しします。



ディスプレイパネルにはまずロゴが表示され、その後ホーム画面が表示されます。ステータスLEDは受信機の現在の状態を示します。最後にペアリングされた送信機への無線リンクは、送信機の電源を入れると自動的に確立されます。

受信機をオフにするには：

▷ **スタンバイボタン**を長押しします。



表示パネルとステータスLEDが消灯します。

6 ステータスLED

緑色に点灯：

送信機との無線リンクが確立されました。受信した送信機のバッテリーパックは十分に充電されています。

緑色で点滅：

ペアボタンが短く押されました。ペアリングされたデバイスを識別中です。

緑と赤が交互に点滅：

ペアリングボタンが長押しされました。受信機は、同じく**ペアリング**ボタンが長押しされた送信機との無線リンクを確立します。

黄色に点灯：

受信した送信機が**ミュート**スイッチでミュートされました。さらに、ディスプレイパネルに「ミュート」が表示されます。



黄色で点滅：

ファームウェアの更新中です。

赤色点灯：

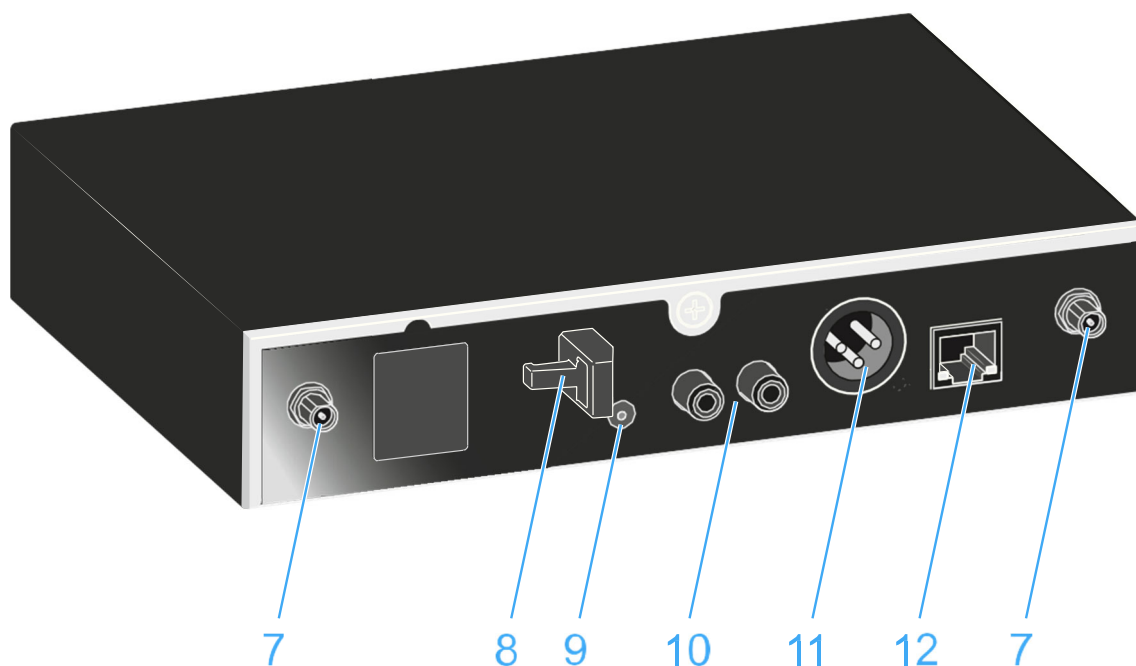
送信機への無線リンクがありません。さらに、表示パネルの背景が明暗で交互に変わり、表示パネルに「No Link」と表示されます。

赤色で点滅：

受信した送信機のバッテリーパック容量は、最大30分間の動作にのみ十分です。



製品概要と接続 – 背面パネル



7 ANT I および ANT II アンテナソケット (R-SMA)

- 付属のロッドアンテナ接続用アンテナ入力端子
- 代替として、延長ケーブルとAWM 2アンテナ壁掛け金具、またはGA 4取り付けキットを使用してアンテナを取り付けることも可能です。
- 「GA 4 取り付けキット」および「AWM 2 アンテナ壁取り付け金具」および「AWM 4 アンテナ壁取り付け金具」もご参照ください。

8 ストレインリリーフグリップ

- 電源ユニットのケーブルについて。
- 「レシーバーの電源システムへの接続」を参照してください。

9 DC IN ソケット

- 電源ユニットのジャックプラグ用。
- 「レシーバーを電源システムに接続する」を参照してください。

10AF OUT UNBAL ソケット (RCA)

- アンバランスオーディオ出力。
- 「アンプまたはミキシングコンソールをレシーバーに接続する」を参照してください。



11AF OUT BAL ソケット (XLR-3)

- 平衡オーディオ出力 (XLR)。
- 「アンプまたはミキシングコンソールをレシーバーに接続する」を参照してください。

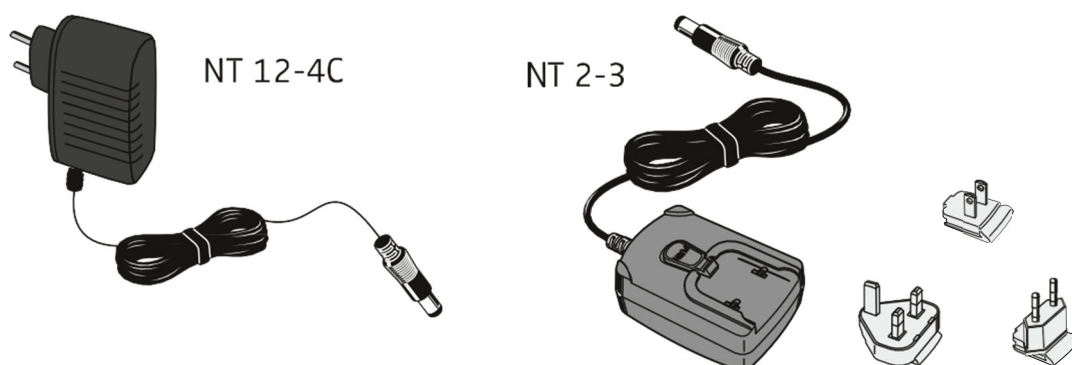
12LAN イーサネットソケット

- ネットワーク内の複数の機器を同時に制御・監視するために、ルーターやスイッチに接続します。
- 「ネットワークでの受信機の接続」を参照してください。

受信機の接続

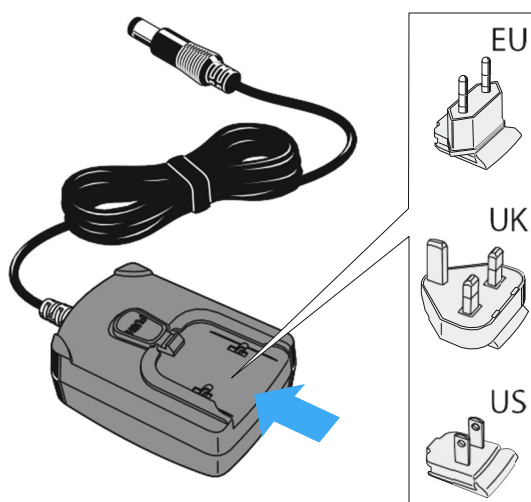
レシーバーの電源システムへの接続

付属の電源ユニット (NT 12-4 C または NT 2-3) のみを使用して、受信機を電源システムに接続してください。



NT 2-3 電源ユニットを使用する場合：

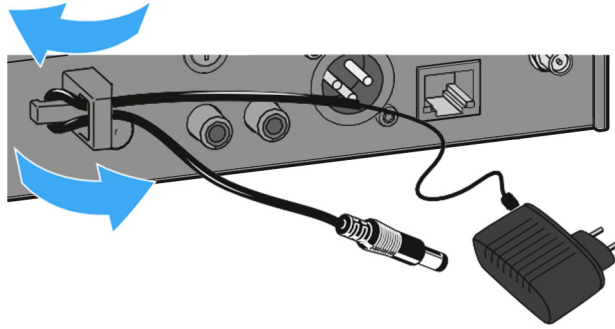
- ▷ 付属の国別アダプターを電源ユニットにスライドさせて装着してください。



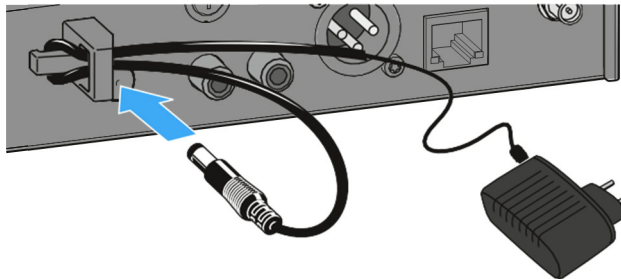


電源ユニットの接続方法：

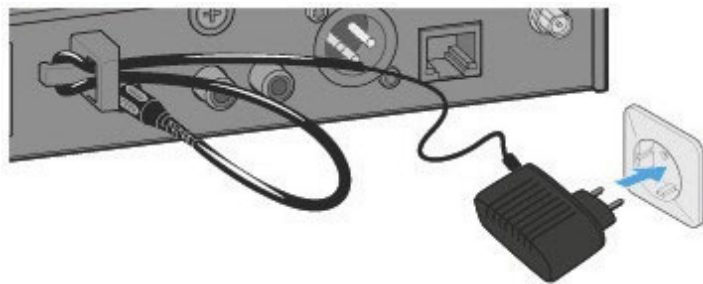
▷図のように電源ユニットのケーブルをストレインリリーフグリップに通します。



▷ 電源ユニットのジャックプラグをレシーバーのDC INソケットに接続します。



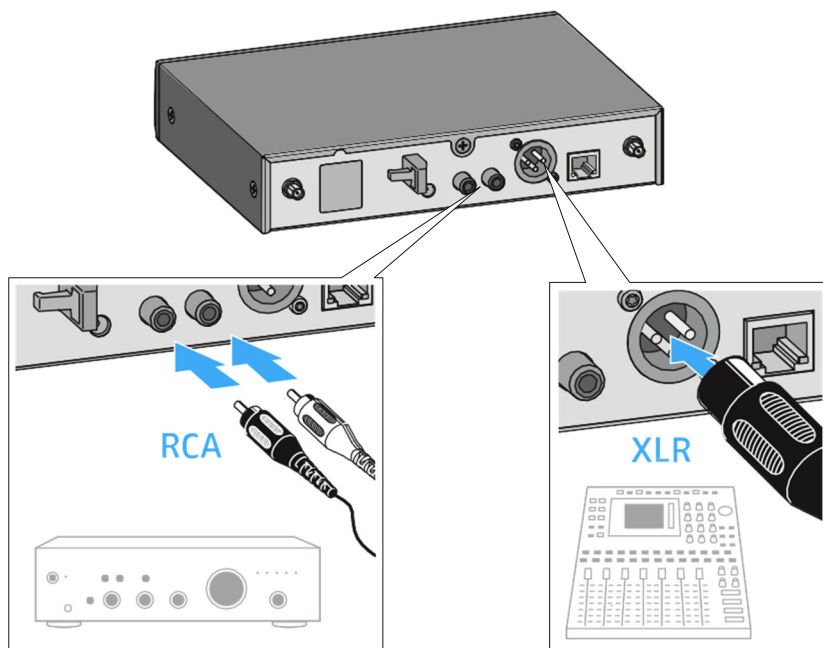
▷ 電源ユニットを壁のコンセントに差し込みます。





アンプまたはミキシングコンソールをレシーバーに接続する

レシーバー背面のアンバランス音声出力端子（RCA）とバランス音声出力端子（XLR）は並列接続されており、2台の機器（例：アンプとミキシングコンソール）を同時にレシーバーに接続できます。



アンプまたはミキシングコンソールをレシーバーの適切なオーディオ出力端子に接続するには、適切なオーディオケーブルを使用してください。

バランスケーブルはアンバランスケーブルよりも干渉を受けにくいので、バランスオーディオ出力（XLR）の使用をお勧めします。

ネットワーク経由での受信機の制御と監視

ルーターまたはスイッチを使用して、複数のレシーバーをネットワークに接続することができます。これにより、Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアを使用して、より大規模な SpeechLine Digital Wireless システムを制御および監視することが可能になります。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアを使用したネットワーク内でのシステム制御に関する詳細は、ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

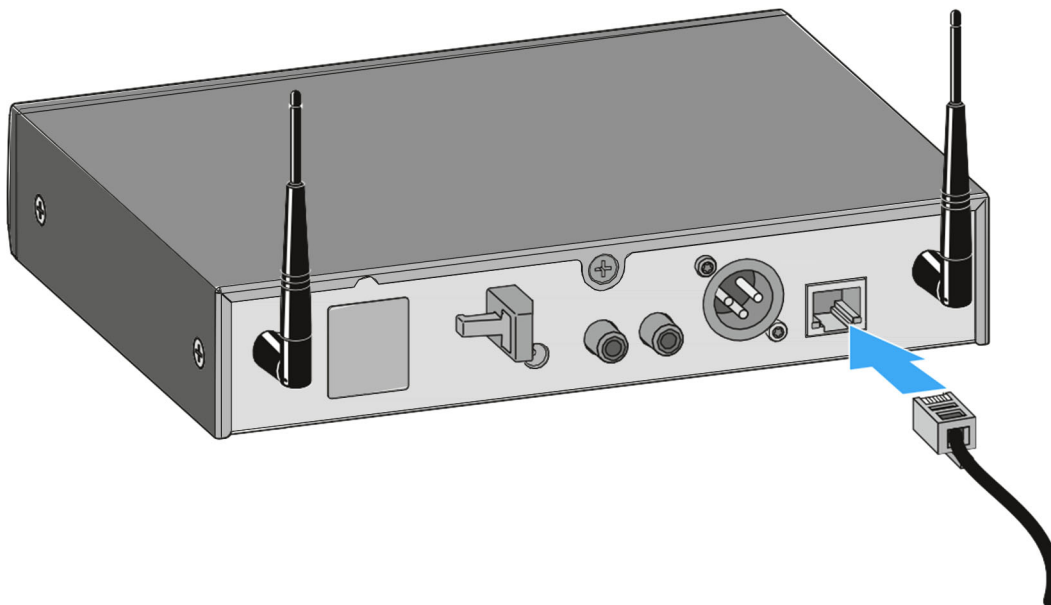
Sennheiser Control Cockpit ServiceがインストールされているホストPCは、監視および制御対象のデバイスと同じネットワーク上に存在する必要があります。



ネットワークでのレシーバー接続

ネットワークでレシーバーを接続するには：

- ▷ 受信機のイーサネットソケットLANに標準ネットワークケーブル（最低Cat 5）を接続します。



- ▷ ネットワークケーブルのもう一方の端をルーターまたはスイッチに接続します。

レシーバーのLANイーサネットソケット横にある黄色LEDが接続状態を示します：

黄色LED:

- 点灯 -> レシーバーがネットワークに接続されています
- オフ -> レシーバーがネットワークに接続されていません



レシーバーをDHCPネットワークに統合する

受信機はDHCPサーバーからIPアドレスを取得します。このアドレスは受信機のネットワーク設定メニューで確認できます（「受信機の操作メニューの使用」参照）。

Sennheiser Control Cockpit で受信機を追加するには：

- ▷ Sennheiser Control Cockpitの「デバイス追加」機能を使用し、設定メニューで確認したIPアドレスを入力してください。

または：

- ▷ レシーバーのネットワーク設定メニューでmDNS機能を有効にします（工場出荷時設定：無効）。
- ▷ レシーバーを再起動します。

再起動後、受信機はSennheiser Control Cockpitで自動的に検出されます。



mDNS = マルチキャストドメインネームシステム：ローカルネームサーバーを含まない小規模ネットワーク内で、ホスト名をIPアドレスに解決します。自動デバイス検出に使用されます。

Auto IPを使用したDHCP非対応ネットワークへのレシーバー統合

ネットワークにDHCPサーバーが存在せず、自動生成されたIPアドレスを使用する場合、以下の情報に注意してください。

- ▷ レシーバーのネットワーク設定メニューでモードを「自動」に設定してください。
- ▷ Sennheiser Control Cockpit サービスがインストールされているホスト PC は、IP アドレスが静的設定ではなく自動割り当てされるように構成されていることを確認してください。

数分後、ネットワーク内のすべての受信機は **169.254.x.x** の範囲のリンクローカルアドレスを取得します。このアドレスは受信機のネットワーク設定メニューで確認できます（「受信機の操作メニューの使用」を参照）。

Sennheiser Control Cockpitに受信機を追加するには：

- ▷ Sennheiser Control Cockpitの「デバイス追加」機能を使用します



設定メニューで確認したIPアドレスを入力してください。

または：

- ▷ 受信機のネットワーク設定メニューでmDNS機能を有効にします（工場出荷時設定：無効）。
- ▷ レシーバーを再起動します。

再起動後、受信機はSennheiser Control Cockpitで自動的に検出されます。



mDNS = マルチキャストドメインネームシステム：ローカルネームサーバーを含まない小規模ネットワーク内で、ホスト名をIPアドレスに解決します。自動デバイス検出に使用されます。

固定IPを使用したDHCPなしネットワークへのレシーバー統合

ネットワークに DHCP サーバーがなく、固定 IP アドレスを使用している場合は、以下の情報に注意してください。

- ▷ レシーバーのネットワーク設定でモードを固定に設定メニュー。
- ▷ 受信機のネットワーク設定メニューのIPオプションにIPアドレスを手動で入力します。

Sennheiser Control Cockpit に受信機を追加するには：

- ▷ Sennheiser Control Cockpitの「デバイス追加」機能を使用し、選択したIPアドレスを入力してください。

または：

- ▷ 受信機のネットワーク設定メニューでmDNS機能を有効にします（工場出荷時設定：無効）。
- ▷ 受信機を再起動します。

再起動後、受信機はSennheiser Control Cockpitで自動的に検出されます。



mDNS = マルチキャストドメインネームシステム：ローカルネームサーバーを含まない小規模ネットワーク内で、ホスト名をIPアドレスに変換します。自動デバイス検出に使用されます。



ファームウェアの更新

受信機のファームウェアは、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して更新されます。

この手順に関する詳細は、ソフトウェア内のヘルプ、Sennheiser Documentationアプリ、またはSennheiserウェブサイトのダウンロードエリアでご確認いただけます。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアヘルプ



受信機の設定

このセクションでは、レシーバーの設定方法について説明します。

また、19インチラックなど、固定された場所にレシーバーを設置することもできます。固定された場所へのレシーバーの設置に関する詳細は、「ラックへのレシーバーの設置」をご覧ください。

デバイスの脚の取り付け

受信機を19インチラックに設置せず、スタンドアロン状態で設置する場合にのみ、デバイスの脚を取り付けてください。受信機をラックに設置する場合、デバイスの脚は邪魔になります。

デバイスの脚を取り付けるには：

- ▷ レシーバー底面のデバイス用脚取り付け用凹部を清掃してください。
- ▷ レシーバーのくぼみにデバイスフットを取り付けます。
- ▷ レシーバーを平らな水平面に置きます。

装置の脚部は、しばらく経ってから初めて受信機に確実に固定されます。この間は受信機を動かさないでください。

注意

家具表面の汚損リスク

装置の脚部が家具に接触すると、汚れを残す可能性があります。

- ▷ デリケートな表面にレシーバーを置かないでください。

取付ブラケットの取り付け

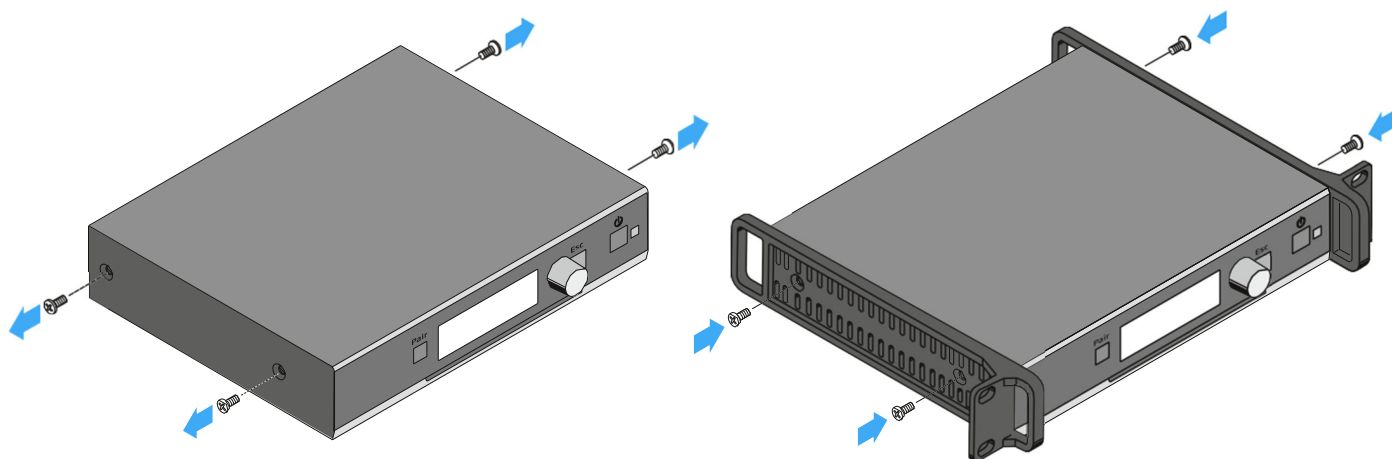
取り付けブラケットは、操作部の損傷や変形（例：受信機落下時）を防ぐために設計されています。そのため、ラックへの取り付けを望まない場合でも、常にブラケットを取り付けることを推奨します。

取り付けブラケットの固定方法：

- ▷ レシーバー両側の皿頭ネジ2本を緩めて取り外します。
- ▷ 取り外した皿ネジを使用して、取り付けブラケットをレシーバーの側面に固定します。



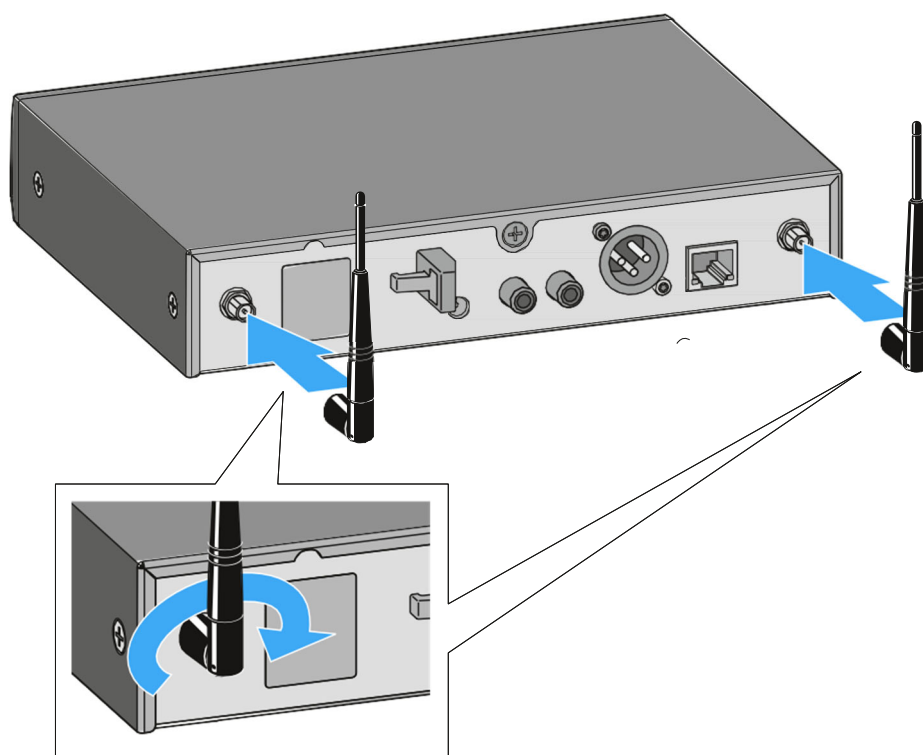
取り付け用アングルの角度が付いた端が前方に向くようにしてください。



ロッドアンテナの受信機への接続

付属のロッドアンテナをレシーバーに接続するには：

- ▷ 図のように、2本のロッドアンテナを受信機の2つのアンテナソケット（ANT IおよびANT II）にねじ込みます。
- ▷ ロッドアンテナを垂直に配置してください。





AWM 2 / AWM 4 リモートアンテナの受信機への接続

付属のロッドアンテナの代わりに、受信機にリモートアンテナを接続することも可能です。詳細は以下を参照してください。

「AWM 2アンテナ壁掛けマウント」および「AWM 4アンテナ壁掛けマウント」を参照してください。

- ▷ アンテナ設置に関する注意事項に注意してください
「アンテナ取り付けに関する推奨事項」



ラックへの受信機設置

本章では、単体の受信機または2台の受信機を並べてラックに設置する方法について説明します。

固定設置せずにレシーバーを設定することも可能です。レシーバーの設定に関する詳細は「レシーバーの設定」を参照してください。

注意

ラックマウント時、受信機は過度の熱や機械的ストレスによって損傷する可能性があります。

- ▷ ラック内の温度が仕様書で指定された許容温度限界を超えないことを確認してください。
 - ▷ ラック内の受信機が機械的ストレスを受けないようにしてください。
 - ▷ 必要に応じて過電流保護を施し、回路が過負荷にならないようにしてください。
 - ▷ 必要に応じて追加の接地接続によりラックを接地し、すべての電源ユニットの漏れ電流の合計が許容限界値を超えないようにしてください。
-

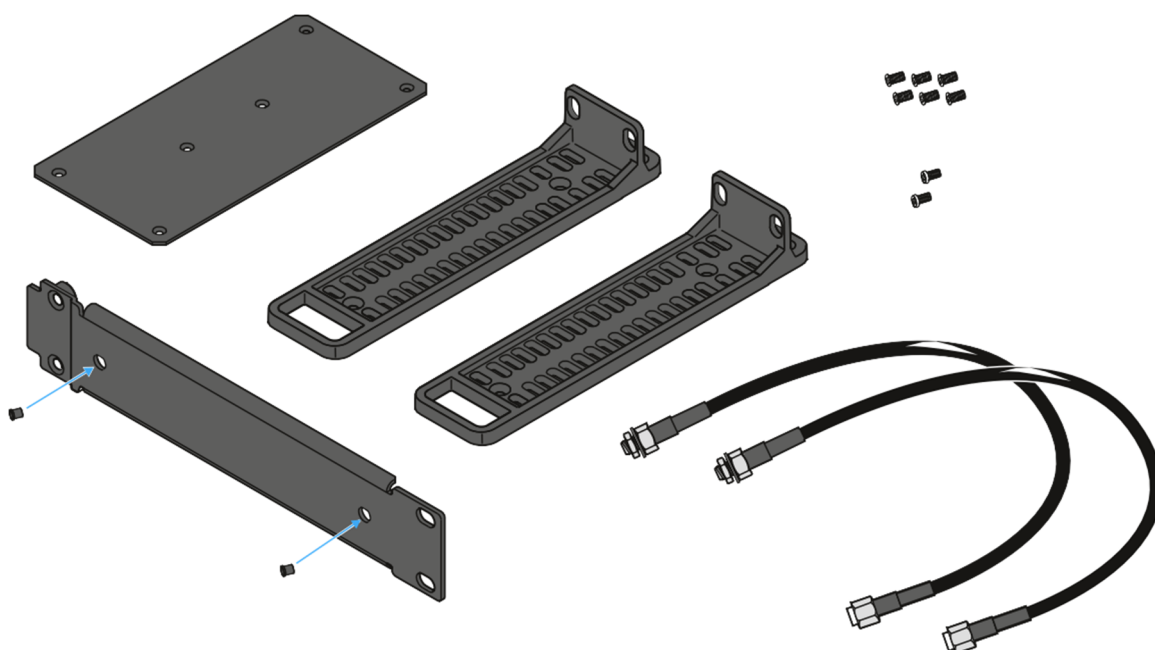


GA 4 取付キット

受信機をラックに取り付けるには、GA 4 取り付けキットが必要です。GA 4 取り付けキットは別売のアクセサリとして入手可能であり、以下のセットにも同梱されています：

- SL ハンドヘルドセット R
- SL ヘッドマイクセット R
- SL ラベリアセット R

GA 4 取り付けキットの内容：

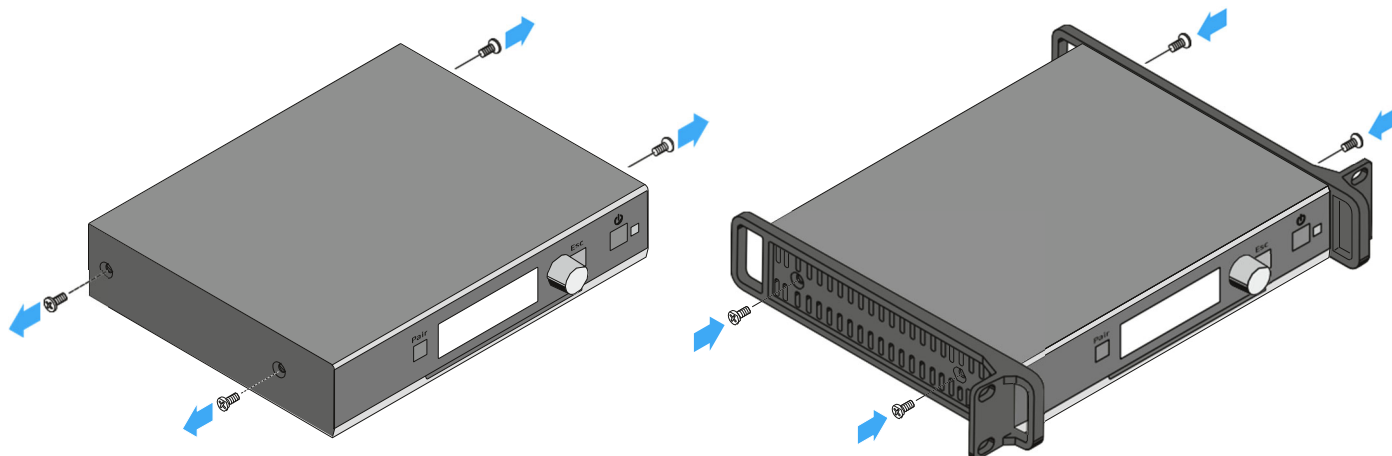


取り付けブラケットの固定（レシーバーの取り付け用）

取付ブラケットの固定方法：

- ▷ レシーバー両側の皿頭ネジ2本を外して取り外します。
- ▷ 取り外した皿ネジを使用して、取り付けブラケットをレシーバーの側面に固定します。

取付ブラケットの角度付き端部が前方に向いていることを確認してください。

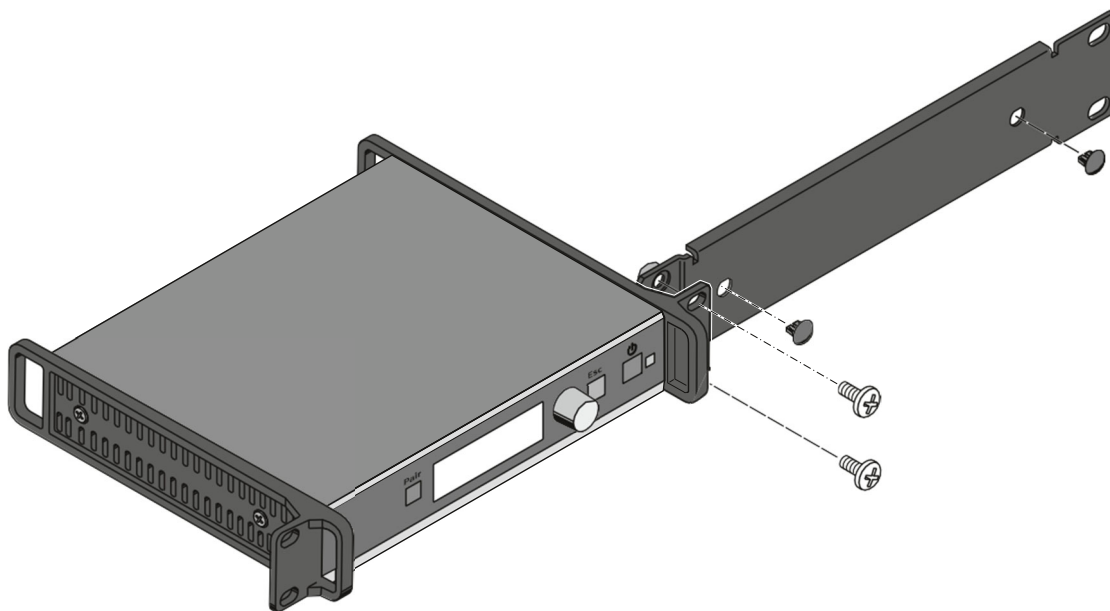


レシーバーのラックへの取り付け

レシーバーをラックに取り付けるには：

- ▷ 付属の皿頭ネジ2本を使用して、GA 4取り付けキットのブランキングプレートを図示のようにレシーバーの取り付けブラケットに固定します。

ブランキングプレートを実装する際は、必ず正しい面（丸穴のある面）を使用してください。



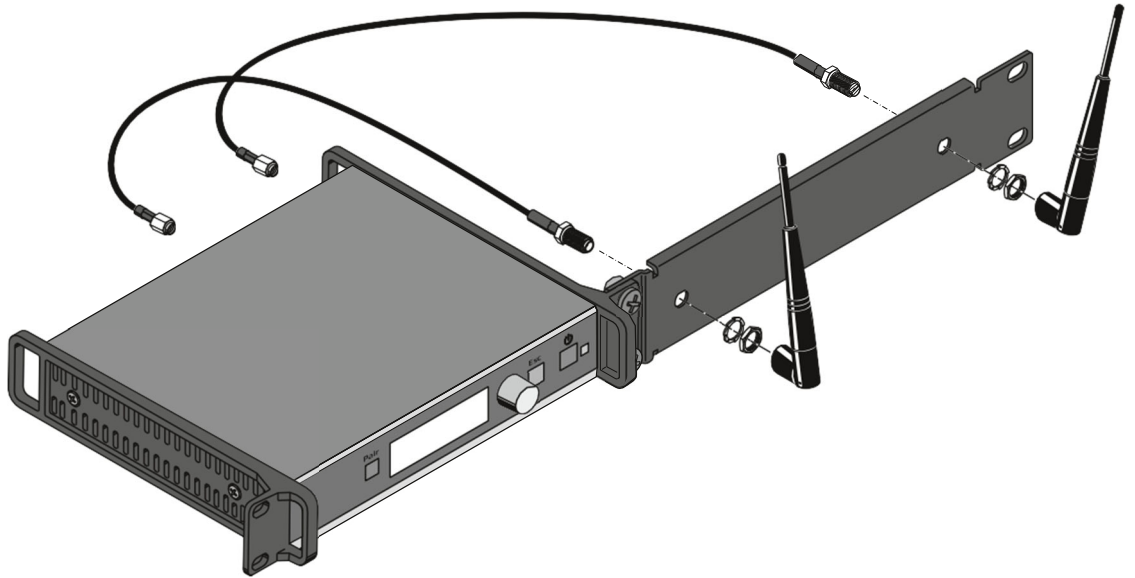
- ▷ ラック前面にロッドアンテナを取り付けない場合のみ、アンテナ穴に2つの小型カバーキャップを挿入してください。
- ▷ 取り付け用アクセサリを取り付けたレシーバーを19インチラックにスライドさせて挿入します。



ロッドアンテナをラック前面に取り付ける場合

ロッドアンテナをラック前面に取り付けるには：

- ▷ 付属のアンテナケーブルをレシーバー背面のアンテナソケットに接続してください。
- ▷ アンテナケーブルのもう一方の端をブランキングプレートのアンテナ穴に通し、図のようにロッドアンテナにねじ止めします。





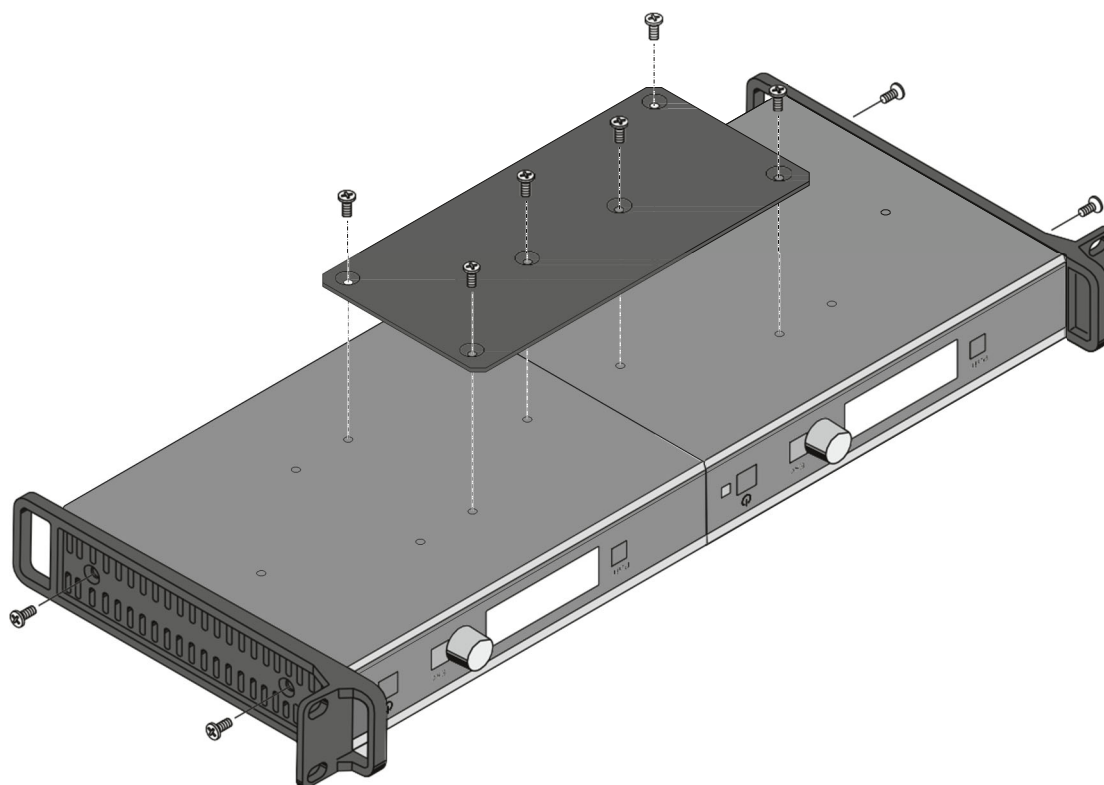
接合プレートの取り付けと取付アングルの固定（2台の受信機を並列設置する場合）

取付アングルを固定するには：

- ▷ 受信機の外側面に付いている2本の皿頭ネジを緩めて取り外します。
- ▷ 取り外した皿頭ネジを使用して、取り付けアングルを受信機の外側面に固定します。

ジョイントプレートの取り付け方法：

- ▷ 2つのレシーバーを逆さまにして平らな面に並べて置きます。
- ▷ 図示の通り、6本の皿頭ネジを使用して接合プレートを受信機に固定してください。



AWM 2 / AWM 4 リモートアンテナの受信機への接続

付属のロッドアンテナの代わりに、受信機にリモートアンテナを接続することも可能です。詳細は以下を参照してください。

「AWM 2アンテナ壁取付」および「AWM 4アンテナ壁取付」を参照してください。

- ▷ アンテナ設置に関する注意事項は以下を参照してください
「アンテナ設置に関する推奨事項」に記載の注意事項を必ずお読みください。

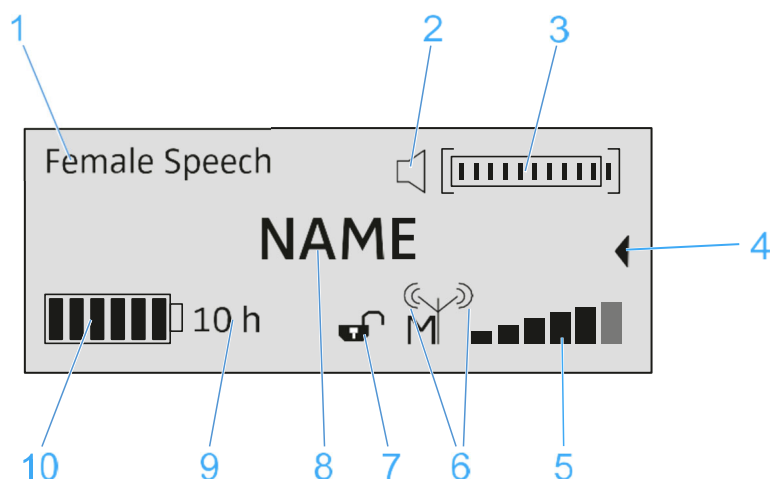


受信機の表示パネル上の表示

ホーム画面

電源投入後、または受信機のボタンを長時間操作しなかった場合、自動的にホーム画面が表示されます。

受信機と送信機の間に無線リンクが存在しない場合、表示パネルに「No Link」が表示され、表示の明るさが自動的に暗くなります。



1 選択されたサウンドプロフィール

- 選択されたサウンドプロフィールの名前を表示します。サウンドプロフィールが選択されていない場合、ここには何も表示されません。

2 ミュート状態表示



受信中の送信機はミュートされていませんが、いつでもミュートできます。



受信中の送信機はミュートされています。さらに、ステータス LED が黄色に点灯します。



受信した送信機は、そのミュートスイッチが無効化されているためミュートできません。「システム設定メニュー」を参照してください。

設定メニュー」を参照。

3 オーディオレベル表示

- オーディオレベルは自動的に調整されます。

4 セカンダリホーム画面

- ジョグダイヤルを左に回すと、サブホーム画面が表示されます。
- 上記のホーム画面は、10秒経過後、またはジョグダイヤルを右に回すと再び表示されます。



5 RF信号レベルの6段階表示

- 送信機のRF出力電力の現在のレベルを表示し、マスターまたはフォロワーを示します。

6 送信機のRF出力電力（マスターまたはフォロワーを示す）

- 受信した送信機の RF 出力電力を表示します。
- デバイスがマスターかフォロワーかを示します：デバイスはマスターです。



デバイスはフォロワーです。



デバイスはフォロワーですが、同期されていません。同期状態は不明



です。

7 ロックモード



- ロックモード機能が有効化されています。ロックモードは現在無効化されており、受信機は

操作可能です。



- ロックモード機能が有効です。ロックモードは現在有効です。ロックモードを一時的に無効にするには、ジョグダイヤルを長押ししてください。

ダイヤルを長押しすると、ロックモードを一時的に解除できます。

- 南京錠アイコンが表示されていない場合、ロックモード機能は無効です。
- 「システム設定メニュー」を参照してください。

8 無線リンク名

- 無線リンク名は自由に設定できます。参照「デバイス識別メニュー」

9 受信した送信機の予想残存バッテリー寿命

- 受信した送信機のバッテリー残量を時間単位で表示します（純正のゼンハイザー製BA 10、BA 30、BA 40バッテリーパック使用時のみ）。
- 単三形乾電池または充電式単三形電池を使用している場合、残量表示は行われません。

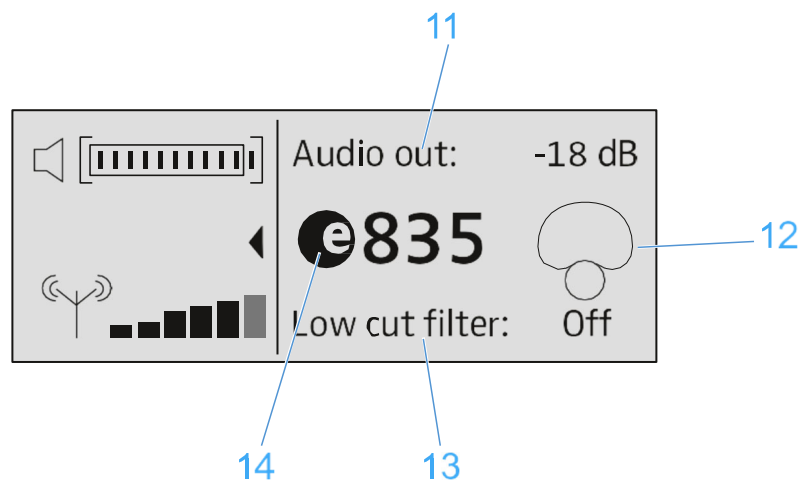
10 アキュパックまたは電池容量の7段階表示

- アキュパックまたは電池の現在の充電状態をグラフィカルに表示します。



サブホーム画面

ホーム画面からジョグダイヤルを左に回すと、セカンダリホーム画面が表示されます。



11 受信機のオーディオ出力レベル

12 使用マイクの指向特性

13 ローカットフィルターの状態 (ON/OFF)

14 使用マイクカプセルの製品名



受信機の操作メニューの使用

ナビゲーション用ボタンを使用する



スタンバイボタンを押す



•短押し：受信機の電源をオンにします

- 長押し：受信機をオフにします



SHORT

ESCボタンを短押し

•メニューで一つ上の階層に移動

- 設定変更を保存せずにメニュー項目を終了



LONG

ESCボタンを3秒間押し続けてください

•ホーム画面に戻る



ジョグダイヤルを押す

•ホーム画面から操作メニューに切り替わります

- 選択したメニュー項目を呼び出します
- 選択したサブメニューに変更します
- 選択内容または変更設定を確認する



ジョグダイヤルを回す

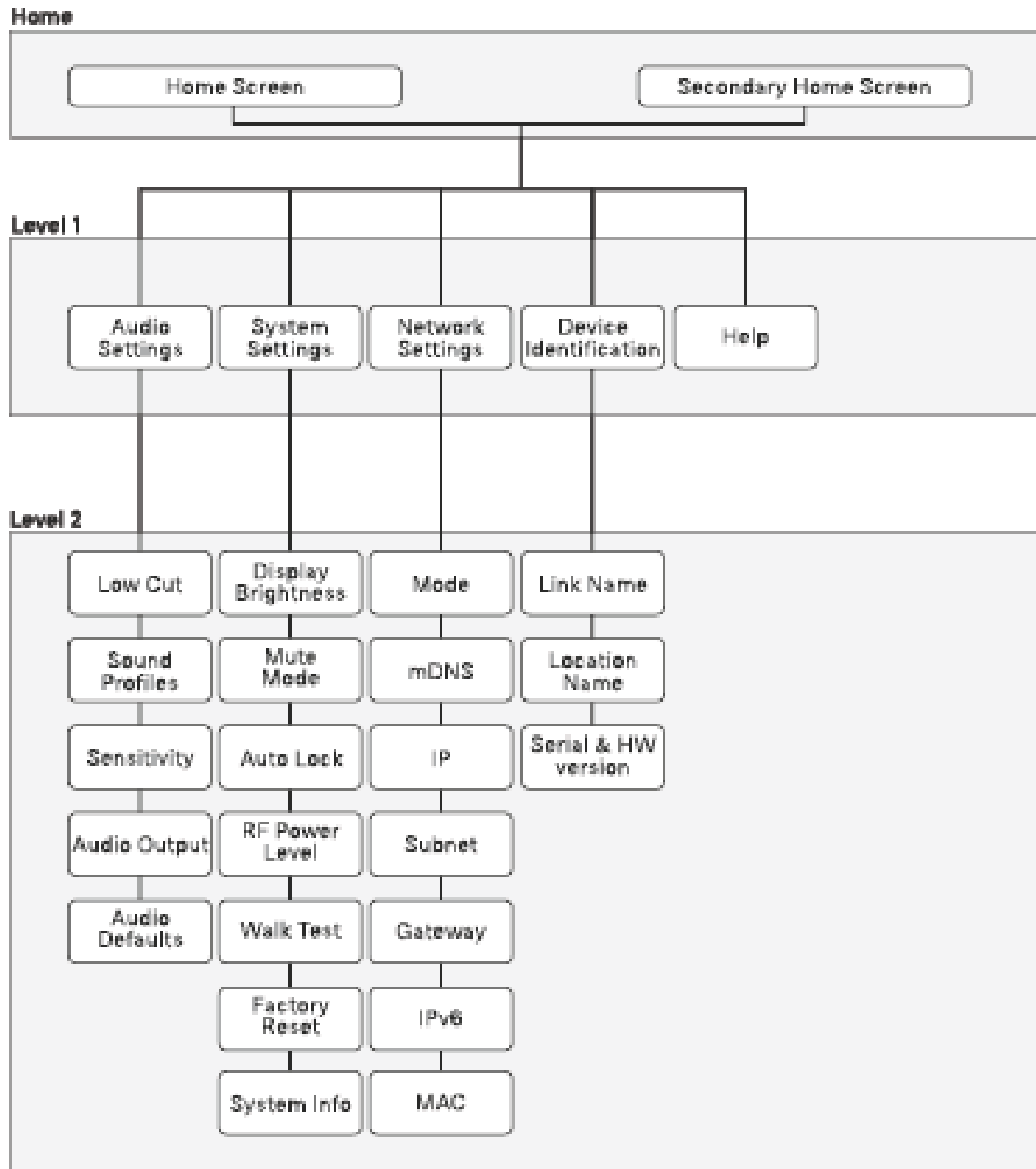
•ホーム画面とサブホーム画面を切り替える

- 前のメニュー項目または次のメニュー項目に変更
- メニュー項目の設定を変更します



受信機のメニュー構造

バージョン: ファームウェアバージョン 2.6.10





オーディオ設定メニュー

メニューレベル1のオーディオ設定メニューでは、以下の設定を調整できます。

ローカット

- **オン**：ローカットフィルターが有効になります。低周波ノイズが除去されます。
- **オフ**：ローカットフィルターが無効になります。

サウンドプロファイル

- **オフ**：サウンドプロファイルは有効化されません。
- **女性スピーチ**：女性スピーカーに推奨されるサウンドプロファイル。
- **男性音声**：男性スピーカーに推奨されるサウンドプロファイル。
- **メディア**：その他のオーディオデバイスに推奨されるサウンドプロファイル。
- **カスタム**：サウンド設定を手動で調整するための7バンドイコライザー。

感度

- **自動**：音声中にオーディオ感度が自動的に調整されます。
- **0 dB ~ -30 dB**：音声感度は、0 dB から -30 dB まで 6 dB 単位で手動調整できます。

オーディオ出力

- **レベル**：XLR ソケットのオーディオ出力レベルを、マイクレベルとラインレベルの間で調整するためのスライダー。
 - この設定は RCA 出力には影響しません。この出力は常にライン信号を出力します。

オーディオデフォルト

- **はい**：オーディオ設定（ローカットおよびサウンドプロファイル）を工場出荷時のデフォルトにリセットします。
- **いいえ**：現在のオーディオ設定を保持します。



システム設定メニュー

メニューレベル1のシステム設定メニューでは、以下の設定を調整できます。

ディスプレイの明るさ

- **レベル**：ディスプレイの明るさを調整するスライダー。
-

ミュートモード

- **有効**：ペアリング済み送信機のミュートスイッチが有効化され、使用可能になります。
 - **無効化**：ペアリング済み送信機のミュートスイッチは無効化され、使用できません。
 - **プッシュ・トゥ・トーク**：ペアリングされた送信機のミュートスイッチを押し続けると、音声信号が有効になります（SL Boundary 114-S DW および SL Tablestand 133/153-S DW のみ）。
 - **ミュートにするには**：ペアリング済みの送信機のミュートスイッチを押し続けて、音声信号をミュートにします（SL Boundary 114-S DW および SL Tablestand 133/153-S DW のみ）。
-

自動ロック

- **オン**：自動ロックモードが有効になります。受信機で約 10 秒間ボタンが操作されない場合、ロックモードが自動的に有効になります。
 - ロックモードを一時的に無効にするには、ジョグダイヤルを長押しします。
 - **オフ**：自動ロックモードは無効になります。
-

RF 出力

- **自動**：送信電力が自動的に調整されます。
- **レベル 1 ... 5**：送信電力を 5 段階で手動で低減できます。この機能は、マルチルームモードでの操作に必要です。



ウォークテスト

- ウォークテストを開始します。「ウォークテストの実施（受信品質）」を参照してください。
-

工場出荷時設定へのリセット

- **はい**：すべての設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされます。
 - **いいえ**：設定は保持されます。
-

システム情報

- 受信機のシリアル番号と現在のファームウェアバージョンを表示します。
-

ネットワーク設定メニュー

ネットワーク設定では、以下の設定を調整できます。

モード

- **自動**：IP アドレスは DHCP を使用して自動的に割り当てられます。DHCP サーバーが利用できない場合、IP アドレスは SL Rack Receiver DW 自体によって割り当てられます。
 - **固定 IP**：IP アドレスは手動で入力する必要があります。
-

mDNS

- **無効**：mDNS を無効にして、ネットワーク経由で転送されるデータ量を削減します。このオプションは、大規模なシステムに推奨されます。
 - **有効化**：mDNSを有効化し、自動デバイス検出を可能にします。最大30台のデバイスを持つ小規模システムに推奨されます。
-



IP

- 固定IPモードでのIPアドレス入力
-

サブネット

- 固定IPモードでのサブネットマスク入力
-

ゲートウェイ

- 固定IPモードでのゲートウェイ入力
-

IPv6

- IPv6 アドレスを表示
-

MAC

- MAC アドレスを表示します
-

デバイス識別メニュー

リンク名

- 送信機と受信機間の無線リンクの名称を入力します。この名称は送信機の表示パネルにも表示されます。
-

設置場所名

- 受信機が設置されている部屋の名称を入力します。
-



シリアル番号

- 受信機のシリアル番号とハードウェアバージョンを表示します。
-

ヘルプメニュー

ヘルプメニューレベル1では、以下の設定を調整できます。

製品情報

- SpeechLine Digital Wireless の製品ページへのリンク付き [QR コード](#)
-

取扱説明書

- 取扱説明書ダウンロード用[QRコード](#)
-



SL MCR DW

2 チャンネルまたは 4 チャンネルの SpeechLine マルチチャンネルレシーバーは、SpeechLine デジタルワイヤレスシリーズに最適な追加機器です。目立たないデザインのおかげで、マルチチャンネルレシーバーは、壁でも天井でも、あらゆる部屋に素早く簡単に設置できます。



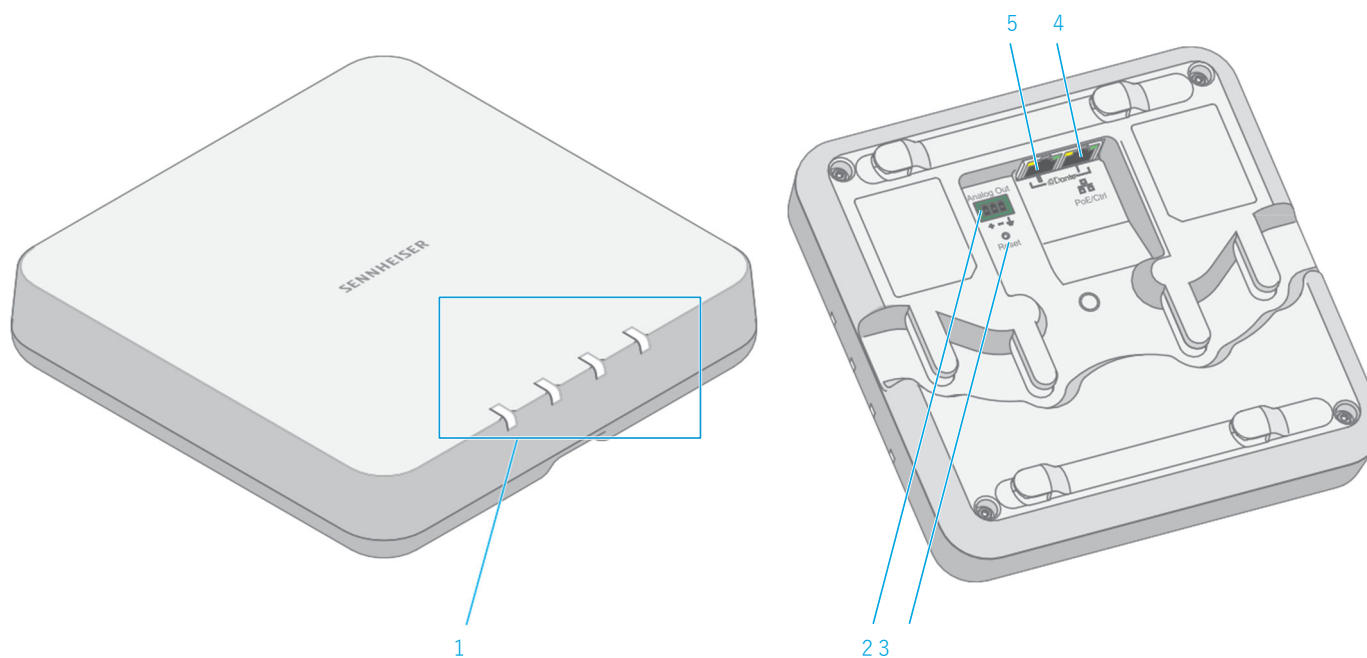
[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要と操作要素

前面

背面



1 ステータスLED

- 「ステータスLEDの意味」を参照

2 アナログ出力3ピンソケット

- アナログオーディオ出力（「レシーバーの接続」を参照）
- Phoenix Contact MCVW 1.5-3-ST-3.81 に対応

3 リセットボタン

- 工場出荷時の設定を復元します
- 5秒間押し続ける

4 Dante I / PoE / Ctrl RJ-45 ソケット

- デジタルオーディオ出力（「レシーバーの接続」を参照）
- PoE 供給 (Power over Ethernet)（「レシーバーの起動」を参照）
- Sennheiser Control Cockpit またはメディア制御システムによる設定（「ネットワーク経由でのレシーバーの制御と監視」を参照）

5 Dante II RJ-45 ソケット

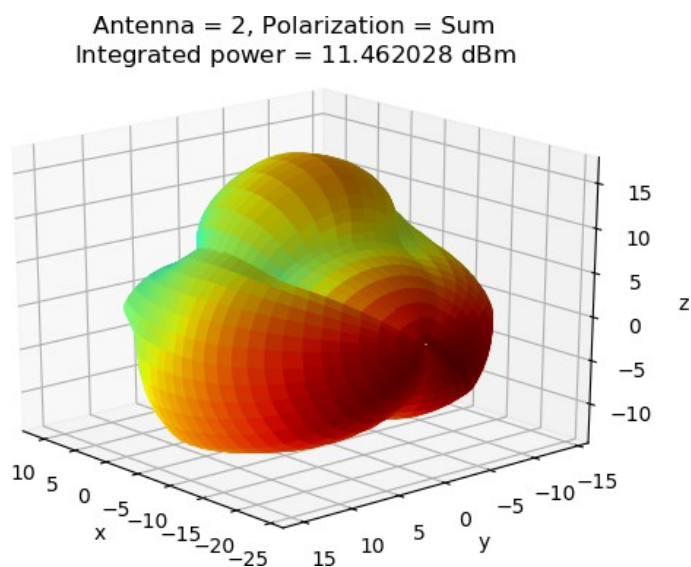
- デジタルオーディオ出力（「レシーバーの接続」を参照）



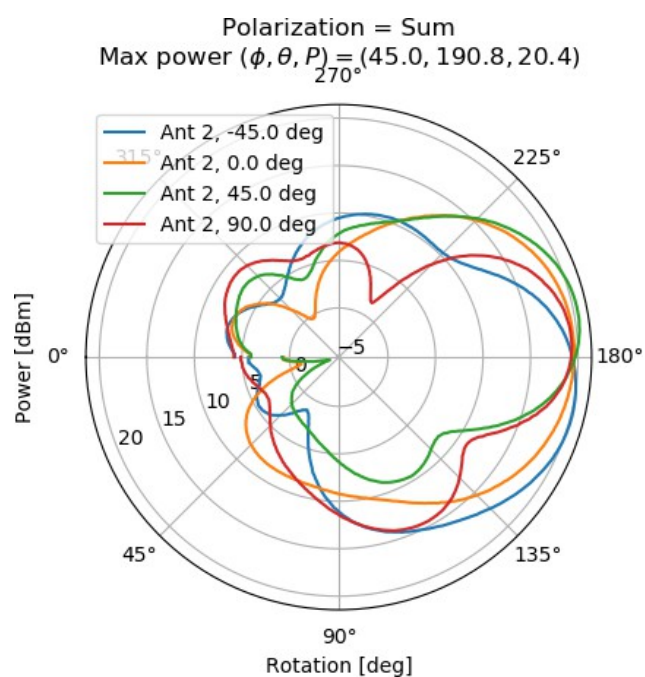
内蔵アンテナの指向性

本受信機には8本の内蔵アンテナが搭載されています。各アンテナの指向性は以下の通りです。

指向性：全体

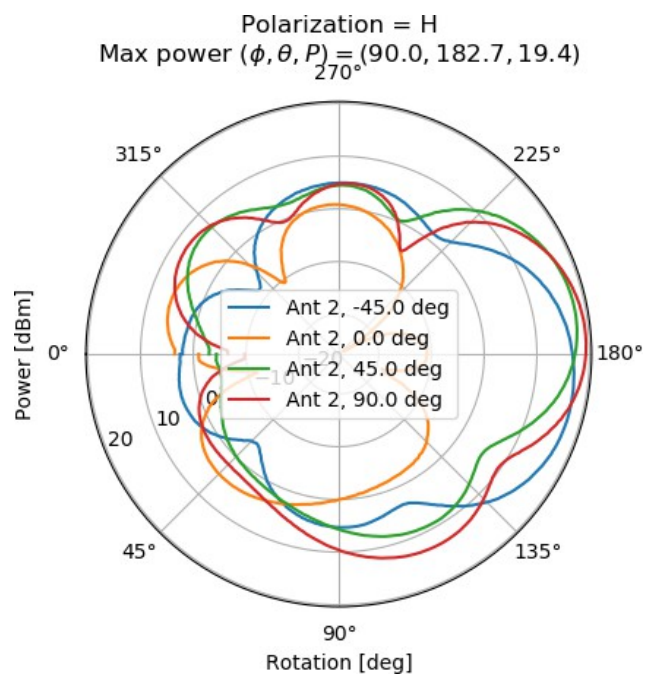


放射パターン：全体

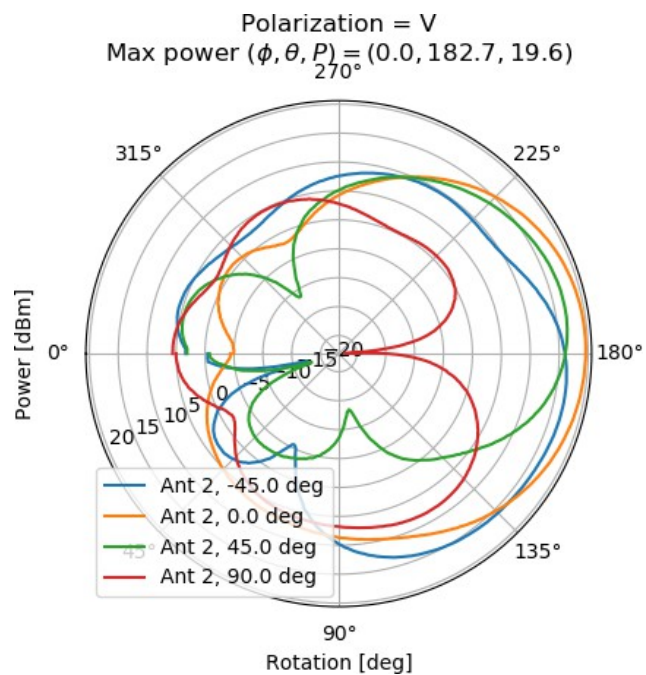




指向性パターン：水平



偏波特性図：垂直





受信機の接続

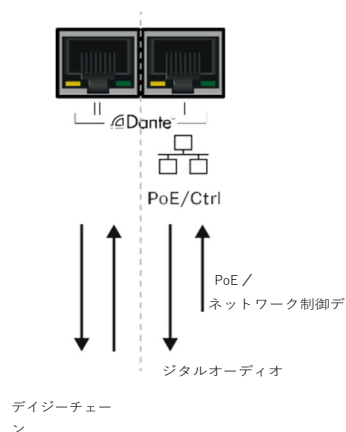
本受信機はアナログおよびデジタル音声信号を出力できます。

アナログ音声信号は、3 ピンアナログ出力端子から出力されます。

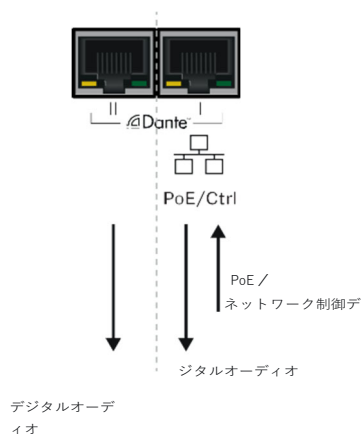
デジタルオーディオ信号は、2つのRJ-45ソケットを備えたDanteインターフェースを介して出力されます。このインターフェースは、ネットワーク経由の制御および設定、ならびにPower over Ethernet (PoE) 給電にも使用されます。

以下のバリエーションが可能です：

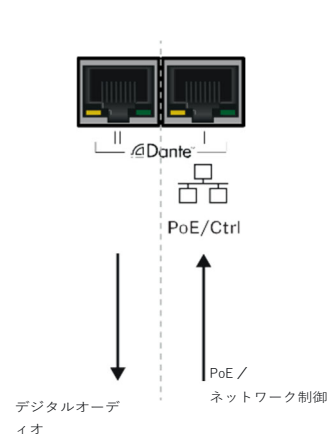
バリエーション1
シングルケーブルモード (デフォルト)



バリエーション2
オーディオ冗長モード



バリエーション3
3分割モード



バリエーションを設定するには、
Audinate Dante Controllerソフトウェアが必要です：
www.audinate.com

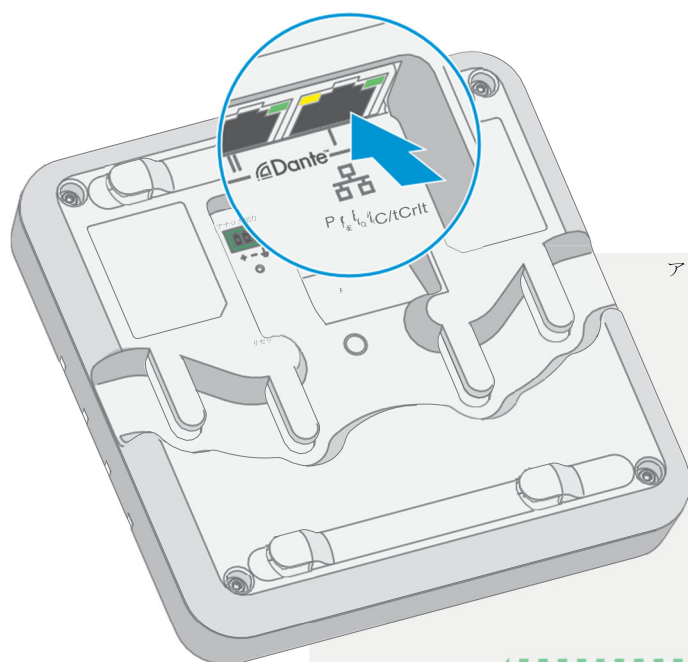


ネットワークへの接続（電源供給と設定）

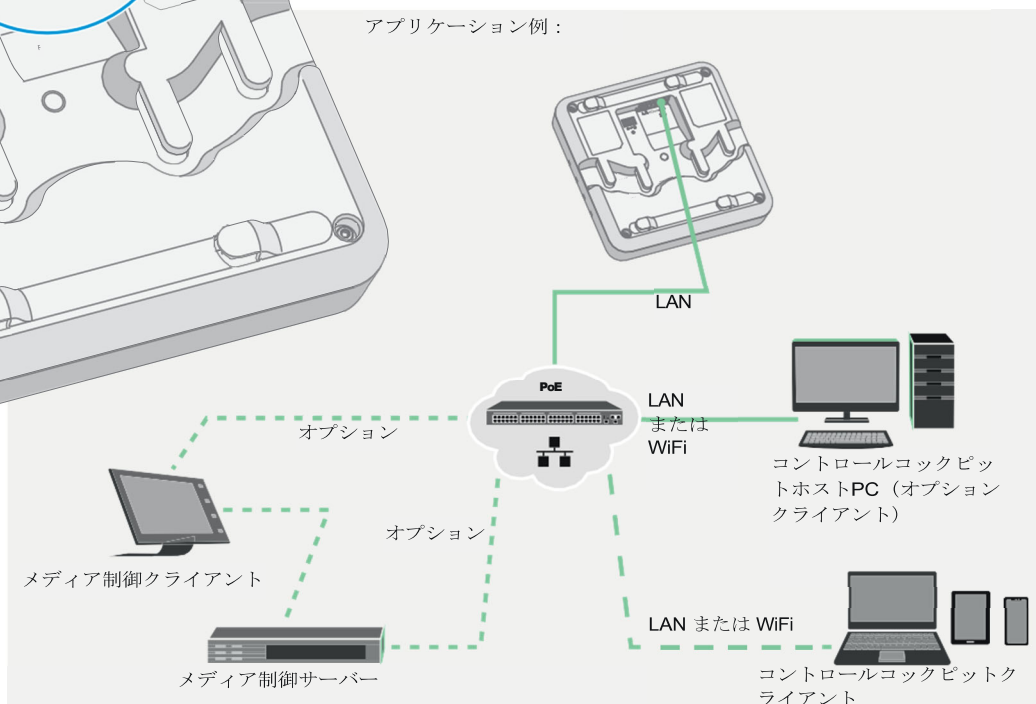
PoE/Ctrl RJ-45 ソケット (Dante I) は、Power over Ethernet によるレシーバーの電源供給と、Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアを使用した設定の両方に使用されます（「ネットワーク経由でのレシーバーの制御と監視」を参照）。

▷ ネットワークでは、PoE または PoE インジェクタを提供するスイッチを使用できます。

またはPoEインジェクターを使用できます。



アプリケーション例：





デジタルオーディオ信号出力

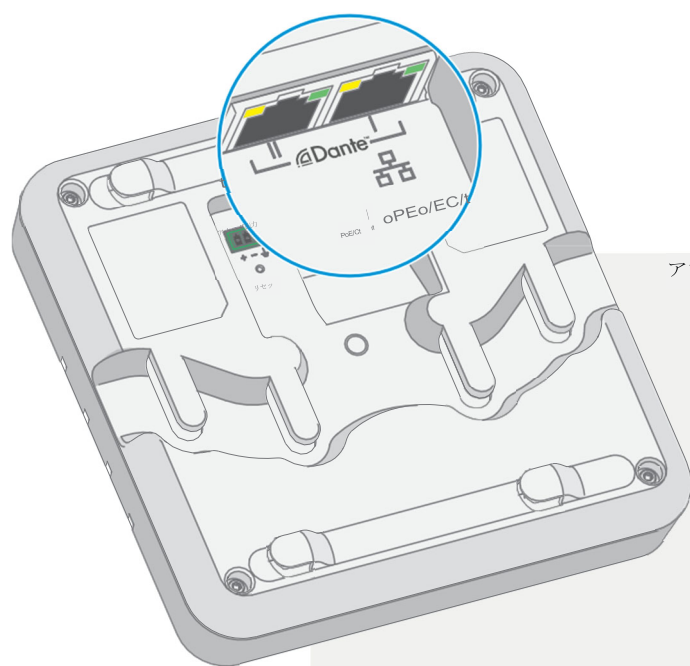
2つのRJ-45ソケット（Dante IおよびDante II）を備えたDante™インターフェースは、デジタルオーディオ信号の出力に使用されます。このインターフェースは、冗長出力およびデジチェーン接続をサポートしています（詳細については上記を参照してください）。



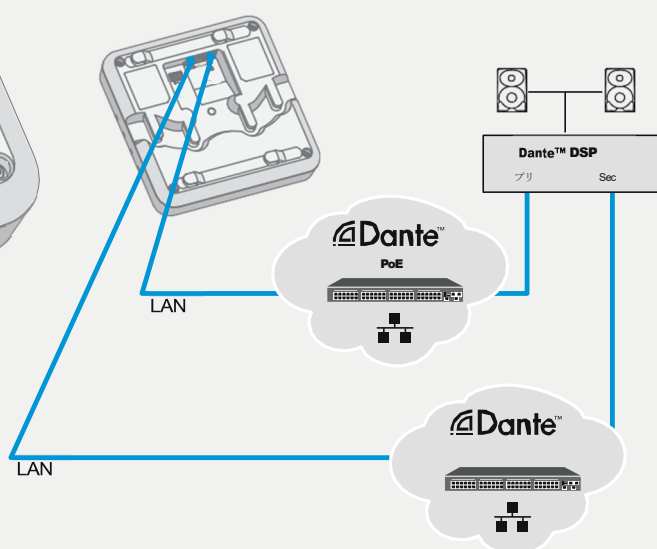
デジタルオーディオ出力は、個々のチャンネルからの信号（SL MCR 4 DWでは4チャンネル、SL MCR 2 DWでは2チャンネル）とチャンネルの合計信号を提供します。

Sennheiser Control Cockpit で、合計信号を自動または手動でミックスするかを設定できます（

「ネットワーク経由でのレシーバー制御と監視」参照）。



アプリケーション例：



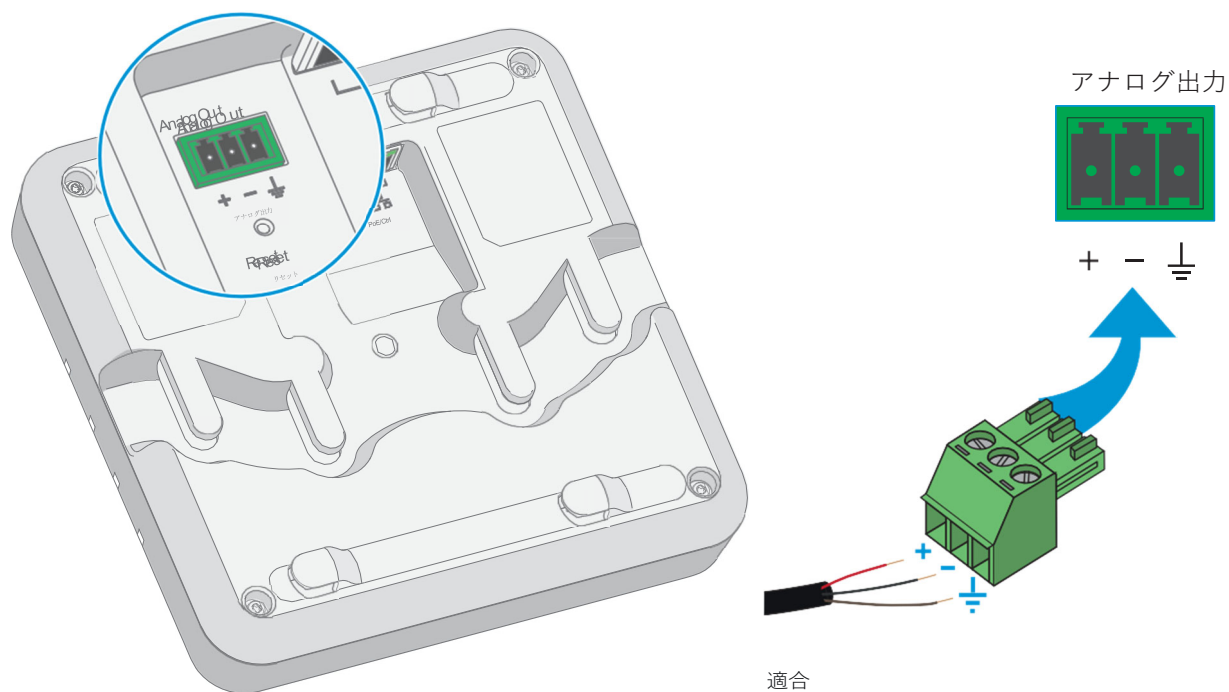


アナログオーディオ信号の出力

アナログ出力端子からは、全受信チャンネルの合計信号が出力されます。



Sennheiser Control Cockpit で、合計信号を自動または手動でミックスする設定が可能です（「ネットワーク経由での受信機の制御と監視」を参照）。



適合

Phoenix Contact MCVW 1.5-3-ST-3.



レシーバーの取り付け

設置に関する安全上の注意

製品の設置時には、以下の安全上の注意を守ってください。

- ▷ 物理的な取り付けおよびすべての電気設備の設置は、専門家が行わなければなりません。
 - ▷ 専門技術者は、割り当てられた作業を適切に評価し、潜在的な危険を特定し、適切な安全対策を講じることができるよう、十分な専門的訓練、経験、および適用される規定、規制、規格に関する知識を有している必要があります。
 - ▷ 製品の取り付け時には、すべての地域、国内、国際的な規制および規格を遵守し、順守してください。
-

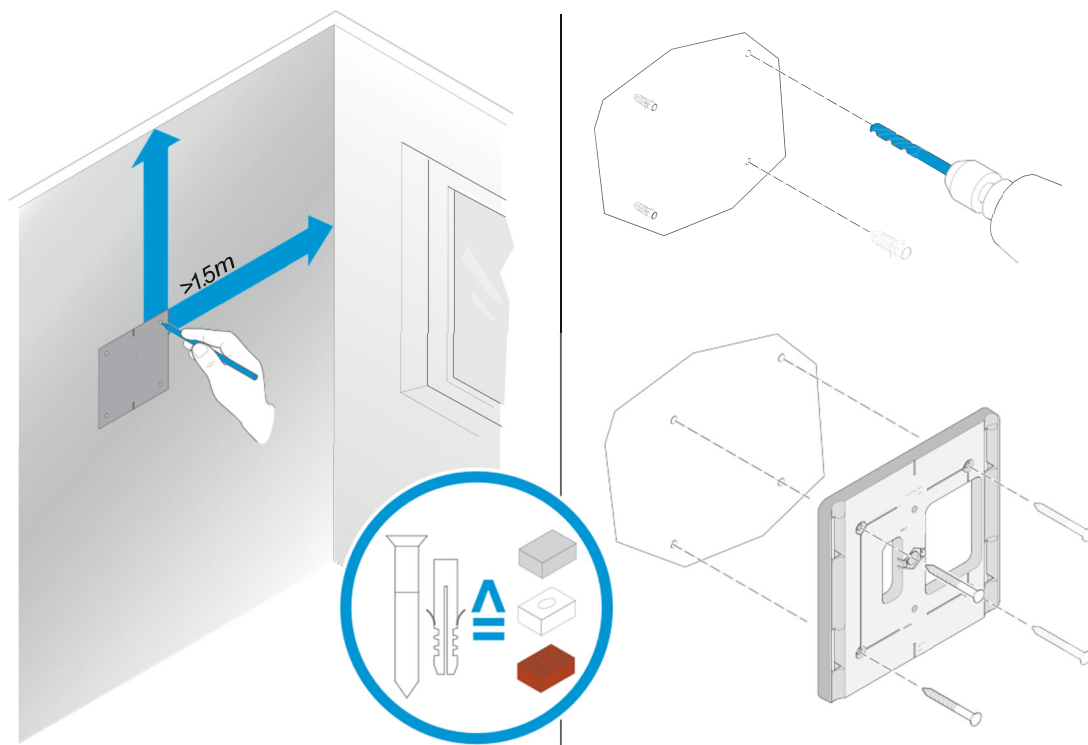
以下の取り付け方法が利用可能です：

受信機の壁面取り付け

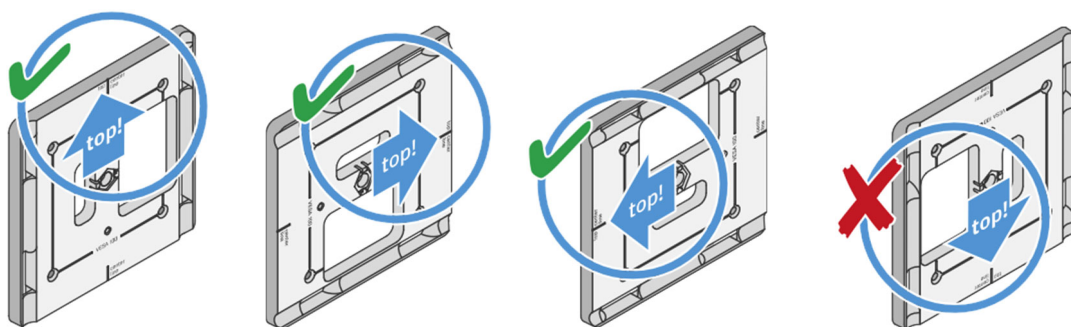
レシーバーを壁に取り付けるには、付属の取り付けフレームが必要です。



製品を壁に取り付けるためのネジとアンカーは付属していません。壁の材質に適したネジとアンカーをご使用ください。
壁の特性に適したネジとアンカーをご使用ください。



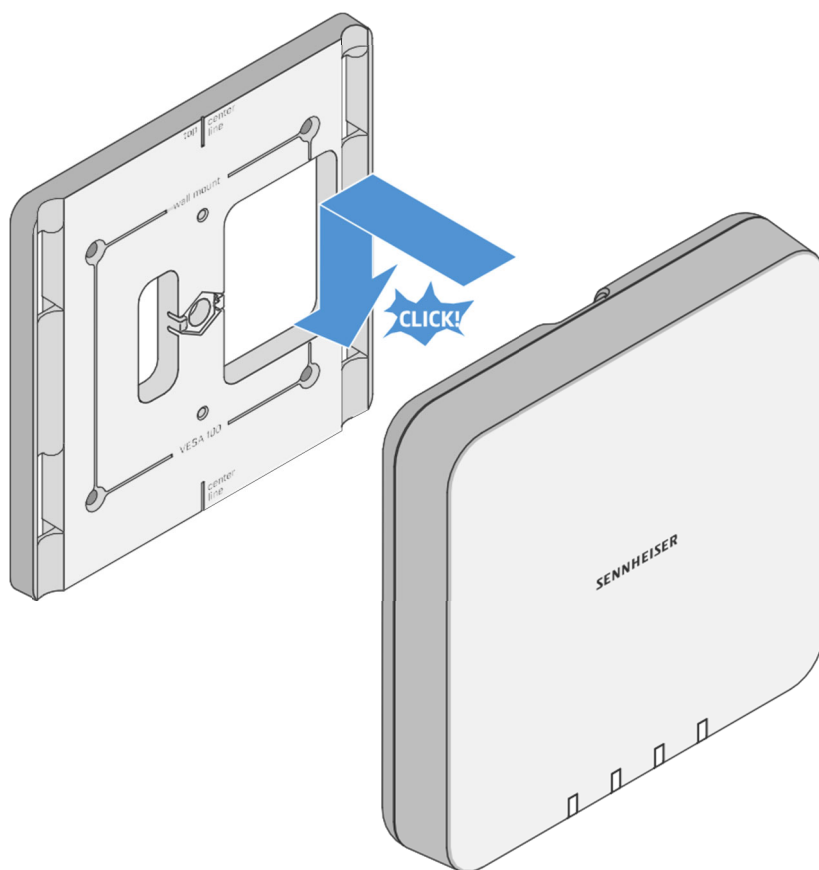
- ▷ 付属のドリル用テンプレートを使用して、壁掛け用のドリル穴の位置をマークしてください。
- ▷ 他の壁や天井から最低1.5mの距離を保ってください。
- ▷ 取り付けフレームを壁に固定する際は、適切なネジとアンカーを4本使用してください。



- ▷ 取り付けフレームが正しく位置合わせされていることを確認してください。



取り付けフレームの上部マークが下を向いてはいけません。そうしないと受信機が落下して損傷する恐れがあります。



図のようにレシーバーをマウントフレームに挿入し、カチッと音がして固定されるまで押し込んでください。

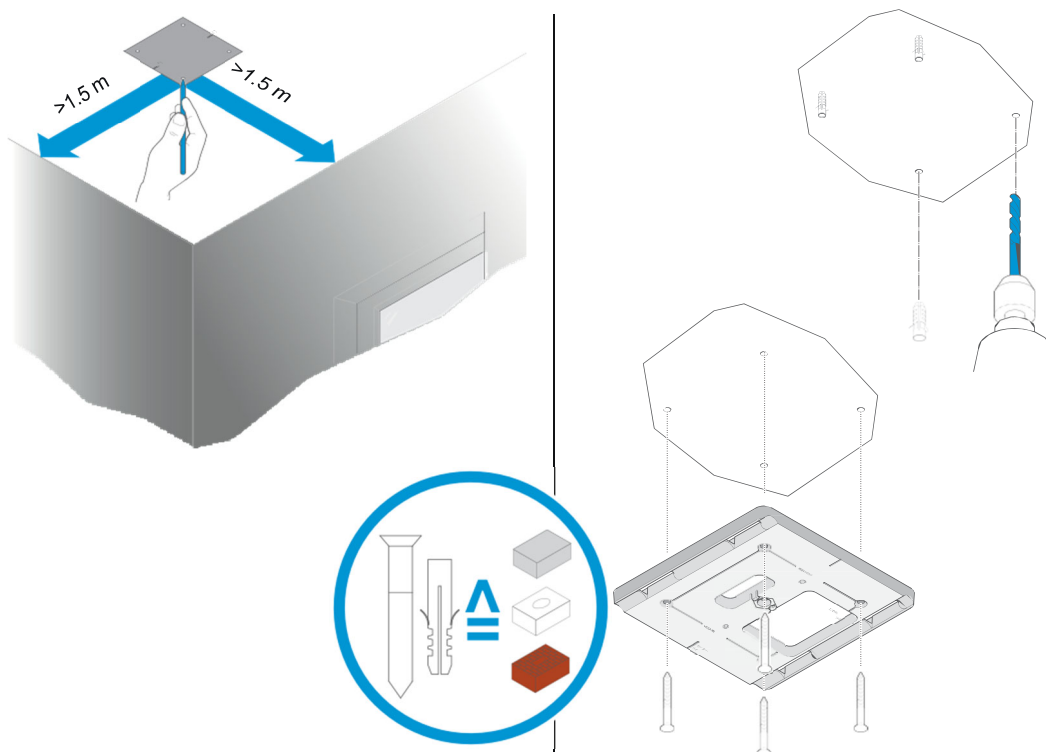


天井へのレシーバー取り付け

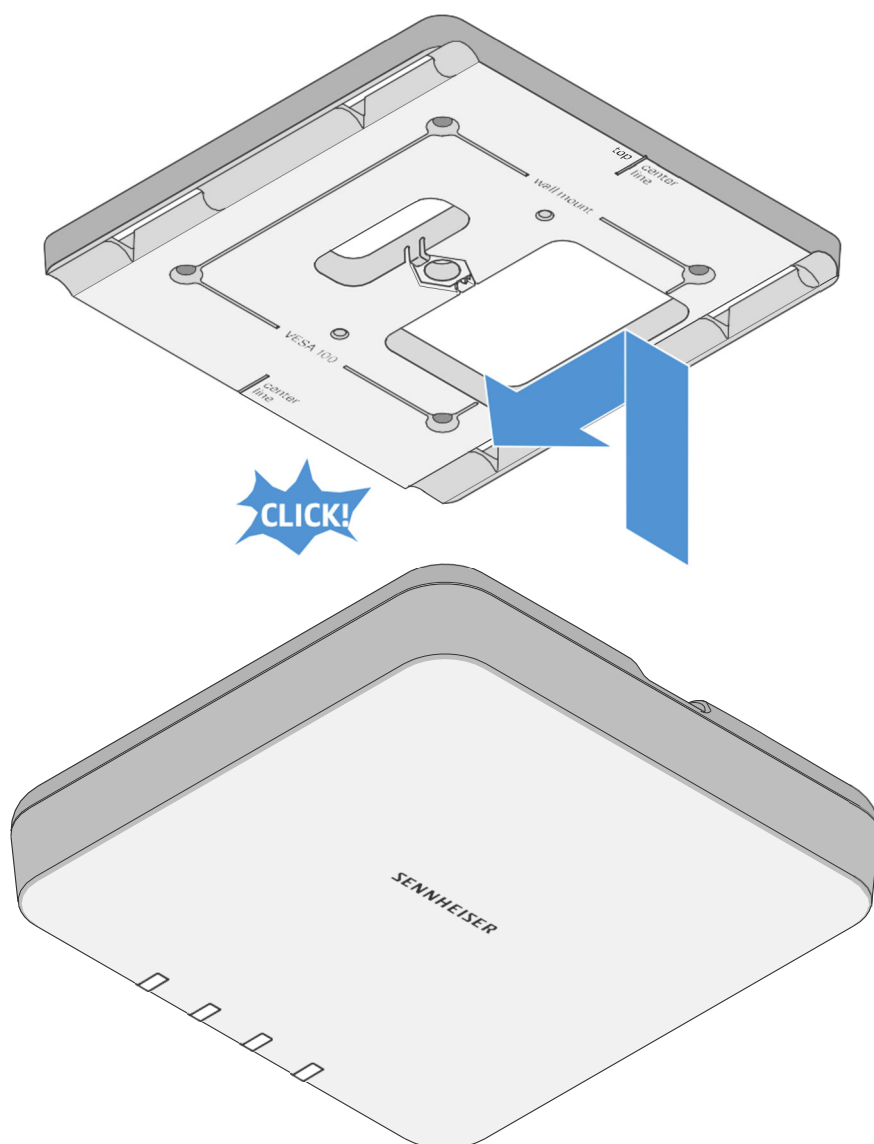
天井にレシーバーを取り付けるには、付属の取り付けフレームが必要です。



壁への取り付け用ネジとアンカーは付属していません。壁の材質に適したネジとアンカーをご使用ください。
壁の特性に適したネジとアンカーをご使用ください。



- ▷ 付属のドリル用テンプレートを使用して、天井取り付け用のドリル穴の位置をマークしてください。
- ▷ 壁から最低1.5mの距離を保ってください。
- ▷ 取り付けフレームを天井に、適切なネジとアンカー4本で固定してください。



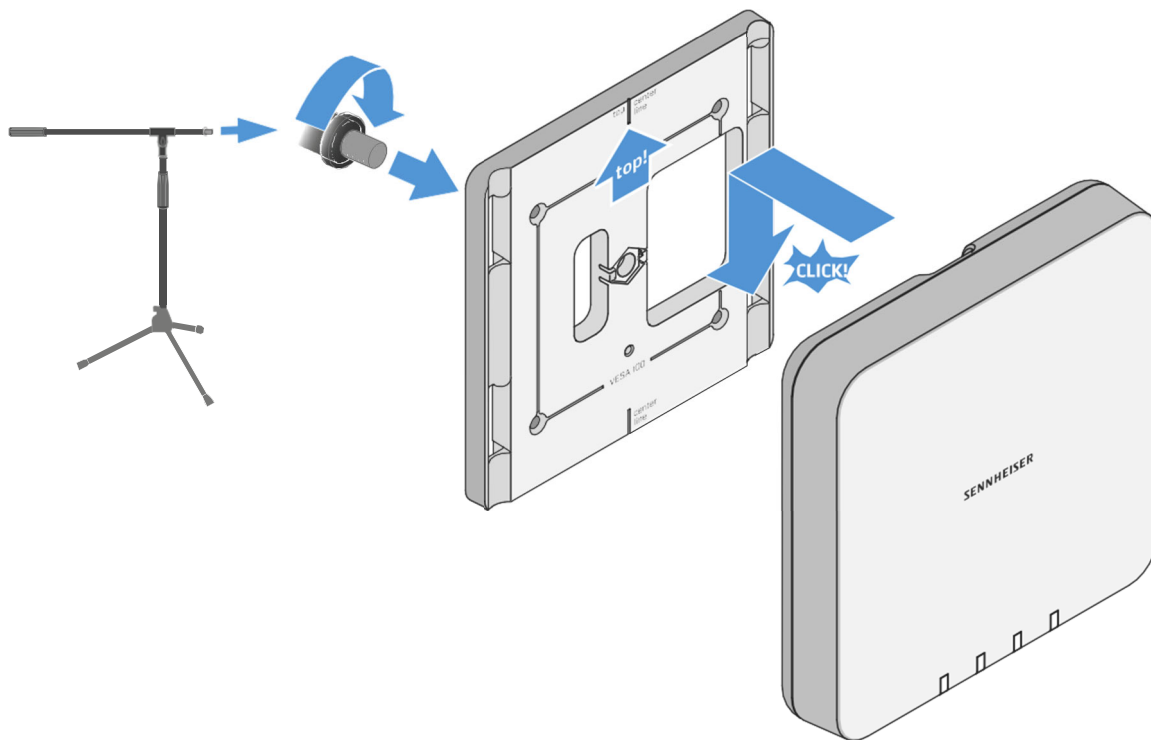
- ▷ 図のようにレシーバーをマウントフレームに挿入し、カチッと音がするまで押し込みます。



スタンドへのレシーバー取り付け

取り付けフレーム中央部のネジ山は、ブームアーム付き標準マイクスタンド（3/8インチネジ対応）への取り付けに適しています。

- ▷ 図のようにマウントフレームをマイクスタンドにねじ込みます。
- ▷ 図のようにレシーバーをマウントフレームに挿入し、カチッと音がして固定されるまで押し込みます。



注意

落下物による危険



スタンドに受信機を不適切に取り付けた場合、スタンドと受信機が転倒する恐れがあります。これにより、人身事故や物的損害が発生する可能性があります。

- ▷ 中央荷重5kg用に設計されたスタンドを使用してください。
- ▷ 図のようにブームアームの長さを可能な限り短く調整してください。
- ▷ スタンドの高さは最大2メートルに設定してください。
- ▷ スタンドと取り付けられた受信機の総重量が7kgを超えないようにしてください。



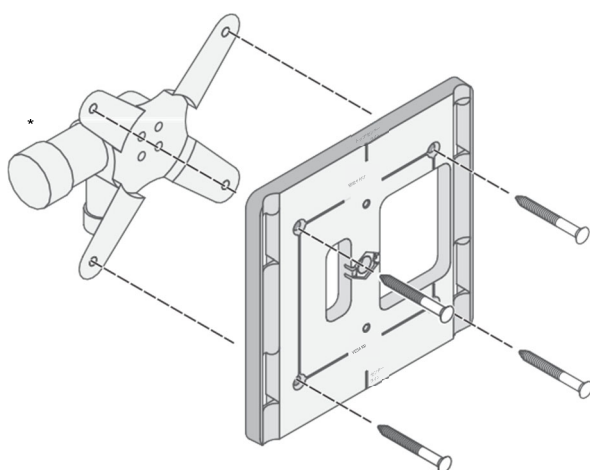
レシーバーをVESAマウントに取り付ける

取り付けフレームの穴は100mm間隔で配置されているため、あらゆるVESA 100マウントに取り付け可能です。

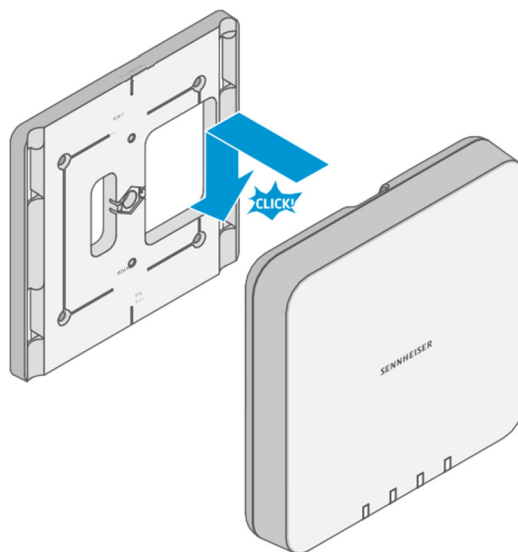
- ▷ 図のように、適切なネジ4本を使用して取り付けフレームをVESAマウントにねじ込みます。
- ▷ 図のようにレシーバーをマウントフレームに挿入し、カチッと音がするまで押し込みます。



VESAマウントの製造元が提供する設置および安全に関する指示に従ってください。



*VESA 100マウントの例





受信機の実作開始

起動時には以下の情報を遵守してください。

レシーバーの電源システムへの接続/切断

受信機はPower over Ethernet (PoE) で給電されます。電源供給が確立されると、受信機は自動的に電源が入ります。独立した電源スイッチはありません。

▷ 「ネットワークへの接続（電源供給と設定）」を参照してください。

受信機が起動すると、4つのLED全てが約20秒間緑色に点灯します。その後、各チャンネルの状態を表示するようにLEDが切り替わります。

▷ 「ステータスLEDの意味」を参照してください。

受信機の実作と設定

レシーバーの実作と設定は、Sennheiser Control Cockpit制御ソフトウェアを使用して行います。デバイス本体での実作はできません。

▷ 「ネットワーク経由での受信機の実作と監視」を参照してください。

ネットワーク経由での受信機の実作と監視

レシーバーの設定と使用には、無料のSennheiser Control Cockpit制御ソフトウェアが必要です。こちらからダウンロードできます：

www.sennheiser.com/control-cockpit-software



Sennheiser Control Cockpitをご利用いただくには、ソフトウェアのアクティベーションコードを受け取るため、メールアドレスによる初回登録が必要です。



オンラインヘルプには、ゼンハイザー コントロールコックピットの機能や、SL MCR DW およびネットワークの設定方法に関する詳細情報が記載されています。オンラインヘルプは、ゼンハイザー コントロールコックピットの製品ページおよびソフトウェア本体内でご覧いただけます。

www.sennheiser.com/control-cockpit-software

メディア制御プロトコルの使用

Sennheiser Sound Control Protocolを使用することで、メディア制御システム経由でSL MCR DWを制御できます。

メディア制御プロトコルのドキュメントは製品ページでご覧いただけます：

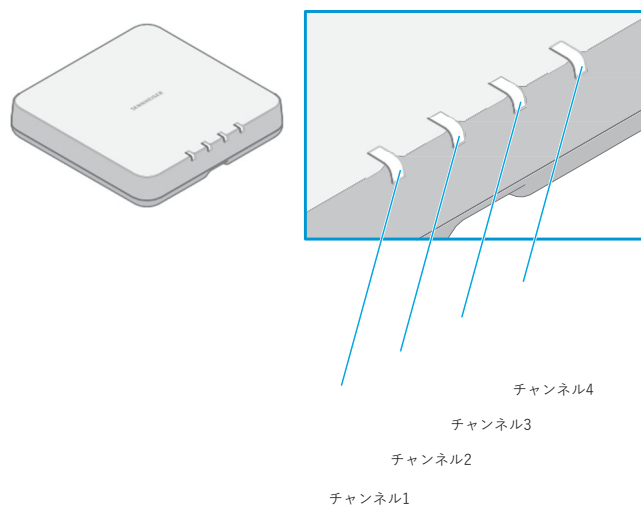
www.sennheiser.com/sl-mcr-dw



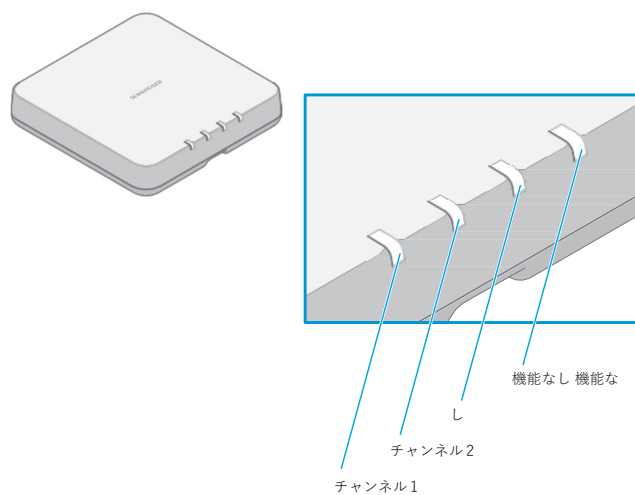
ステータスLEDの意味

4つのLEDは、デバイス全体の状態情報、または2チャンネルまたは4チャンネルのマイクチャンネルのいずれかの状態情報を表示します。

バリエーション：SL MCR 4 DW（4チャンネル）



バリエーション：SL MCR 2 DW（2チャンネル）



LED が個々のチャンネルではなくデバイス全体のステータスを表示している場合、4 つの LED すべて（SL MCR 4 DW バリエーション）または最初の 2 つの LED（SL MCR 2 DW バリエーション）が点灯または点滅します。

各チャンネルのLEDは、対応する無線接続のステータスメッセージを表示します。



また、コントロールコックピットの追加情報にも注意してください。



すべてのLEDが緑色

- ▷ 電源投入後：
デバイスが起動中（約20秒）。その後ステータス情報が表示されます。
起動中は、2チャンネルモデルSL MCR 2 DWでも4つのLED全てが緑色に点灯します。
- ▷ 動作中：
すべてのチャンネルで送信機への無線リンクが確立されました。

すべてのLEDが緑色で点滅

- ▷ 制御コックピットでデバイス全体の識別機能が開始されました。

全LEDが黄色に点灯

- ▷ 受信したすべての送信機が **ミュート** スイッチでミュートされました。

全LEDが黄色で点滅中

- ▷ デバイスはファームウェア更新を実行中です。
「ファームウェアの更新」を参照してください。

すべてのLEDが赤色

- ▷ いずれのチャンネルも送信機との無線リンクがありません。

すべてのLEDが赤色で点滅

- ▷ デバイスエラーが発生しました。詳細はコントロールコックピットに表示されています。
または
- ▷ デバイスファームウェアの更新中にエラーが発生しました。詳細はコントロールコックピットに表示されます。

チャンネルのLEDが緑色

- ▷ 送信機への無線リンクが確立されています。

チャンネルのLEDが緑色で点滅

- ▷ このチャンネルの識別機能が
コントロールコックピットで開始されました。
受信した送信機のLEDも点滅します。



チャンネルのLEDが黄色

- ▷ 受信した送信機は **ミュート** スイッチでミュートされています。

チャンネルのLEDが黄色で点滅

- ▷ 受信機がファームウェア更新を実行中です。
「ファームウェアの更新」を参照してください。

チャンネルのLEDが赤色点灯

- ▷ 送信機との無線リンクが確立されていません。

チャンネルのLEDが赤色で点滅

- ▷ このチャンネルでエラーが発生しました。詳細はコントロールコックピットに表示されます。
または
- ▷ 送信機のファームウェア更新中にエラーが発生しました。
詳細はコントロールコックピットに表示されています。

チャンネルのLEDが赤と緑を交互に点滅

- ▷ このチャンネルでは **ペアリング** モードが有効です。
「ペアリング」を参照してください。

ファームウェアの更新

受信機および受信済み送信機のファームウェアは、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して更新されます。

この手順の詳細については、ソフトウェア自体のヘルプ、Sennheiser Documentation アプリ、または Sennheiser ウェブサイトのダウンロードエリアをご覧ください。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアのヘルプ



SLハンドヘルドDW

ハンドヘルド送信機（SL Handheld DW）は、インタビューや聴衆からの質問など、複数人が同時に話す場合に最適です。必要に応じてマイクカプセルを交換できます。ハンドヘルド送信機には高品質なMME 865-1マイクカプセルが付属します。MME 865-1は優れた存在感と高いフィードバック耐性を備え、特に音声用途向けに設計されています。

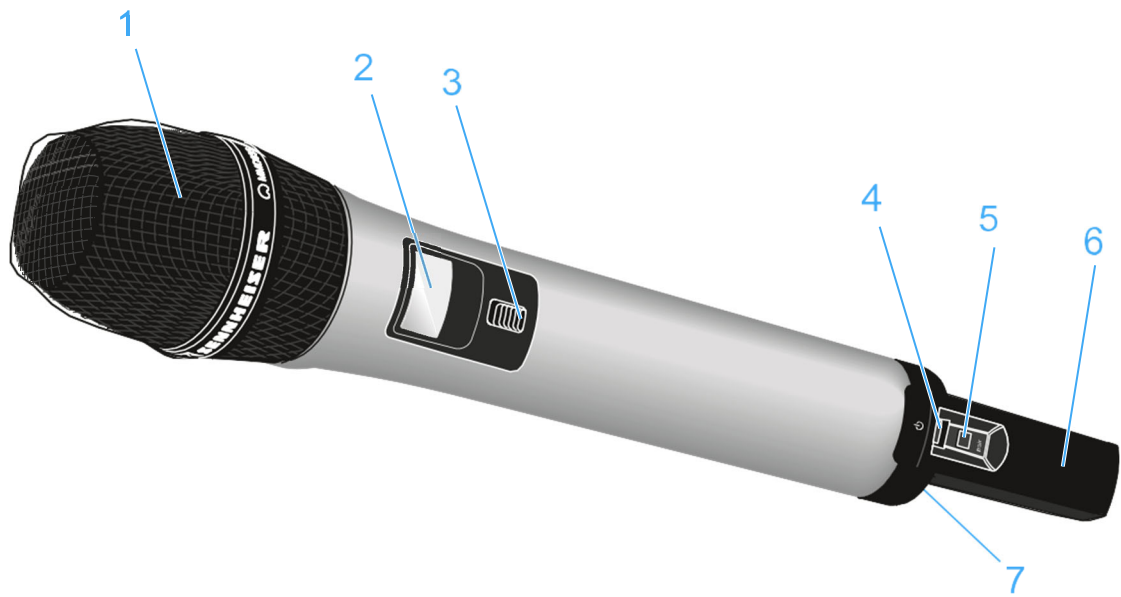
操作が簡単のため、スピーカーはすぐに使用でき、追加の説明は不要です。ハンドヘルド送信機の機能は最小限に抑えられており、プレゼンテーション中のストレスのない話しを可能にし、不要な操作オプションによるスピーカーの注意散漫を防ぎます。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)

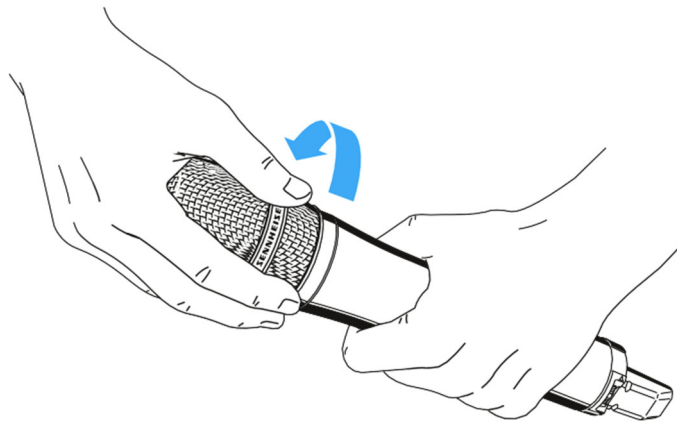


製品概要



1 ネジ式着脱可能なマイクヘッド（マイクカプセル付属）

ハンドヘルド型送信機は、MME 865-1 マイクカプセル付き、またはマイクカプセルなしの2種類があります。MME 865-1 は、スーパーカーディオイド指向性パターンを備えた、偏極型コンデンサーマイクカプセルを搭載しています。



マイクカプセルは取り外し可能で、別の指向性パターンを持つカプセルと交換できます。

2 ディスプレイパネル

- 「SLハンドヘルドDWの表示パネル上の表示」を参照



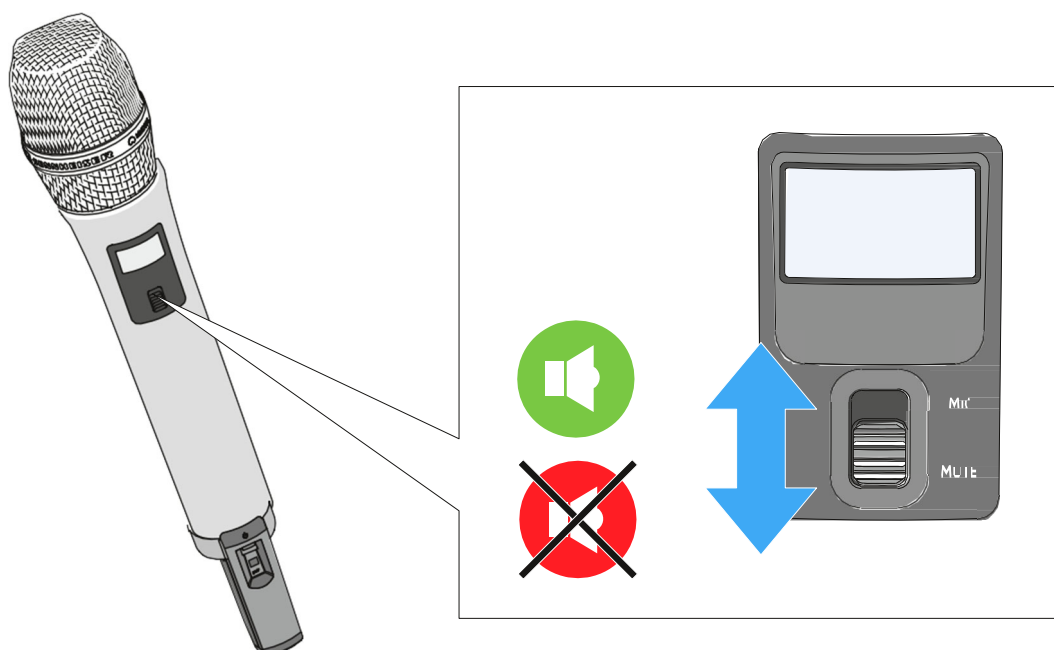
3 ミュートスイッチ

ハンドヘルド送信機はミュートスイッチでミュートできます。これは音声信号のみをミュートします。無線リンクは有効なまま、送信機は動作を継続します。

受信機のシステム設定メニューでミュートスイッチを無効化できます。ミュートスイッチが無効化されている場合、ハンドヘルド送信機をミュートできません。

ハンドヘルド送信機をミュートにするには：

- ▷ **MUTE**スイッチをMUTE位置にスライドさせます。
受信機の表示パネルに「ミュート」と表示されます。ハンドヘルド送信機と受信機の両方のステータスLEDが黄色に点灯します。



ミュートを解除するには：

- ▷ **MUTE**スイッチをMICの位置にスライドさせます。

4 ON/OFFボタンとステータスLED

- 短押しでハンドヘルド送信機の電源をオンにします
- 長押しでハンドヘルド送信機をオフにします
- LED: 「ハンドヘルド送信機のステータスLEDの意味」を参照

5 ペアリングボタン

- ペアリング済み受信機を識別するには短押し
- 長押しで別の受信機とペアリング
- 「ペアリング」を参照



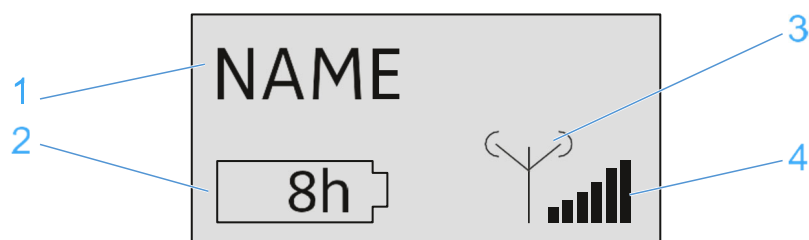
6 アンテナ

7 BA 10 バッテリーパック

- 「アキュパックの取り外し/挿入」を参照



SLハンドヘルドDWの表示パネルに表示される内容



1 無線リンク名

- 受信機のデバイス識別メニューで入力可能（「受信機の操作メニューの使用」を参照）。

2 アキュパックまたはバッテリーの容量を7段階で表示

- AC-カップパックまたはバッテリーの現在の充電状態をグラフィカルに表示します。
- アキュパックを使用している場合、残りの稼働時間が時間単位で表示されます。

3 送信機の RF 出力電力

- ハンドヘルド送信機の RF 出力電力を表示します。

4 RF信号レベルの6段階表示

- RF信号の現在のレベルを表示します。

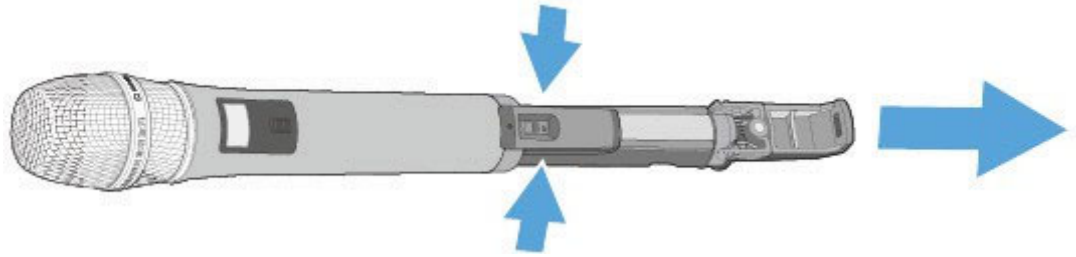
ハンドヘルド送信機の起動と使用

アキュパックの取り外し/挿入

バッテリーパックは初回使用前に充電する必要があります。バッテリーパックは、オプションのCHG 2またはCHG 4N充電器（「CHG 2充電器」または「CHG 4N充電器」を参照）または付属のUSBケーブルで充電できます。

アキュパックを取り外すには：

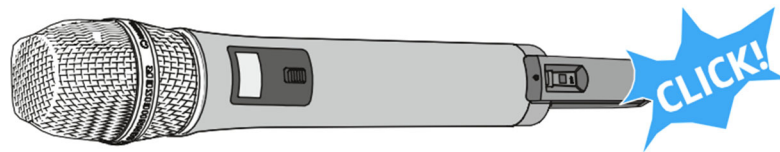
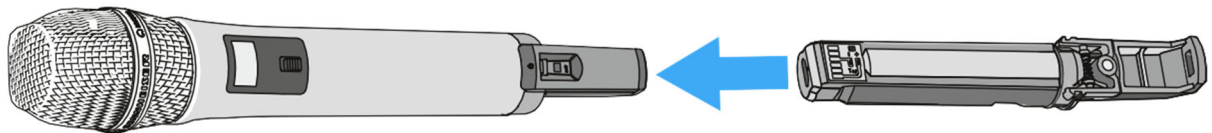
- ▷ 2つのロック解除ボタンを同時に押し、バッテリーパックをハンドヘルド送信機から引き抜きます。



アキュパックの装着方法：

▷図のようにバッテリーパックをハンドヘルド送信機へスライドさせて装着します。

バッテリーパックまたはバッテリーコンパートメントがカチッと音がして所定の位置にロックされます。





ハンドヘルド送信機の電源オン/オフ



電源投入後、受信機と送信機が無線リンクを確立するまで約10秒かかります。

ハンドヘルド送信機の電源を入れるには：

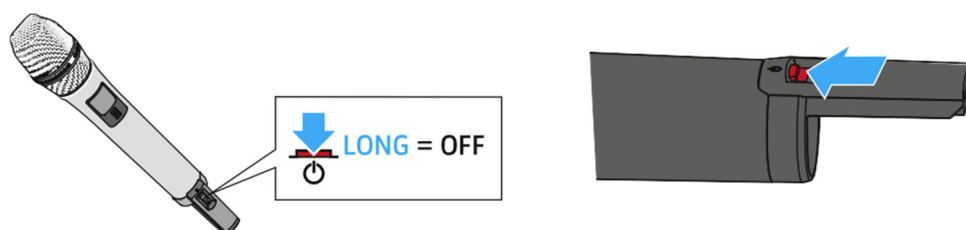
- ▷ 送信機本体の方向に向かってON/OFFボタンを短く押します。



ディスプレイパネルにホーム画面が表示されます（「SLハンドヘルドDWのディスプレイパネルの表示」参照）。ステータスLEDは受信機の現在の状態を示します（「ハンドヘルド送信機のステータスLEDの意味」参照）。最後にペアリングされた受信機への無線リンクは、受信機の電源が入ると自動的に確立されます。

ハンドヘルド送信機の電源を切るには：

- ▷ ON/OFFボタンを送信機本体方向に約3秒間押し込みます。



表示パネルとステータスLEDが消灯します。



ハンドヘルド送信機のステータスLEDの意味

緑色に点灯：

- 受信機への無線リンクが確立されました。ハンドヘルド送信機のバッテリーパックは十分に充電されています。
-

緑色で点滅：

- ペアリングボタンが短押しされました。ペアリング済みデバイスを識別中です。
-

緑と赤が交互に点滅：

- ペアリングボタンが長押しされました。ハンドヘルド送信機は、同様にペアリングボタンが長押しされた受信機との無線リンクを確立します。
-

黄色点灯：

- ハンドヘルド送信機がMUTEスイッチでミュートされました。さらに、ディスプレイパネルに「ミュート」が表示されます。
-

黄色で点滅：

- ファームウェアの更新中です。
-

赤色点灯：

- 受信機との無線リンクが確立されていません。さらに、ディスプレイパネルに「No Link」が表示されます。
-

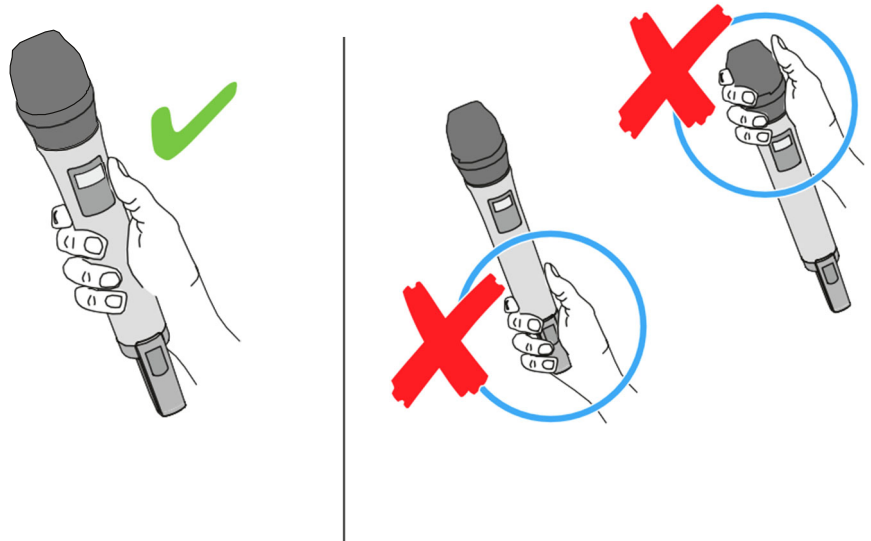
赤色点滅：

- ハンドヘルド送信機のバッテリーパック容量は、最大30分間の動作にのみ十分です。
-



ハンドヘルド送信機の使用時

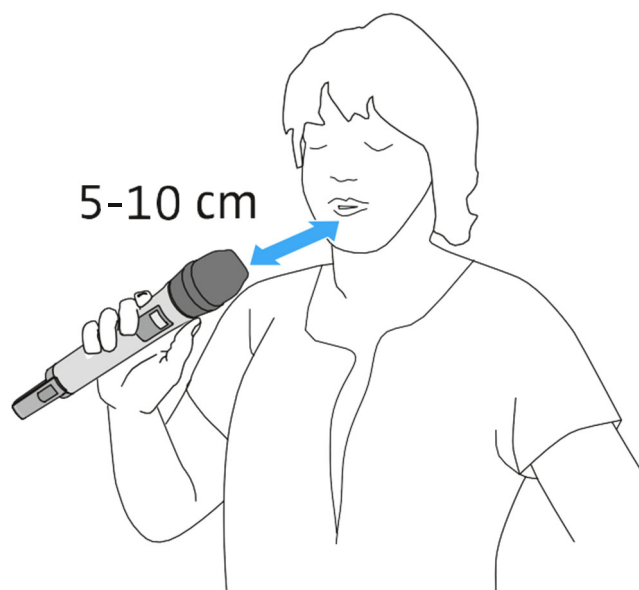
送信中にハンドヘルド送信機のアンテナに触れると、通信距離が大幅に低下します。
また、マイクカプセルを覆うと、マイクの指向特性が変化し、音質に影響します。



- ▷ ハンドヘルド送信機は本体部分のみを持ってください。
- ▷ ハンドヘルド型送信機は、お口の約5～10cm前に保持してください。

MME 865-1 マイクカプセルはスーパーカーディオイド指向性パターンを採用しています。

- ▷ ハンドヘルド型送信機を垂直に持ち、真上からサウンドインレットバスケットに向かって話してください。





ファームウェアの更新

受信機および対応送信機のファームウェアは、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して更新します。

この手順に関する詳細情報は、ソフトウェア内のヘルプ、Sennheiser Documentationアプリ、またはSennheiserウェブサイトのダウンロードエリアでご確認いただけます。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアヘルプ



ファームウェア更新時には、更新対象の送信機のみを電源オンにしてください。他のすべての送信機は電源をオフにしてください。



SL ボディパック DW

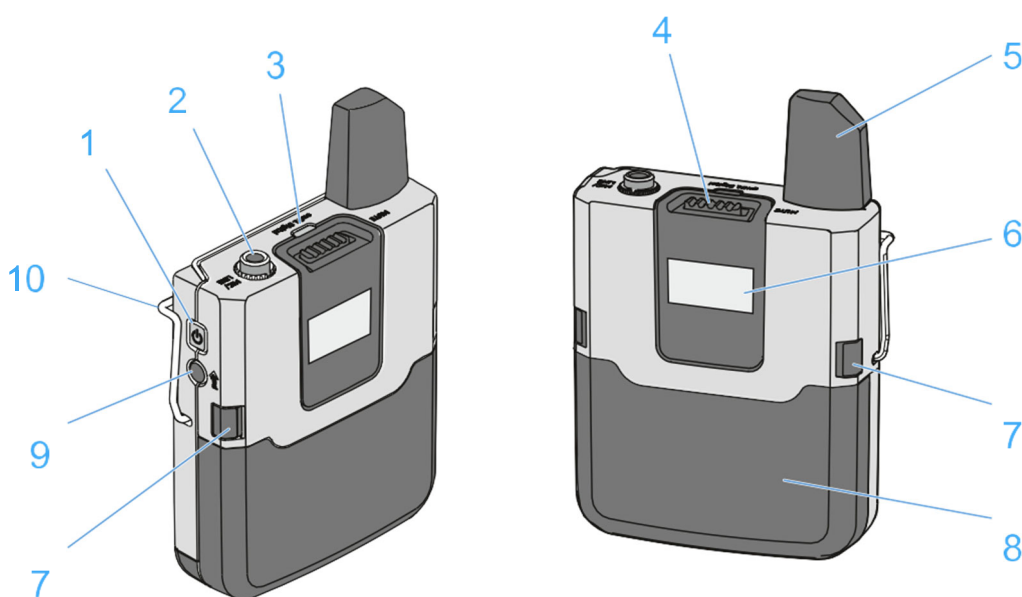
コンパクトで頑丈なSLボディパックDWボディパック送信機は、すべてのゼンハイザー製ヘッドセットおよびクリップオンマイク（例：SLヘッドマイク1またはMKE 1）と互換性があります。送信機と受信機間の双方向通信により、送信機の設定調整は不要です。送信機の液晶ディスプレイにはリンク名、バッテリー状態、受信品質が表示されます。簡単に操作できるミュートスイッチにより、必要に応じて送信機をミュートできます。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



1 ON/OFFボタン

- ボディパック送信機の電源を入れるには、ボタンを短く押します
- 長押しでボディパック送信機をオフにします

2 MIC/LINEジャックソケット (3.5 mm)

- クリップオンマイクまたはヘッドセットマイクを接続するための

3 ステータスLED

- 「ボディパック型送信機のステータスLEDの意味」を参照

4 ミュートスイッチ

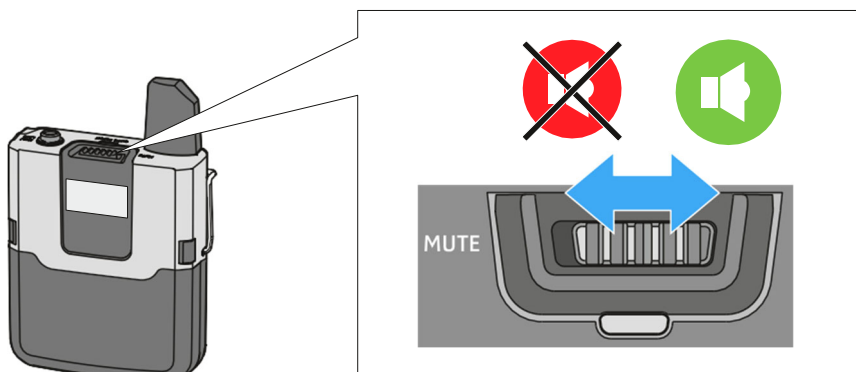
ボディパック型送信機はミュートスイッチでミュートできます。これにより音声信号のみがミュートされます。無線リンクは有効なまま維持され、送信機は動作を継続します。

受信機のシステム設定メニューでミュートスイッチを無効化できます。ミュートスイッチが無効化されている場合、ボディパック送信機はミュートできません。



ボディパック送信機をミュートにするには：

- ▷ **MUTE**スイッチをMUTE位置にスライドさせます。
受信機の表示パネルに「ミュート」と表示されます。ボディパック送信機と受信機の両方のステータスLEDが黄色に点灯します。



ミュートを解除するには：

- ▷ **MUTE**スイッチをMICの位置にスライドさせます。

5 アンテナ

6 表示パネル

- 「SL Bodypack DWのディスプレイパネル上の表示」を参照

7 ボタンロック解除

- アキュパックまたはバッテリーコンパートメントの解放用

8 BA 30 バッテリーパック

- 「アキュパックの取り外し/挿入」を参照

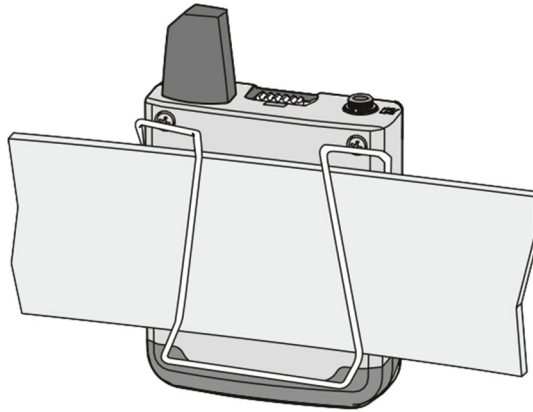
9 ペアリングボタン

- ペアリング済み送信機を識別するには短押し
- 長押しで別の送信機とペアリング
- 「ペアリング」を参照



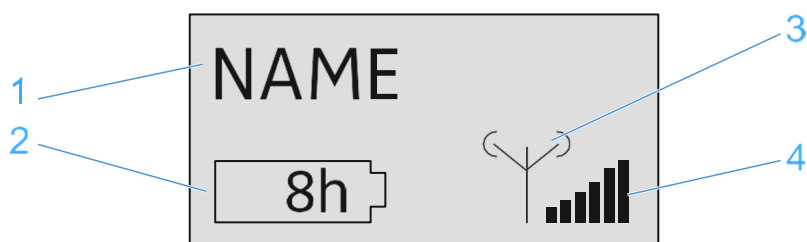
10 ベルトクリップ

ベルトクリップを使用して、ボディパック送信機を衣服（例：ベルト、ウエストバンド）に取り付けることができます。ボディパック送信機は、アンテナが覆われないように取り付ける必要があります。覆うと送信範囲が狭まります。





SL Bodypack DWの表示パネルに表示される内容



1 無線リンク名

- 受信機のデバイス識別メニューで入力可能です。

2 7段階表示によるアキュパックまたはバッテリー容量

- ACパックまたはバッテリーの現在の充電状態をグラフィカルに表示します。
- アキュパックを使用している場合、残りの稼働時間が時間単位で表示されます。

3 送信機のRF出力電力

- ハンドヘルド送信機の RF 出力電力を表示します。

4 RF信号レベルの6段階表示

- RF信号の現在のレベルを表示します。



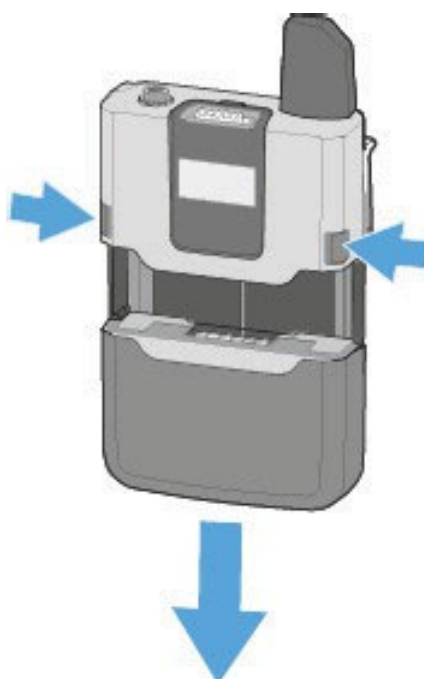
ボディパック送信機の起動と使用

アキュパックの取り外し/挿入

バッテリーパックは初回使用前に充電する必要があります。バッテリーパックは、オプションのCHG 2またはCHG 4N充電器（「CHG 2充電器」または「CHG 4N充電器」を参照）または付属のUSBケーブルで充電できます。

アキュパックを取り外すには：

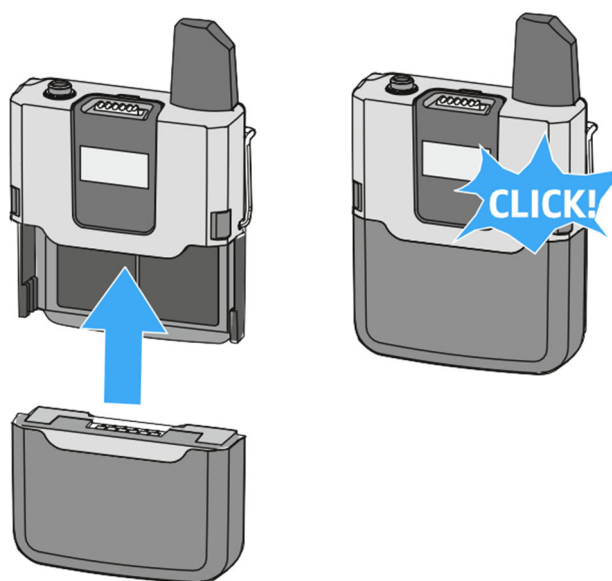
- ▷ 2つのロック解除ボタンを同時に押し、バッテリーパックをボディパック送信機から引き抜きます。



アキュパックの装着方法：

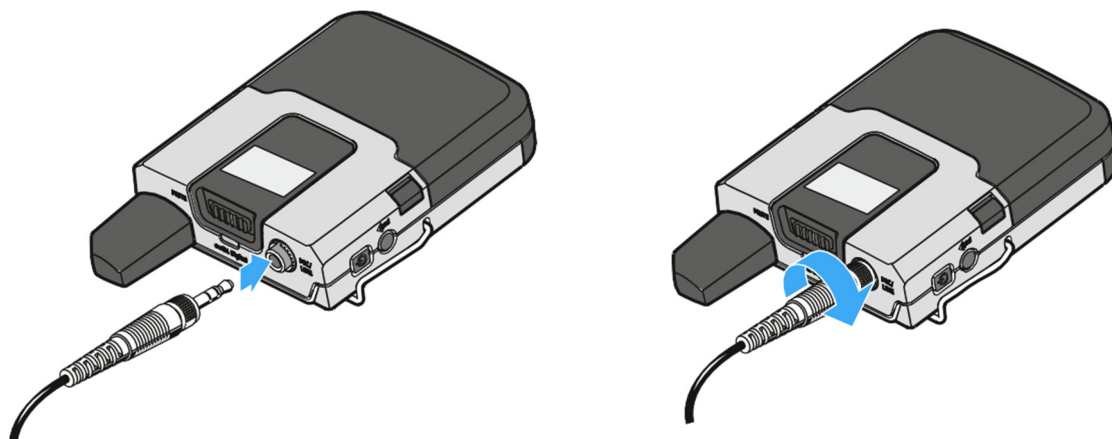
- ▷ 図のように、バッテリーパックをハンドヘルド送信機の上にスライドさせて装着します。

バッテリーパックまたはバッテリーコンパートメントがカチッと音がして所定の位置にロックされます。



クリップオンマイクまたはヘッドセットマイクをボディパック送信機に接続する

Sennheiserが推奨するクリップオンマイクまたはヘッドセットマイクのみ接続してください。これらのマイクはボディパック送信機用に最適化されています。



- ▷ クリップオンマイクまたはヘッドセットマイクのジャックプラグを、ボディパック送信機の3.5mmジャックソケット（MIC/LINE）に接続してください。
- ▷ カップリングリングを締め付けてジャックプラグを固定してください。
ジャックプラグがしっかりとロックされていない場合、音声信号に雑音が発生することがあります。



あるいは、3.5 mm ジャックケーブルを使用して、ラインソース（スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなど）をボディパック送信機に接続することもできます。



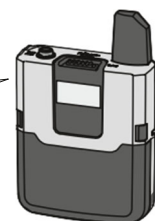
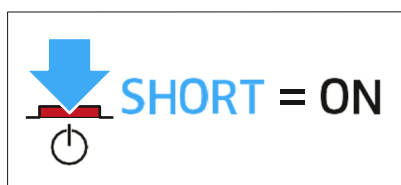
ボディパック送信機の電源のオン/オフ



電源投入後、受信機と送信機は無線リンクを確立するまで約 10 秒かかります。

ハンドヘルド送信機の電源を入れるには：

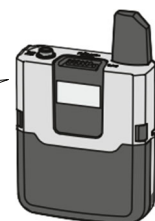
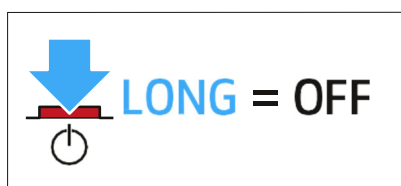
- ▷ **ON/OFFボタン**を短く押します。



ホーム画面がディスプレイパネルに表示されます（「SL Bodypack DWのディスプレイパネル上の表示」参照）。ステータスLEDは受信機の現在の状態を示します（「ボディパック送信機本体のステータスLEDの意味」参照）。最後にペアリングされた受信機への無線リンクは、受信機の電源を入れると自動的に確立されます。「ボディパック送信機のステータスLEDの意味」参照）。最後にペアリングされた受信機への無線リンクは、受信機の電源を入れると自動的に確立されます。

ハンドヘルド送信機の電源を切るには：

- ▷ **ON/OFFボタン**を約3秒間押します。



ディスプレイパネルとステータスLEDが消灯します。



ボディパック型送信機のステータスLEDの意味

緑色に点灯：

- 受信機との無線リンクが確立されています。ボディパック型送信機のバッテリーパックは十分に充電されています。
-

緑色点滅：

- ペアボタンが短く押されました。ペアリングされたデバイスを識別中です。
-

緑と赤が交互に点滅：

- ペアリングボタンが長押しされました。ボディパック送信機は、受信機のペアリングボタンも長押しされた状態で無線リンクを確立します。
-

黄色に点灯：

- ボディパック送信機がミュートスイッチでミュートされました。さらに、ディスプレイパネルに「ミュート」が表示されます。
-

黄色で点滅：

- ファームウェアの更新中です。
-

赤色点灯：

- 受信機との無線リンクが確立されていません。さらに、ディスプレイパネルに「No Link」が表示されます。
-

赤色点滅：

- ボディパック送信機のバッテリーパック容量は、最大30分間の動作にのみ十分です。
-



ファームウェアの更新

受信機および対応送信機のファームウェアは、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して更新します。

この手順に関する詳細情報は、ソフトウェア内のヘルプ、Sennheiser Documentationアプリ、またはSennheiserウェブサイトのダウンロードエリアでご確認いただけます。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアヘルプ



ファームウェア更新時には、更新対象の送信機のみを電源オンにしてください。他のすべての送信機は電源をオフにしてください。



SL テーブルスタンド 133-S DW

ワイヤレスSLテーブルスタンド133-S DWはスピーチ用に設計されています。すべてのゼンハイザーXLR-3グースネックマイクと互換性があり、演壇での討論、スピーチ、プレゼンテーションに最適です。

SL Tablestand 133-S DWは完全にケーブルレスであるため、非常に汎用性が高く、幅広い用途に適しています。

SL Tablestand 133-S DWは、ワイヤレスまたはUSB経由で充電可能です。2台のモバイルデバイス用ワイヤレス充電ベースCHG 2Wは別売です。SL Tablestand 133-S DWには最大10時間持続する充電式バッテリーが付属します。

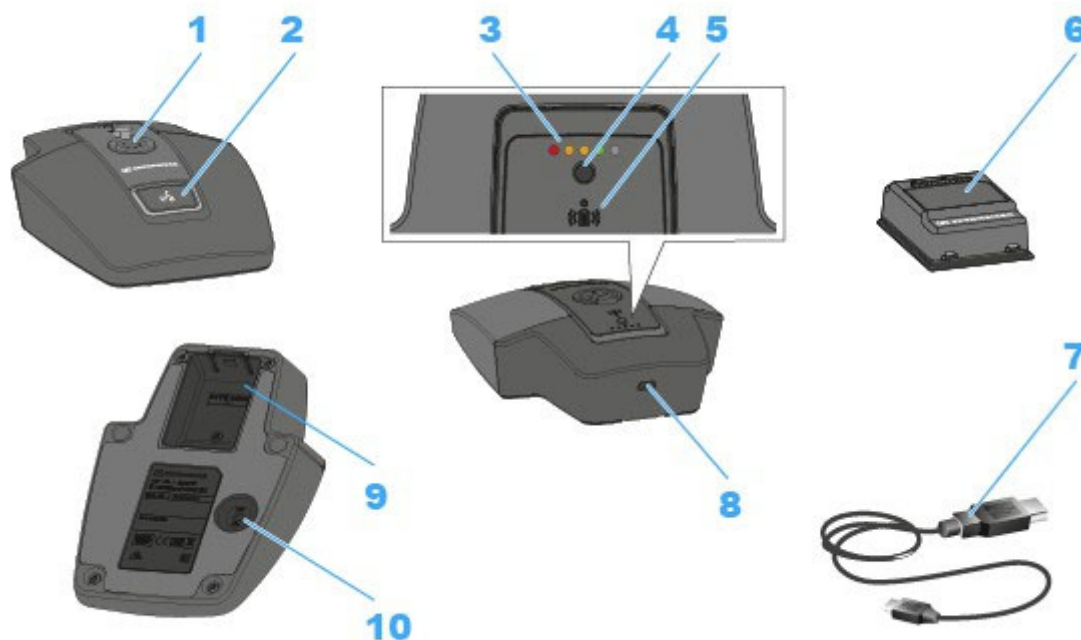
Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用すると、ワイヤレステーブルスタンドをリモートで監視および制御できます。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



1 グースネックマイク接続用XLR-3ソケット

2 ミュート機能付きON/OFFボタン

3 充電レベルLED

- 「テーブルスタンドの充電レベルLEDの意味」を参照

4 充電レベル表示ボタン

5 位置合わせ用LED

- SL テーブルスタンド 133-S DW が CHG 2W 充電ベース上で正しく充電位置に設置されると点灯します

6 BA 40 バッテリーパック

- 「BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入」を参照

7 USBケーブル

8 マイクロUSBソケット

9 BA 40 バッテリーパック用充電式バッテリーコンパートメント

- 「BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入」を参照

10 ペアボタン

- 短押しでペアリング済みの受信機を識別
- 長押しで別の受信機とペアリング
- 「ペアリング」を参照

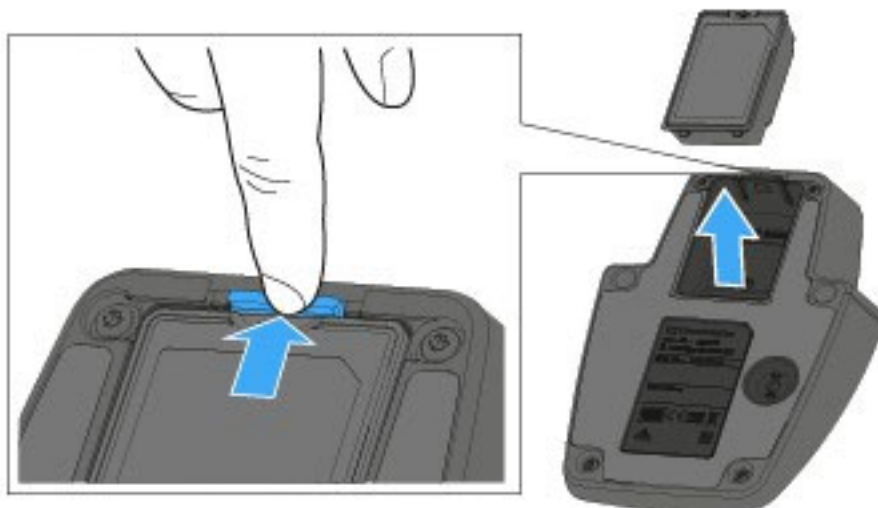


テーブルスタンドの起動と使用

BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入

付属のBA 40バッテリーパックはテーブルスタンドの電源として使用されます。初回使用前にバッテリーパックを充電する必要があります。バッテリーパックは、オプションのCHG 2W充電ベース（「CHG 2W充電ベース」参照）または付属のUSBケーブルで充電できます。

バッテリーパックを取り外すには：



- ▷ アンロックボタンをバッテリーパックから離す方向に引き、バッテリーパックを収納部から引き出します。

バッテリーパックの挿入方法：



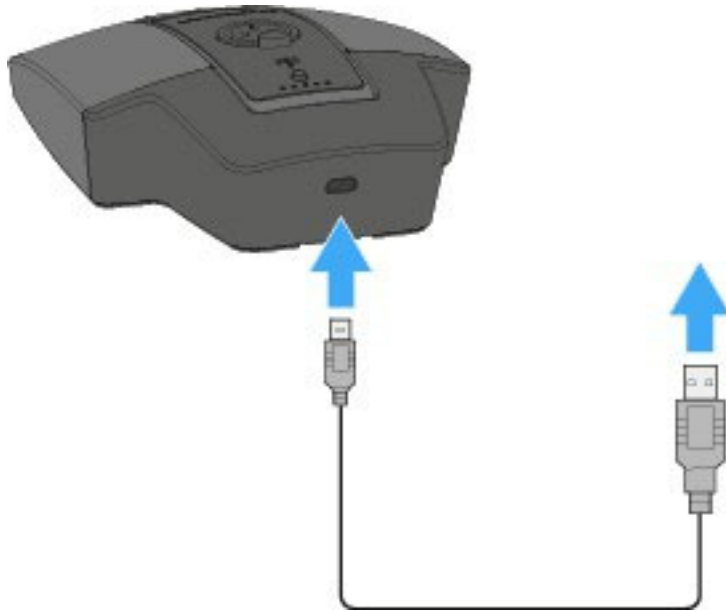
- ▷ 正しい向きでバッテリーパックをコンパートメントにスライドさせ、ロック解除ボタンが所定の位置に固定されるまで押し込みます。

充電レベルLEDが点灯し、充電レベルを表示します。



USB経由でのテーブルスタンド充電

USB経由でテーブルスタンドを充電するには：

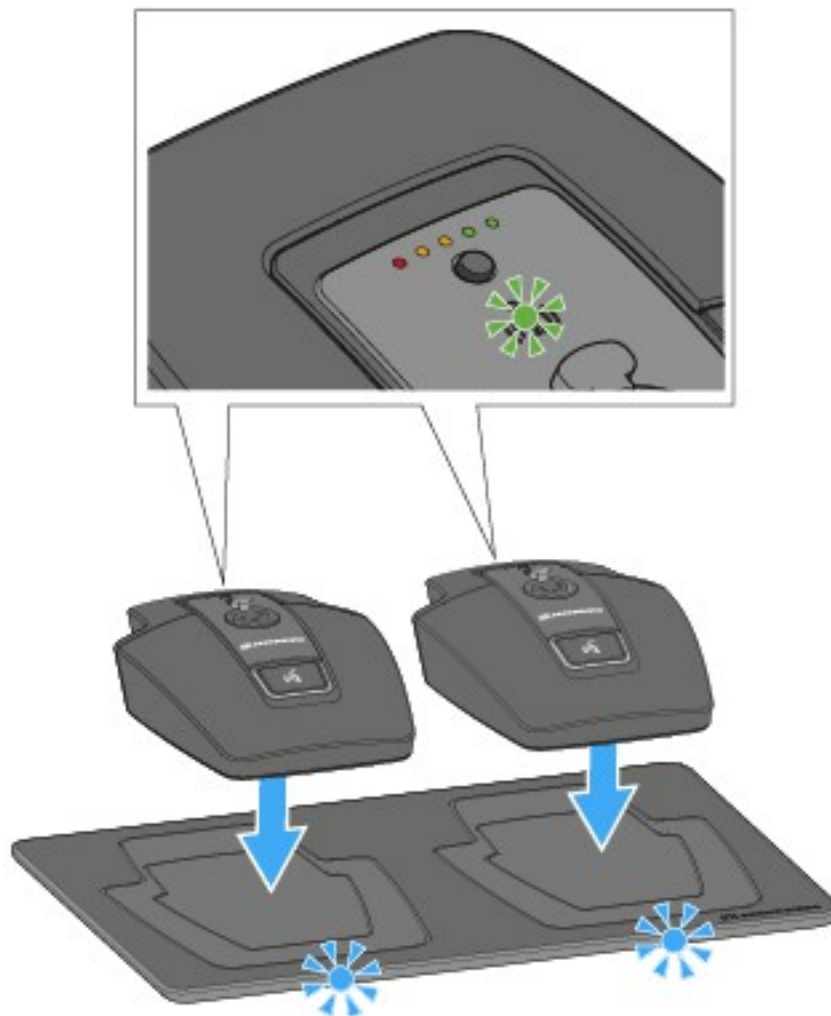


- ▷ USBケーブルのマイクロUSBプラグを、バッテリーパックのマイクロUSBソケットに接続します。
- ▷ USBケーブルのもう一方の端をUSB電源アダプターに接続します。
充電レベルLEDは充電レベルを示します。



CHG 2Wワイヤレス充電ベースを使用したテーブルスタンドの充電

CHG 2W充電ベースを使用してテーブルスタンドを充電するには：



- ▷ テーブルスタンドをCHG 2W充電ベースのマークされた領域に置きます。
 テーブルスタンドが充電面に正しく配置されると、位置合わせLEDが緑色に点灯します。
 充電中は、CHG 2W充電ベースのLEDが青色で点滅します。

CHG 2Wワイヤレス充電ベースの詳細については、「CHG 2W充電ベース」の項目をご参照ください。



サードパーティ製ワイヤレスQi充電ベースを使用したテーブルスタンドの充電

SL Tablestand 133-S DWは、ワイヤレスQi充電規格を採用した充電ベースであれば、いずれの製品でも充電可能です。テーブルスタンドをサードパーティ製Qi充電ベースの上に置きます。テーブルスタンドが正しく位置合わせされると、位置合わせLEDが緑色に点灯します。

サードパーティ製Qi充電ベースの詳細については、各メーカーの取扱説明書をご参照ください。

テーブルスタンドの充電レベルLEDの意味

充電レベルLEDは、SL Tablestand 133-S DWの充電レベルを示します。100%充電時、SL Tablestand 133-S DWの動作時間は約10時間です。

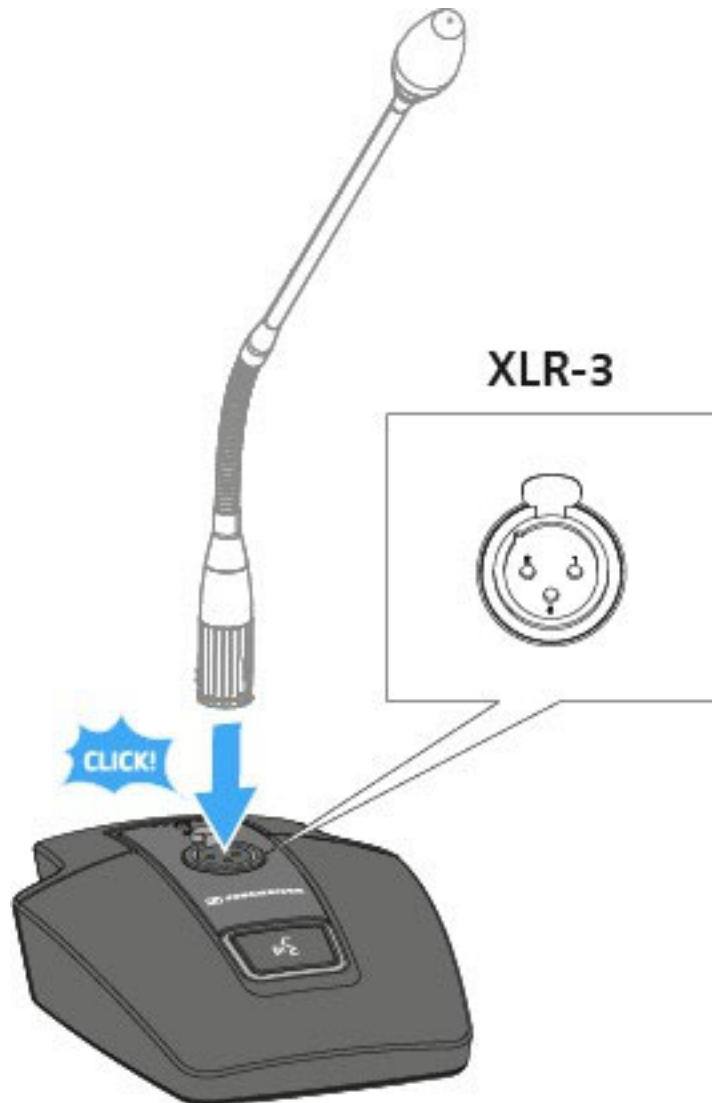
	100 %
	80 %
	60 %
	40 %
	20 %
	Low Batt



グースネックマイクの接続

MEG 14-40 グースネックマイクの使用をお勧めします。このマイクはテーブルスタンドに最適です。

グースネックマイクの接続方法：

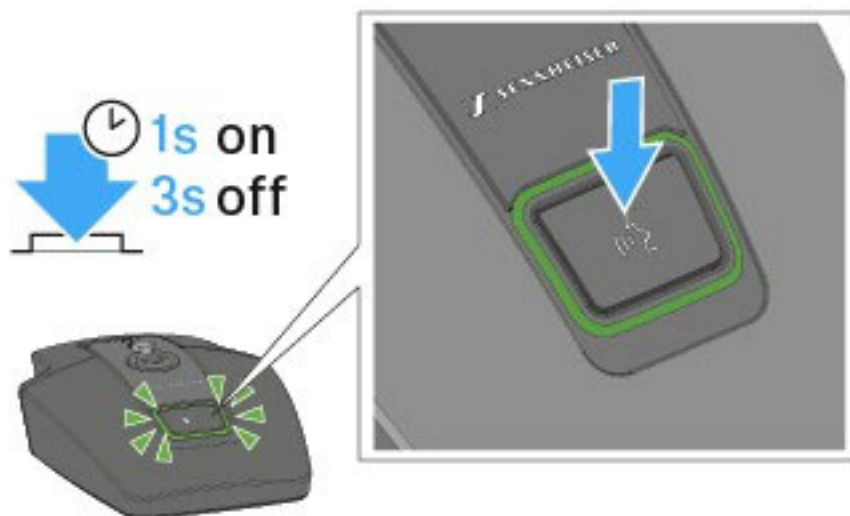


- ▷ グースネックマイクをXLR-3ソケットに差し込み、カチッと固定されるまで押し込みます。



テーブルスタンドの電源オン/オフ

テーブルスタンドの電源を入れるには：



- ▷ ON/OFF ボタンを1秒間押します。

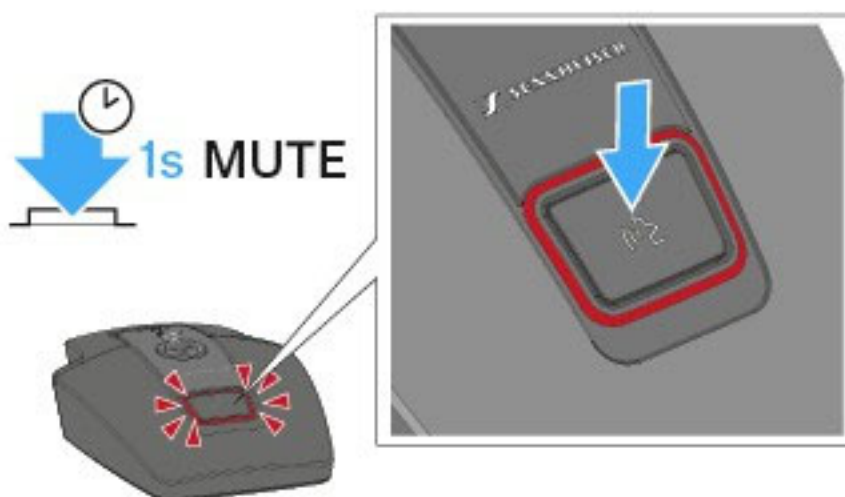
グースネックマイクが接続されると、ボタンが緑色に点灯します。

テーブルスタンドの電源を切るには：

- ▷ ON/OFF ボタンを3秒間押し続けてください。

テーブルスタンドのミュート

テーブルスタンドをミュートにするには：



- ▷ テーブルスタンドがオン状態でグースネックマイクが接続されているとき、ON/OFF ボタンを1秒間押します。ボタンが赤く点灯します。

- プッシュ・トゥ・トークモードでは、オーディオ信号はデフォルトでミュート状態となり



ON/OFF ボタンを押している間のみ有効になります。

- プッシュ・トゥ・ミュートモードでは、オーディオ信号はデフォルトで有効であり、ON/OFF ボタンを押している間のみミュートされます。
- ミュートモードは、SL Rack Receiver DW のメニュー、または Sennheiser Control Cockpit を使用して設定できます。

ファームウェアの更新

レシーバーおよび受信トランスシーバーのファームウェアは、Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアを使用して更新します。

この手順の詳細については、ソフトウェア自体のヘルプ、Sennheiser Documentation アプリ、または Sennheiser ウェブサイトのダウンロードエリアをご覧ください。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアヘルプ



ファームウェアを更新する際は、現在更新中の送信機のみ電源が入っていることを確認してください。他のすべての送信機は電源を切ってください。



SL テーブルスタンド 153-S DW

ワイヤレスSLテーブルスタンド153-S DWはスピーチ用に設計されています。MEG 14-40-L-II Bグースネックマイクとの有線接続用にXLR-5ソケットを装備しています。

完全ワイヤレス設計のため、SL テーブルスタンド 153-DW はあらゆる環境での臨時の記者会見やパネルディスカッションに最適なソリューションです。

SL テーブルスタンド 153-S DW はワイヤレス充電または USB 経由で充電可能です。2 台のモバイルデバイス用ワイヤレス充電ベース CHG 2W は別売です。SL テーブルスタンド 153-S DW には専用の充電状態 LED が装備されており、バッテリー残量を明確に表示します。

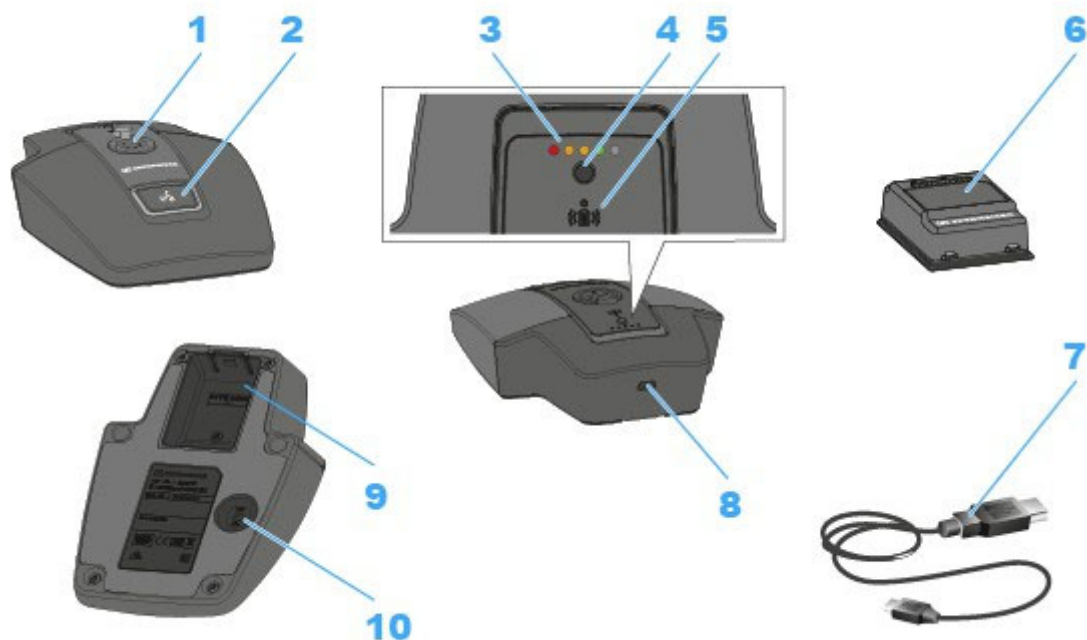
ゼンハイザー コントロール コックピットソフトウェアを使用すると、SL テーブルスタンド 153-S DW をリモートで監視および制御できます。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



1 グースネックマイク接続用 XLR-5 ソケット

2 ミュート機能付き ON/OFF ボタン

3 充電レベル LED

- 「テーブルスタンドの充電レベルLEDの意味」を参照

4 充電レベル表示ボタン

5 位置合わせ用LED

- SL テーブルスタンド 153-S DW が CHG 2W 充電ベース上で正しく充電位置に設置されると点灯します

6 BA 40 バッテリーパック

- 「BA 40 アキュパックの取り外し/挿入」を参照

7 USBケーブル

8 マイクロUSBソケット

9 BA 40 バッテリーパック用充電式バッテリーコンパートメント

- 「BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入」を参照

10 ペアボタン

- 短押し：ペアリング済み受信機の識別
- 長押しで別の受信機とペアリング
- 「ペアリング」を参照

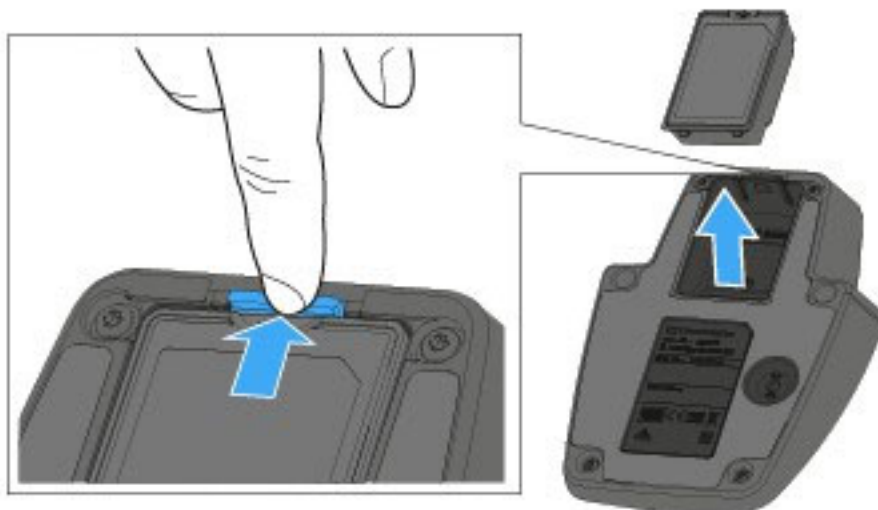


テーブルスタンドの起動と使用

BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入

付属のBA 40バッテリーパックは、テーブルスタンドの電源として使用します。バッテリーパックは初回使用前に充電する必要があります。バッテリーパックは、オプションのCHG 2W充電ベース（「CHG 2W充電ベース」参照）または付属のUSBケーブルで充電できます。

アキュパックを取り外すには：



- ▷ ロック解除ボタンをバッテリーパックから離す方向に押し、バッテリーパックを収納部から引き抜きます。

バッテリーパックの挿入方法：



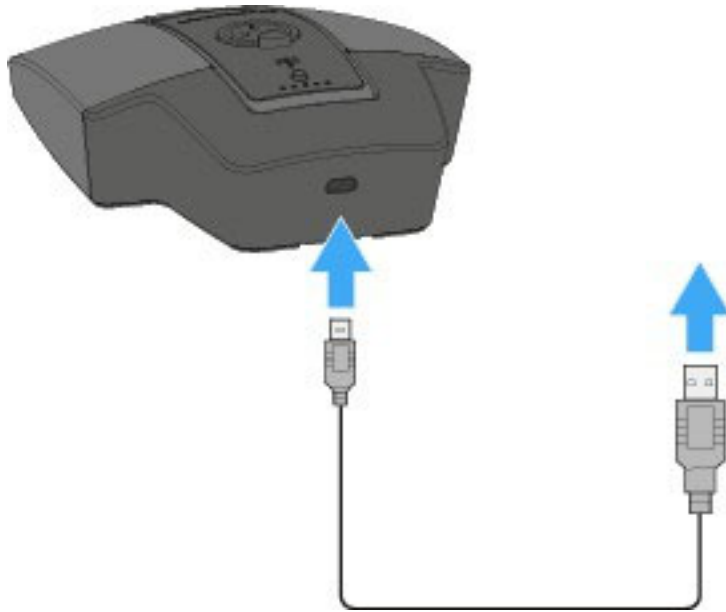
- ▷ 正しい向きでバッテリーパックをコンパートメントにスライドさせ、ロック解除ボタンが所定の位置に固定されるまで押し込みます。

充電レベルLEDが点灯し、充電レベルを表示します。



USB経由でテーブルスタンドを充電

USB経由でテーブルスタンドを充電するには：

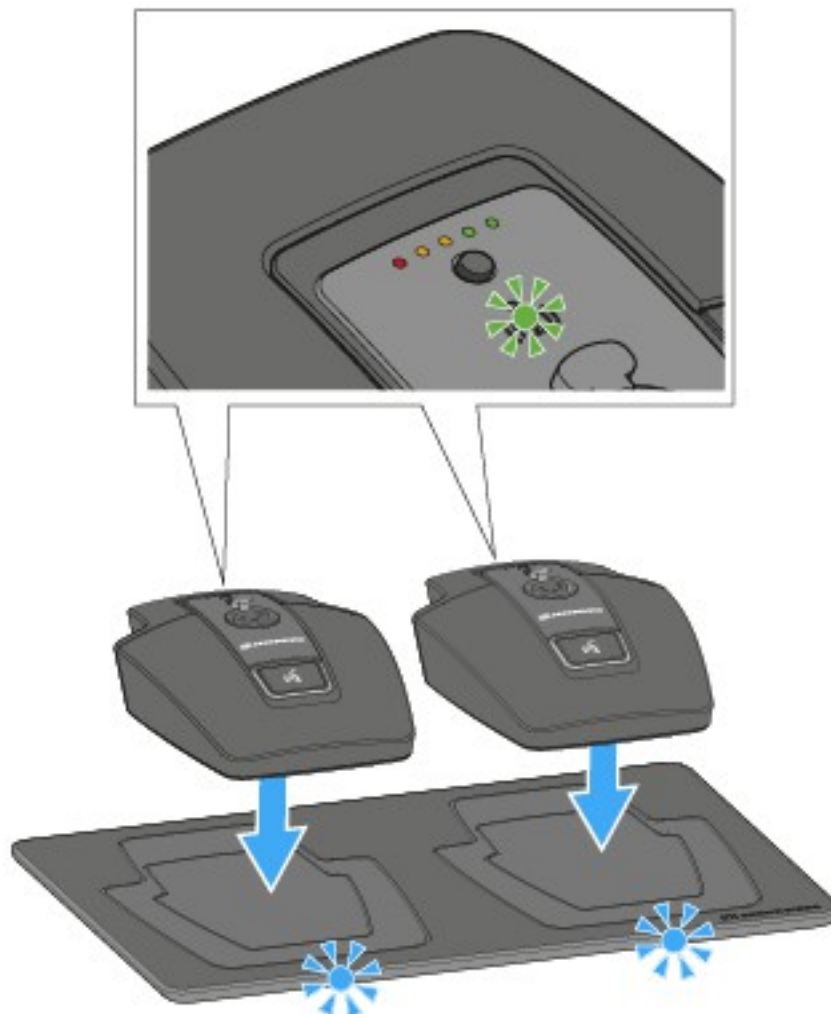


- ▷ USBケーブルのマイクロUSBプラグを、アキュパックのマイクロUSBソケットに接続します。
- ▷ USBケーブルのもう一方の端をUSB電源アダプターに接続します。
充電レベルLEDが充電状態を示します。



CHG 2Wワイヤレス充電ベースを使用したテーブルスタンドの充電

CHG 2W充電ベースを使用してテーブルスタンドを充電するには：



▷ テーブルスタンドをCHG 2W充電ベースの印が付いた領域に置きます。

テーブルスタンドが充電面に正しく設置されると、位置合わせLEDが緑色に点灯します。

充電中は、CHG 2W充電ベースのLEDが青色で点滅します。

CHG 2Wワイヤレス充電ベースの詳細は「CHG 2W充電ベース」でご確認いただけます。



サードパーティ製ワイヤレスQi充電ベースを使用したテーブルスタンドの充電

SL Tablestand 153-S DWは、ワイヤレスQi充電規格を採用した充電ベースであれば、どの製品でも充電可能です。テーブルスタンドをサードパーティ製Qi充電ベースに設置してください。テーブルスタンドが正しく配置されると、位置合わせLEDが緑色に点灯します。

サードパーティ製Qi充電ベースに関する詳細は、各メーカーのドキュメントでご確認ください。

テーブルスタンドの充電レベルLEDの意味

充電レベルLEDは、SLテーブルスタンド153-S DWの充電レベルを示します。100%充電時、SLテーブルスタンド153-S DWの稼働時間は約10時間です。

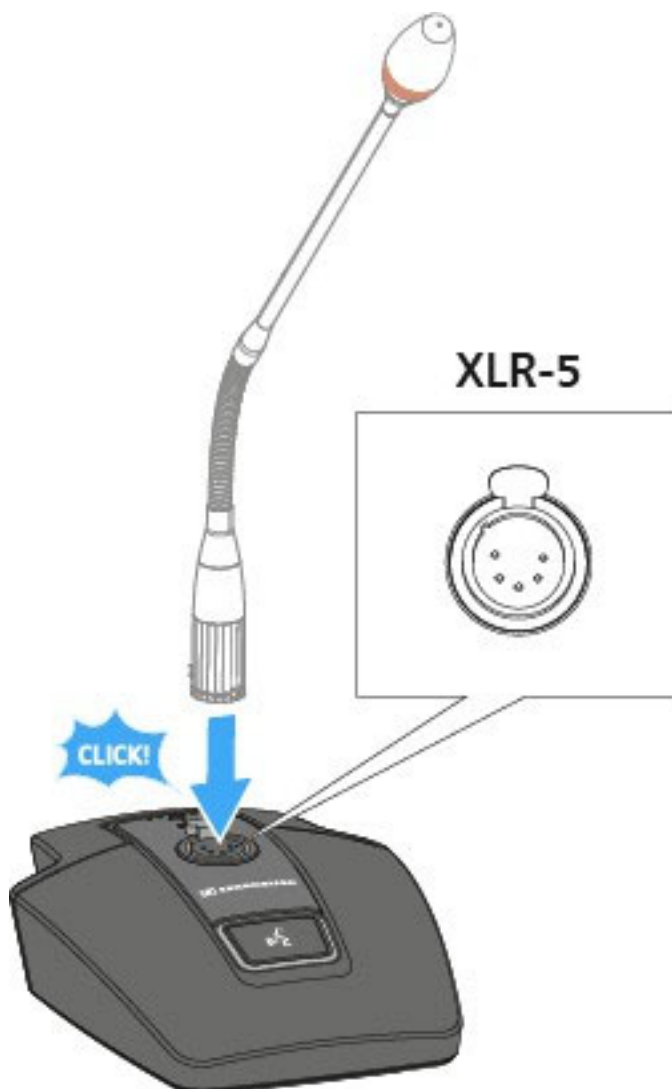
	100 %
	80 %
	60 %
	40 %
	20 %
	Low Batt



グースネックマイクの接続

MEG 14-40-L-II グースネックマイクの使用をお勧めします。このマイクはテーブルスタンドに最適です。

グースネックマイクの接続方法：

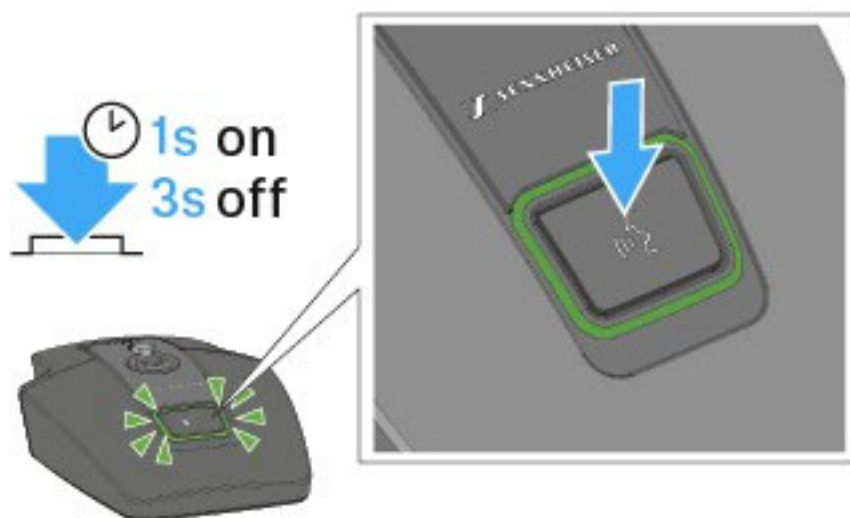


- ▷ グースネックマイクをXLR-3ソケットに差し込み、カチッと固定されるまで押し込みます。



テーブルスタンドの電源オン/オフ

テーブルスタンドの電源を入れるには：



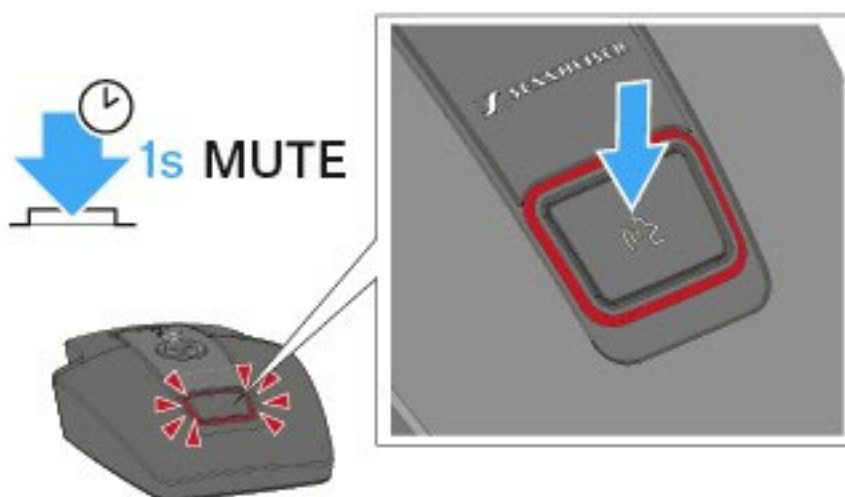
- ▷ ON/OFF ボタンを1秒間押します。

グースネックマイクが接続されている場合、ボタンが緑色に点灯します。

テーブルスタンドの電源を切るには：

- ▷ ON/OFF ボタンを3秒間押し続けてください。

テーブルスタンドのミュート



テーブルスタンドをミュートするには：

テーブルスタンドの電源が入っており、グースネックマイクが接続されている状態で、ON/OFF ボタンを1秒間押します。音声信号がミュートされると、ボタンが赤く点灯します。

- プッシュ・トゥ・トークモードでは、音声信号はデフォルトでミュート状態となり



ON/OFFボタンを押している間のみ音声信号が有効になります。

- プッシュ・トゥ・ミュートモードでは、オーディオ信号はデフォルトでアクティブであり、ON/OFFボタンを押している間のみミュートされます。
- ミュートモードは、SL Rack Receiver DW のメニュー、または Sennheiser Control Cockpit を使用して設定できます。

ファームウェアの更新

受信機および受信済み送信機のファームウェアは、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して更新されます。

この手順に関する詳細は、ソフトウェア内のヘルプ、Sennheiser Documentationアプリ、またはSennheiserウェブサイトのダウンロードエリアでご確認いただけます。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアヘルプ



ファームウェアの更新時には、現在更新中の送信機のみをオンにしてください。他のすべての送信機はオフにしてください。



SL Boundary 114-S DW

ワイヤレス SL Boundary 114-S DW バウンダリーマイクは、スピーチ用に設計されています。

SL Boundary 114-S DWは完全にケーブルレスであるため、非常に汎用性が高く、幅広い用途に適しています。

SL Boundary 114-S DWはワイヤレス充電またはUSB経由で充電可能です。2台のモバイルデバイス用ワイヤレス充電ベースCHG 2Wは別売です。SL Boundary 114-S DWには最大10時間持続する充電式バッテリーが付属します。

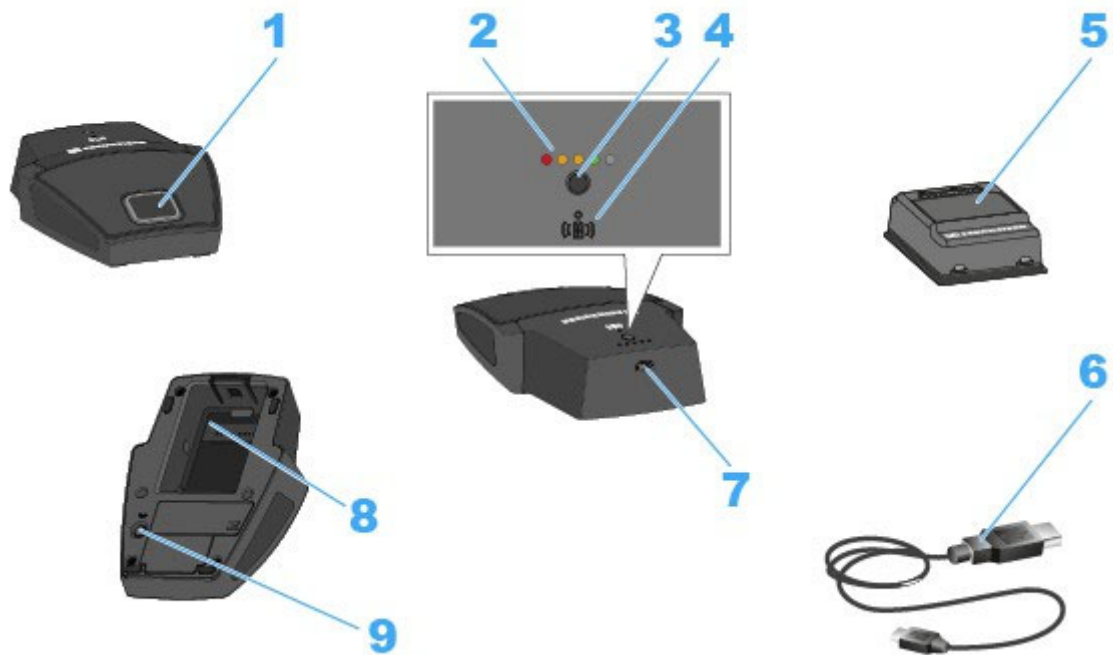
ワイヤレス境界マイクを遠隔で監視・制御するには、ゼンハイザーの Control Cockpit ソフトウェアを使用できます。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



1 ミュート機能付きON/OFFボタン

2 充電レベルLED

- 境界マイクの充電レベルLEDの意味を参照

3 充電レベル表示ボタン

4 位置合わせLED

- SL Boundary 114-S DWが充電ベースCHG 2Wに正しく設置されている場合に点灯

5 BA 40 バッテリーパック

- 「BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入」を参照

6 USBケーブル

7 マイクロ USB ソケット

8 BA 40 バッテリーパック用充電式バッテリーコンパートメント

- 「BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入」を参照

9 ペアリングボタン

- ペアリング済みの受信機を識別するには短押し
- 長押しで別の受信機とペアリング
- 「ペアリング」を参照

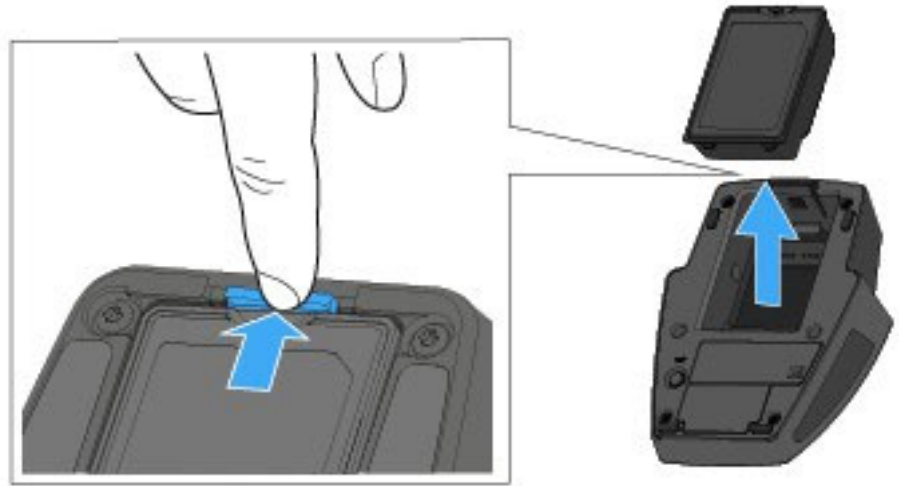


境界マイクの起動と使用

BA 40 バッテリーパックの取り外し/挿入

付属のBA 40アキュパックは境界マイクロフォンの電源として使用します。初回使用前にアキュパックを充電する必要があります。アキュパックは、オプションのCHG 2W充電ベース（「CHG 2W充電ベース」参照）または付属のUSBケーブルで充電できます。

アキュパックを取り外すには：



- ▷ ロック解除ボタンをバッテリーパックから離す方向に引き、バッテリーパックを収納部から引き抜きます。

アキュパックの挿入方法：



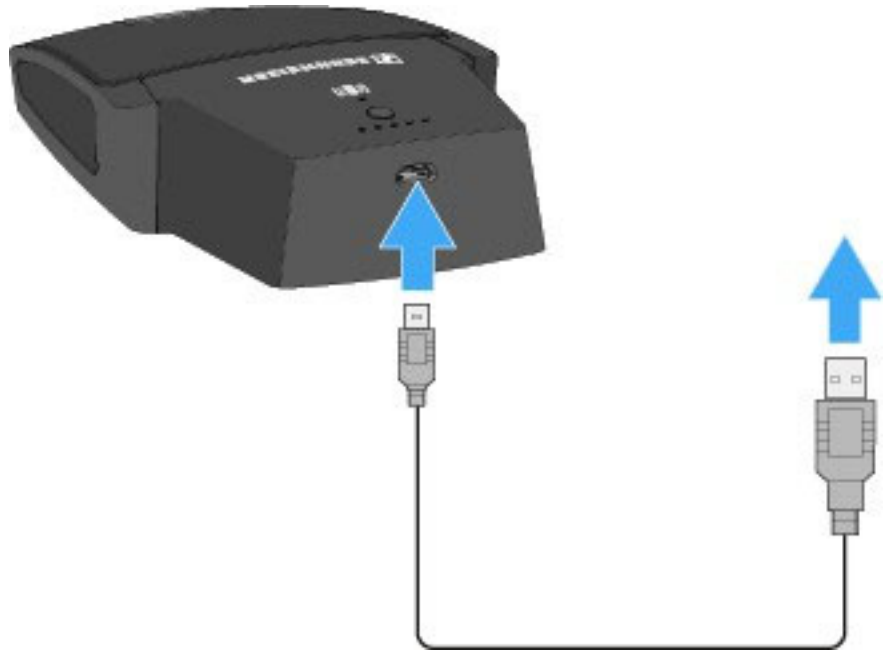
- ▷ 正しい向きでバッテリーパックをコンパートメントにスライドさせ、ロック解除ボタンが所定の位置に固定されるまで押し込みます。

充電レベルLEDが点灯し、充電レベルを表示します。



境界マイクのUSB充電

境界マイクをUSB経由で充電するには：

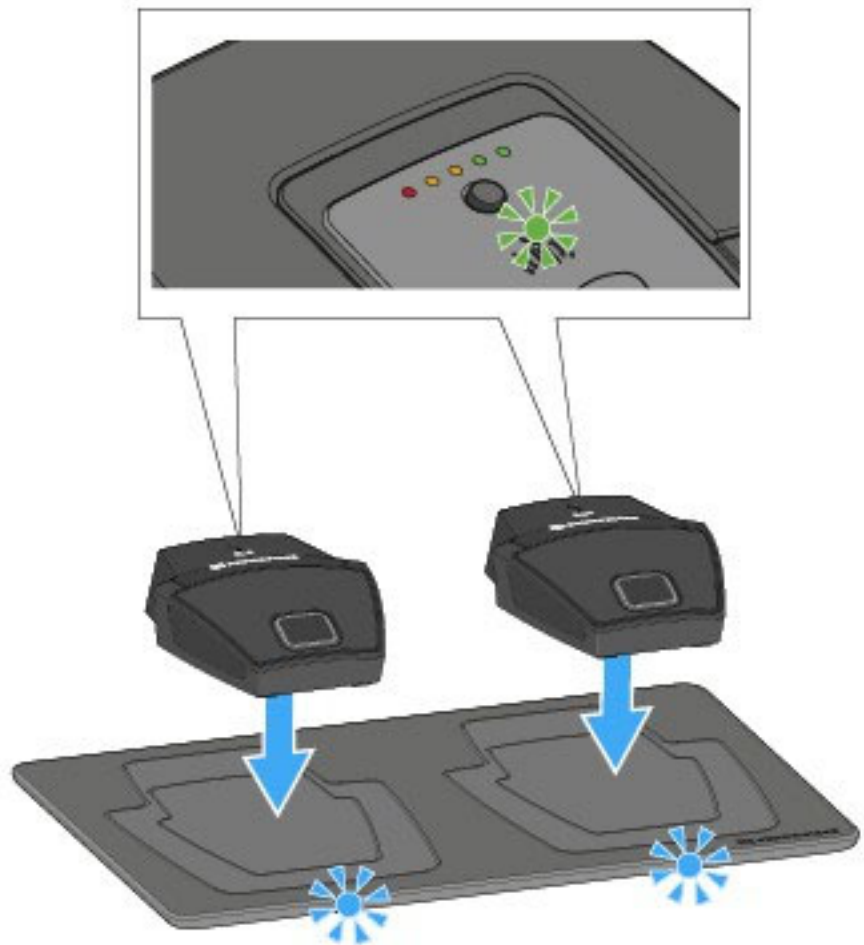


- ▷ USBケーブルのマイクロUSBプラグを境界マイクのマイクロUSBソケットに接続します。
- ▷ USBケーブルのもう一方の端をUSB電源供給ユニットに接続します。
充電レベルLEDが充電状態を示します。



CHG 2Wワイヤレス充電ベースを使用した境界マイクの充電

CHG 2W充電ベースを使用して境界マイクを充電するには：



▷ 境界マイクをCHG 2W充電ベースのマークされた領域に置きます。

境界マイクが充電面に正しく配置されると、位置合わせLEDが緑色に点灯します。

充電中は、CHG 2W充電ベースのLEDが青色で点滅します。

CHG 2Wワイヤレス充電ベースの詳細については、「CHG 2W充電ベース」をご覧ください。



サードパーティ製Qi ワイヤレス充電ベースでの境界マイクの充電

SL Boundary 114-S DWは、ワイヤレスQi充電規格を採用した充電ベースであればいつでも充電可能です。境界マイクをサードパーティ製Qi充電ベースに設置してください。テーブルスタンドが正しく配置されると、位置合わせLEDが緑色に点灯します。

サードパーティ製Qi充電ベースの詳細については、各メーカーのドキュメントをご参照ください。

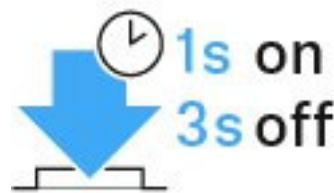
境界マイクの充電レベルLEDの意味

充電レベルLEDは、SL Boundary 114-S DWの充電レベルを示します。100%充電時、SL Boundary 114-S DWの稼働時間は約10時間です。

	100 %
	80 %
	60 %
	40 %
	20 %
	Low Batt

境界マイクのオン/オフ切替

境界マイクをオンにするには：



- ▷ ON/OFFボタンを1秒間押します。境界マイクをオフにするには：

するには：

- ▷ ON/OFFボタンを3秒間押し続けます。



境界マイクのミュート

境界マイクをミュートするには：



▷ 境界マイクがオンの場合、ON/OFF ボタンを1秒間押します。

ボタンが赤く点灯します。

- プッシュ・トゥ・トークモードでは、音声信号はデフォルトでミュート状態となり、ON/OFF ボタンを押している間のみ有効になります。
- プッシュ・トゥ・ミュートモードでは、オーディオ信号はデフォルトで有効であり、ON/OFF ボタンを押している間のみミュートされます。
- ミュートモードは、SL Rack Receiver DW のメニュー、または Sennheiser Control Cockpit を使用して設定できます。

ファームウェアの更新

レシーバーおよび受信トランスシーバーのファームウェアは、Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアを使用して更新します。

この手順の詳細については、ソフトウェア自体のヘルプ、Sennheiser Documentation アプリ、または Sennheiser ウェブサイトのダウンロードエリアをご覧ください。

Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアヘルプ



ファームウェアを更新する際は、現在更新中の送信機のみ電源が入っていることを確認してください。他のすべての送信機は電源を切ってください。



ペアリング

ペアリング機能により、既にペアリング済みのデバイスを識別したり、新しいデバイスを接続したりできます。



取扱説明書の最初のページに戻る



ペアリング済みデバイスの識別

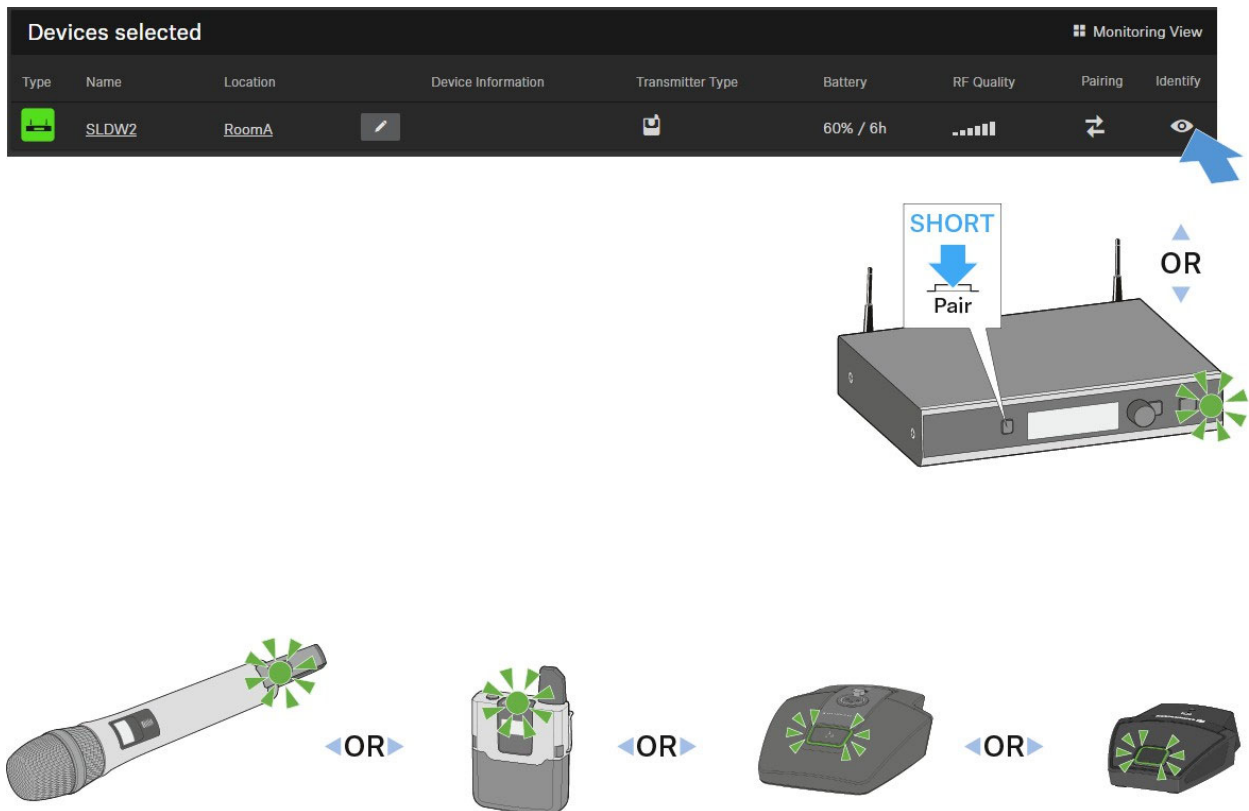
ペアリング識別を実行して、どの送信機がどの受信機とペアリングされているかを確認できます。

SL Rack Receiver DW では、デバイス上または Control Cockpit でペアリング識別を実行できます。

SL MCR DWでは、ペアリング識別はコントロールコックピットでのみ実行できます。

SLラックレシーバーDW

- ▷ レシーバーまたはトランスミッターのPAIRボタンを短押しします。
または
- ▷ コントロールコックピットのデバイスリストから対象デバイスの「Find」ボタンを押します。



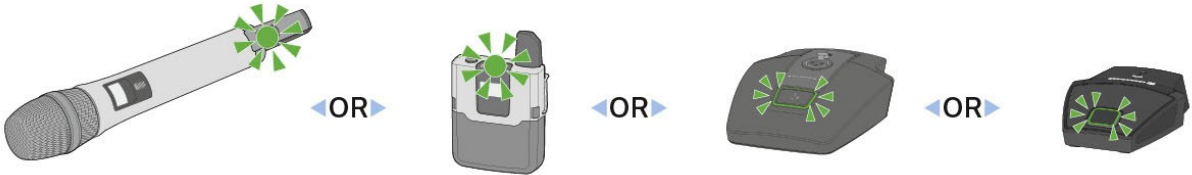
- 受信機の表示パネルに「識別中」と表示されます。
- 送信機のディスプレイに「This is *Name*」というメッセージが表示されます（SLハンドヘルドDWおよびSLボディパックDWのみ）。
- ペアリングされたデバイスのステータスLEDが10秒間緑色で点滅します。
- Control Cockpit のデバイスアイコンが 10 秒間点滅します。
- 10 秒後にディスプレイは標準表示に戻ります。



SL MCR DW

- ▷ コントロールコックピットのデバイスリストから、目的のデバイスの目的のチャンネルの「検索」ボタンを押します。

Devices selected								Monitoring View	
Type	Name	Location	Device Information	Transmitter Type	Battery	RF Quality	Pairing	Identify	
	MCR	IBA							
1	rx1				100% 🔋	■■■■■	↔		
2	rx2			-	-	■■■■■	↔		
3	rx3			-	-	■■■■■	↔		
4	rx4			-	-	■■■■■	↔		



- 送信機のディスプレイに「This is **Name/** というメッセージが表示されます（SL Handheld DW および SL Bodypack DW のみ）。
- SL MCR DW およびペアリングされた送信機では、該当チャンネルのステータス LED が 10 秒間緑色で点滅します。
- Control Cockpit 内のデバイスのアイコンが 10 秒間点滅します。



受信機と送信機のペアリング

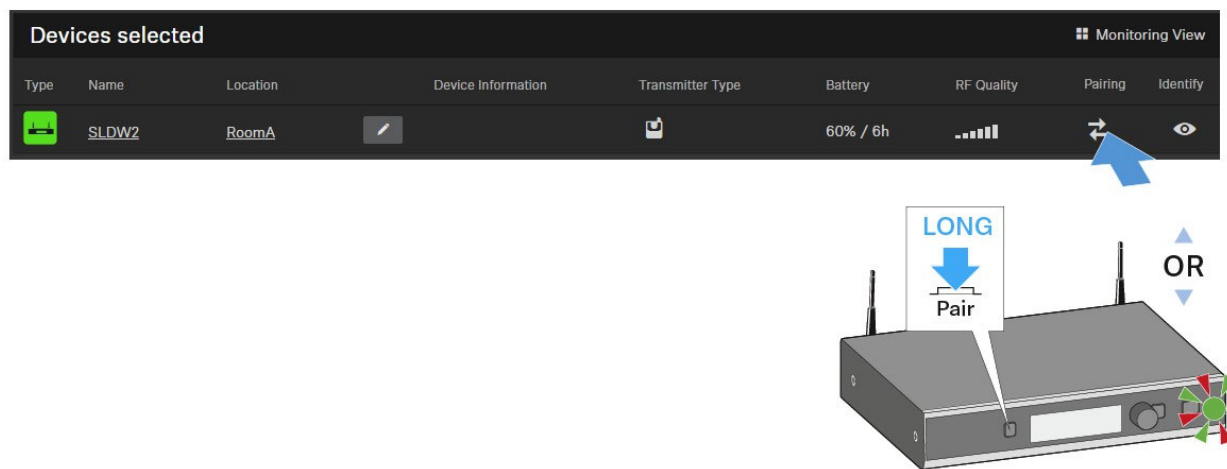
受信機と送信機間で新しい無線リンクを確立するには、以下の手順に従ってください：

SLラックレシーバーDW

- ▷ 受信機のペアリングボタンを、ステータスLEDが緑と赤で交互に点滅するまで長押ししてください。

または

- ▷ コントロールコックピットのデバイスリストから対象デバイスのペアリングボタンを押します。




まず、受信機の表示パネルに「Identify」が表示されます。その後、「Pairing」メッセージが表示されます。

既存の無線リンクは切断されます。

新しい送信機との無線リンクを確立するには、90秒以内に行ってください。

- ▷ 対応する送信機の「**ペアリング**」ボタンを、ステータス LED が緑と赤で交互に点滅するまで長押しします。

送信機のディスプレイパネルに「受信機でペアリングを押してください」というメッセージが表示されます（SL ハンドヘルド DW および SL ボディパック DW のみ）。

無線リンクが正常に確立されると、ペアリング状態が  が受信機と送信機双方の表示パネルに表示され（SL Handheld DWおよびSL ボディパック DWのみ）、送信機と受信機のステータスLEDが緑色に点灯します。



無線リンクの確立に失敗した場合、受信機と送信機（SLハンドヘルドDWおよびSLボディバックDWのみ）の両方の表示パネルに「ペアリング失敗」が表示され、送信機と受信機のステータスLEDが赤色に点灯します。
ボディバック DW のみ）、送信機と受信機のステータス LED が赤色に点灯します。



互換性のないファームウェアバージョンを実行しているデバイスをペアリングしようとする、送信機のファームウェアを更新するよう促すメッセージがディスプレイパネルに表示されます。

現在ファームウェアを更新すると、送信機と受信機はその後ペアリングされます。

ファームウェアを更新しない場合、送信機と受信機はペアリングされず、受信機の表示パネルに「FW 不一致」が表示されます。

まず受信機のファームウェアを更新し、その後送信機のファームウェアを更新することをお勧めします。

▷ ファームウェアを更新する際は、現在更新中の送信機のみ電源が入っていることを確認してください。他のすべての送信機は電源を切ってください。



SL MCR DW

- ▷ コントロールコックピットのデバイスリストから、対象デバイスのペアリングボタンを押します。

Devices selected									Monitoring View
Type	Name	Location	Device Information	Transmitter Type	Battery	RF Quality	Pairing	Identify	
	MCR	IBA							
1	rx1				100% 🔋	■■■■	↔	👁	
2	rx2			-	-	■■■■	↔	👁	
3	rx3			-	-	■■■■	↔	👁	
4	rx4			-	-	■■■■	↔	👁	

まず、受信機の表示パネルに「Identify」が表示されます。その後、「Pairing」メッセージが表示されます。

既存の無線リンクはすべて切断されました。

新しい送信機との無線リンクを確立するには、90秒以内に行ってください。

- ▷ 対応する送信機の **PAIR** ボタンを、ステータス LED が緑と赤で交互に点滅するまで長押しします。

送信機のディスプレイパネルに「受信機でペアリングを押してください」というメッセージが表示されます（SL ハンドヘルド DW および SL ボディパック DW のみ）。



無線リンクの確立に成功すると、送信機のディスプレイパネルに「Paired」が表示され（SLハンドヘルドDWおよびSLボディパックDWのみ）、送信機と受信チャンネルの状態

LEDと受信チャンネルのLEDが緑色に点灯します。



無線リンクが正常に確立されなかった場合、送信機の表示パネルに「ペアリング失敗」が表示されます（SLハンドヘルドDWおよびSLボディパックDWのみ）。

送信機と受信チャンネルの状態LEDが赤色に点灯します。



互換性のないファームウェアバージョンを実行しているデバイスをペアリングしようとすると、Control Cockpitにメッセージが表示され、送信機のファームウェアを更新するよう促します。

この時点でファームウェアを更新すると、その後送信機と受信チャンネルがペアリングされます。



ファームウェアを更新しない場合、送信機と受信チャンネルはペアリングされません。
まず受信機のファームウェアを更新し、その後送信機のファームウェアを更新することをお勧めします。

- ▷ ファームウェアを更新する際は、現在更新中の送信機のみをオンにしてください。他のすべての送信機はオフにしてください。
-



ウォークテストの実施（受信品質）

ウォークテストメニュー項目を使用すると、運用環境内での無線リンクの受信品質を確認できます。ウォークテストを実施することで、無線リンクの通信範囲とカバレッジを検証できます。

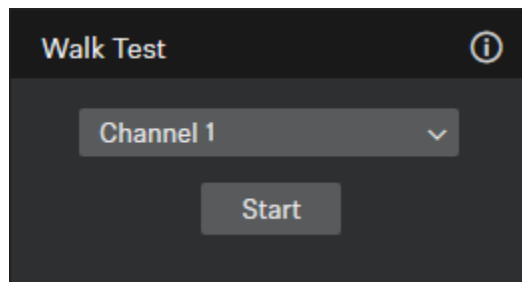


取扱説明書の最初のページに戻る

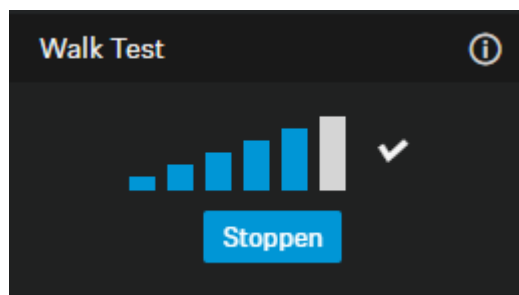
コントロールコックピットでSL MCR DWを使用したウォークテストの実施

コントロールコックピットで歩行テストを実行するには：

- ▷ 確認したい無線リンクの送信機と受信機の電源を入れます。
- ▷ さらに、動作環境で使用するその他の機器もすべて電源を入れます。
- ▷ コントロールコックピットで対象デバイスを選択します。
- ▷ RF設定タブを開きます。



- ▷ ウォークテストで目的のチャンネルを選択し、開始をクリックします。



- ▷ 送信機を持って動作環境を歩き回ります。



無線信号レベルの表示が継続的に更新されます。

- ▷ 「停止」をクリックして歩行テストを終了します。

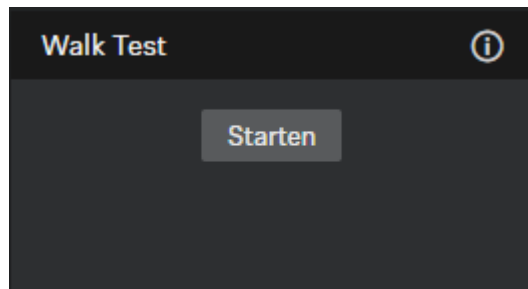
歩行テストの結果が満足のいくものでない場合、以下の改善策を講じることができます：

- 可能であれば、受信機とペアリングされた送信機との間に常に直線的な見通し距離を確保するように受信機の位置を調整してください。
- 可能であれば、送信機と受信機間の障害物を取り除いてください。
- 必要に応じて、RF設定タブのRF出力モードで、コントロールコックピットから手動で選択した送信出力を調整してください。詳細は「マルチルームモード」を参照してください。

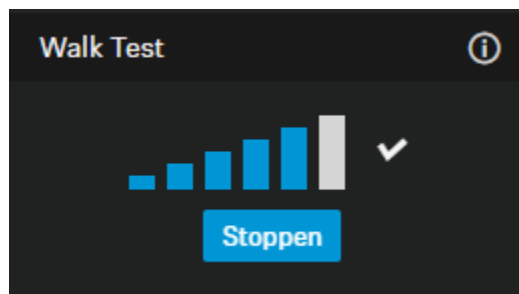
SL Rack Receiver DW を使用したウォークテストの実施

コントロールコックピットでウォークテストを実行するには：

- ▷ 確認したい無線リンクの送信機と受信機の電源を入れます。
- ▷ さらに、運用環境で使用するその他の機器もすべて電源を入れます。
- ▷ コントロールコックピットで対象デバイスを選択します。
- ▷ RF設定タブを開きます。



- ▷ ウォークテストの下にある「開始」をクリックします。



- ▷ 送信機を持って動作環境をウォークします。
無線信号レベルの表示は継続的に更新されます。



- ▷ 停止をクリックして歩行テストを終了します。

ウォークテストの結果が満足のいくものでない場合、以下の改善策を講じることができます：

- 可能であれば、受信機を配置し、アンテナ（受信機本体に直接取り付けられているか、リモート設置されているか）と対応する送信機との間に常に直線的な視界を確保してください。
- 可能であれば、送信機とアンテナ間の障害物を取り除いてください。
- アンテナ設置に関する注意事項「アンテナ取り付けに関する推奨事項」に注意してください。
- 必要に応じて、コントロールコックピットのRF設定タブにあるRF出力モードで手動選択した送信出力を調整してください。詳細は「マルチルームモード」を参照してください。

SL Rack Receiver DW を使用してウォークテストを実施する

デバイスでウォークテストを実行するには：

- ▷ 確認したい無線リンクの送信機と受信機の電源を入れます。
 - ▷ さらに、運用環境で使用するその他の機器もすべて電源を入れます。
 - ▷ 受信機のシステム設定メニューからウォークテストメニュー項目を選択します。
- 受信機と送信機の両方の表示パネルに RF 信号レベル表示が表示されます。



- ▷ 送信機を持って動作環境をウォークします。
- 受信機と送信機の両方の表示パネルにある RF 信号レベル表示が継続的に更新されます。
- ▷ 受信品質の詳細情報は、RF信号レベル表示を確認してください：



受信品質が良好な場合はチェックマークが表示されます。

チェックマークがない場合でも、受信品質は十分です。



いずれかの位置で受信品質が低下している場合、または低下していた場合は、警告三角マークが表示されます。

警告三角マークは、その後受信品質が改善した場合でも表示パネル上に表示されたままになります。

NO LINK：無線リンクが完全に切断された場合、表示パネルの背景が明暗交互に変わり、「No Link」が表示されます。

▷ 受信機のESCボタンを押してウォークテストを終了してください。

ウォークテストの結果が満足のいくものでない場合、以下の改善策を講じることができます：

- 可能であれば、受信機を再配置し、受信機アンテナと対応する送信機との間に常に直接の視界を確保してください。
- 可能であれば、送信機と受信アンテナ間の障害物を取り除いてください。
- 受信機をラックマウントする場合、GA 4 ラックマウントキットを使用してロッドアンテナをラック前面に取り付けてください。
- 送信出力を手動で調整した場合は、受信機の操作メニューから再調整が必要になる場合があります：システム設定 → RF出力。詳細は「マルチルームモード」を参照してください。



SL Headmic 1 ヘッドセットマイク

SLヘッドマイク1は、プロフェッショナルな「ハンズフリー」用途向けに設計された高品質な全指向性コンデンサーヘッドセットマイクです。調整可能なネックバンドは視覚的に目立たず、非常に快適な装着感を実現しています。SLヘッドマイク1はブラックとベージュの2色展開です。集音パターンは全指向性です。

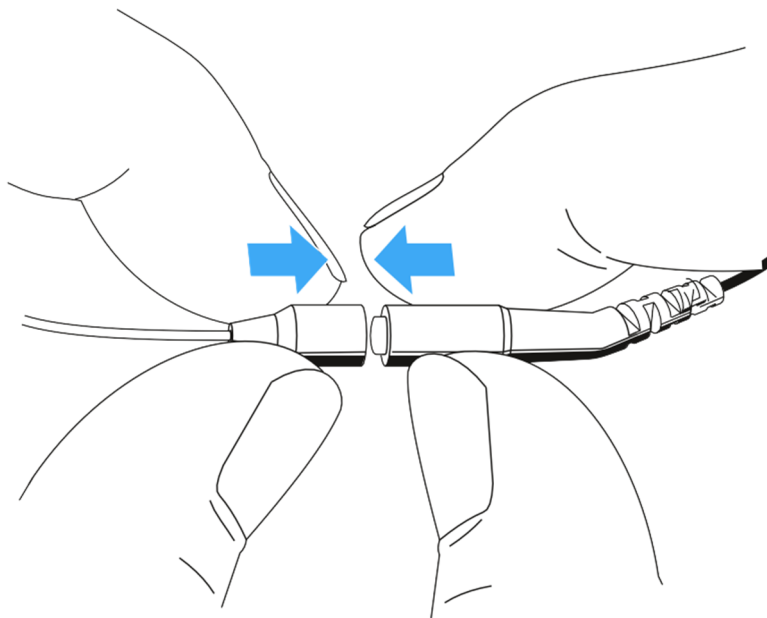


[取扱説明書の最初のページに戻る](#)

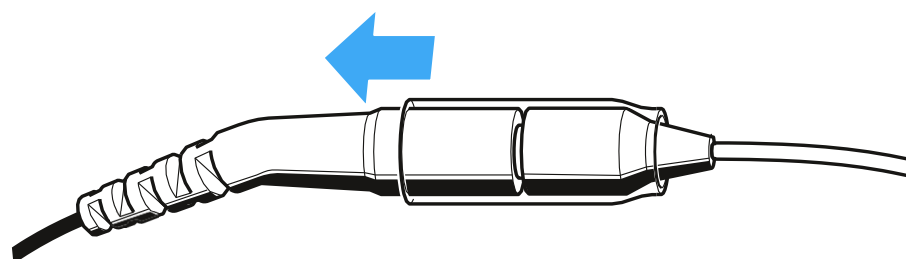
SL Headmic 1の使用準備

ヘッドセットマイクにケーブルを接続するには：

- ▷ コネクターをソケットに差し込みます。



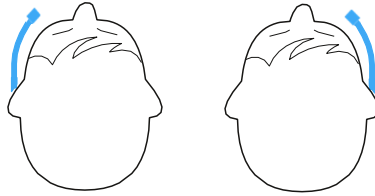
- ▷ シリコンチューブをコネクタにスライドさせて装着します。





マイクの位置変更（左右）

マイクは左右どちらの側にも装着できます。



ネックバンドには合計5つのクリップが付いており、マイクブームを口の左右どちらにも装着できるよう設計されています。

注意

マイクブームの損傷

マイクブームは、曲げたりひねったりすると破損したり機能が損なわれることがあります。マイクカプセル付近を頻繁に交互に曲げると、マイクブームが損傷し、マイクの調整性が低下する可能性があります。

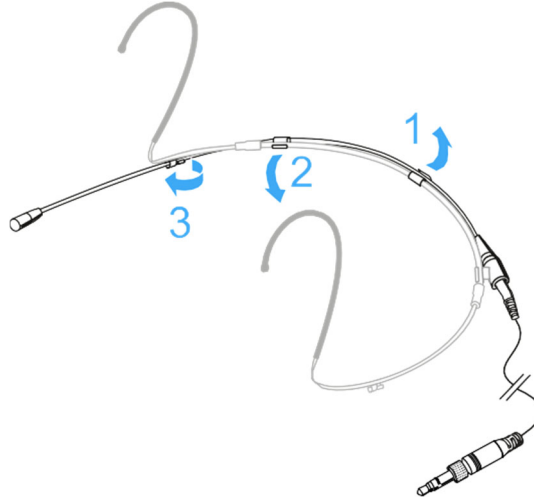
▷ 本章に記載されている方法でのみマイクブームを調整してください。



マイクブームの変更

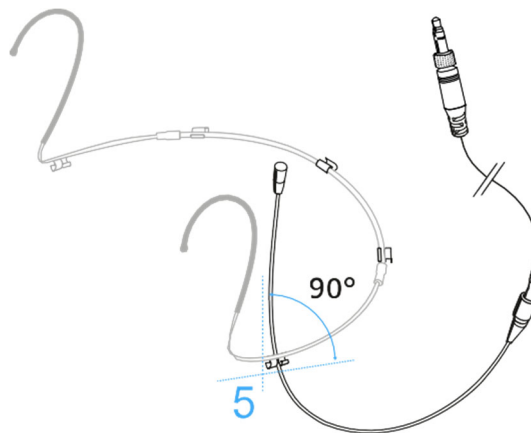
マイクブームを取り外すには：

- ▷ まず、マイクブームを2つのクリップ1と2から外します。
- ▷ マイクブームを回転させて、クリップ3から外す

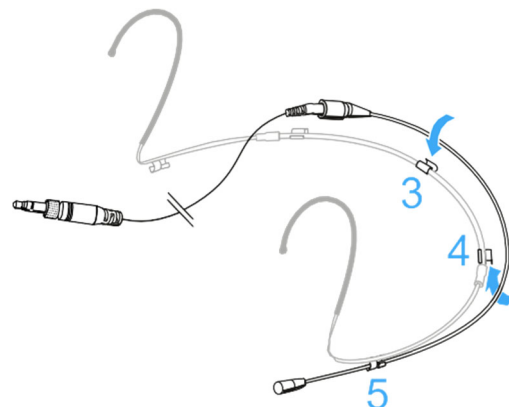


マイクブームの再取り付け方法：

- ▷ まず、マイクカプセルが取り付けられているマイクブームの端を、ネックバンドの希望する側のクリップ5に取り付けます。



- ▷ マイクブームをクリップ3と4に押し込みます。





マイクブームとネックバンドの調整

ヘッドセットマイクの快適性と最適なフィット感を得るには、ネックバンドのパッドとマイクブームを頭部に合わせて調整する必要があります。

注意

マイクブームの損傷

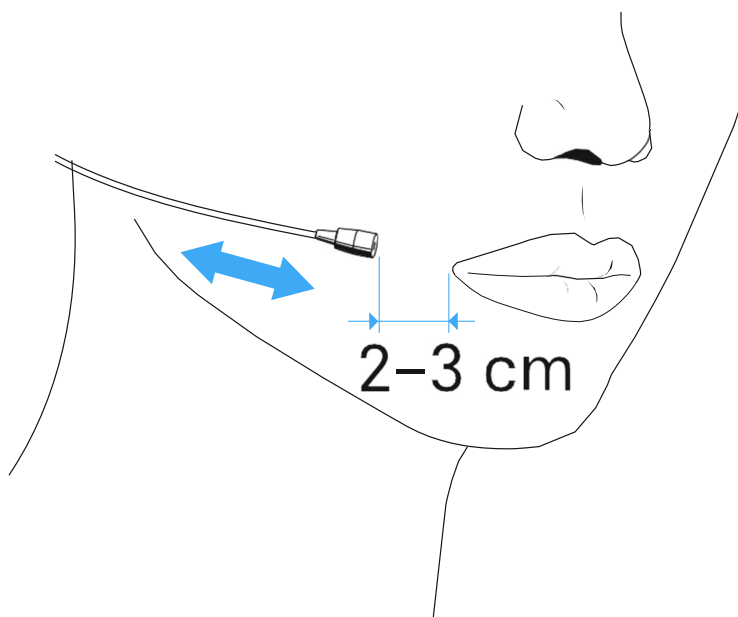
マイクブームを曲げたりひねったりすると、破損したり機能が損なわれる可能性があります。

マイクを口角に向けて配置する

マイクを個別に配置するには：

- ▷ マイクブームをクリップ内で前後にスライドさせ、マイクが口角から2～3cm離れるように調整します。

マイクが口から離れるほど、高音域の拾い込みが減少します。

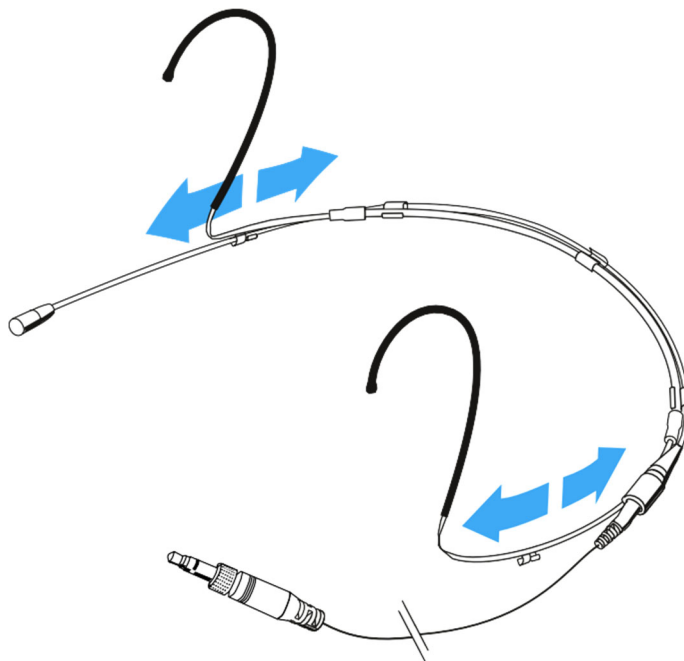




ネックバンドの調整

ネックバンドは幅調節が可能で、最適なフィット感を確保します。

- ▷ 耳かけを動かしてネックバンドの長さを調整し、ぴったりとフィットする快適な装着感を得てください。





周波数特性キャップの使用

MZC 2 周波数特性キャップを使用すると、マイクの感度を存在感範囲で変更できます。MZC 2 は高音域を4dBブーストします。マイクを口元に近づけられない場合、音がこもっている場合、または音声明瞭度を高めたい場合にこのキャップを使用してください。

- ▷ MZC 2 周波数応答キャップをマイクカプセルにスライドさせ、カチッと音がして固定されるまで押し込みます。



追加の周波数応答キャップ（MZC 1）は別売アクセサリとしてご用意しています。MZC 1は2dBの高域ブーストを保証します。

- ▷ MZC 1 周波数特性キャップを、カチッと音がして固定されるまでマイクカプセルにスライドさせて装着します。





ウィンドシールドの使用

SL MZW 1 ウィンドシールドは風切り音を10dB低減します。

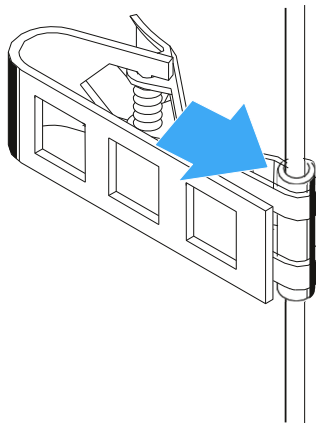
- ▷ SL MZW 1 ウィンドシールドを MZC 2 周波数特性キャップにスライドさせて装着します。



接続ケーブルを衣服に取り付ける

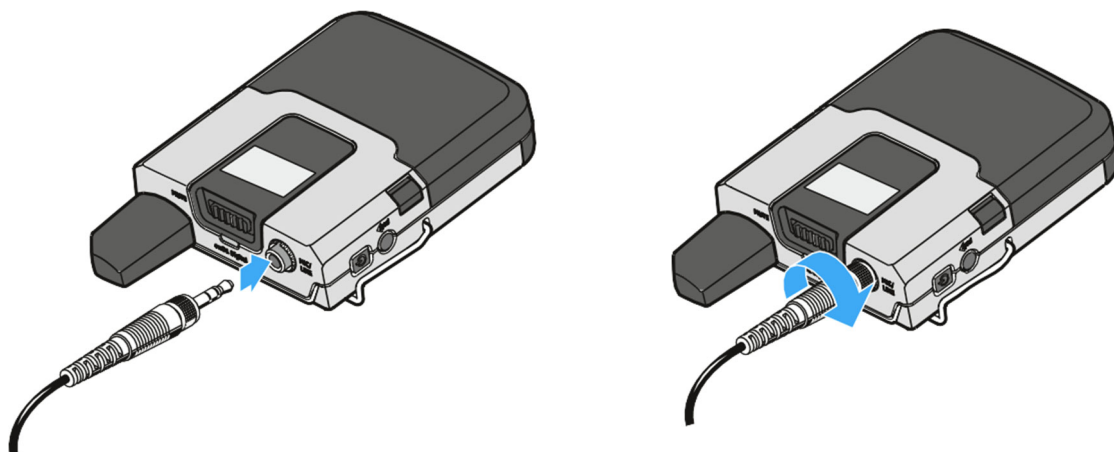
MZQ 02クリップはアクセサリとしてご利用いただけます。

- ▷ 接続ケーブルを
MZQ 02クリップのケーブルグランドに押し込みます。
- ▷ ケーブルクリップをカラーの背面に取り付けます。
- ▷ 接続ケーブルを衣服の下に通します。





SLヘッドマイク1をSLボディパックDWに接続する



- ▷ SLヘッドマイク1のジャックプラグを、ボディパック送信機の3.5mmジャックソケット（MIC/LINE）に接続します。
- ▷ カップリングリングを締め付けてジャックプラグを固定します。

ジャックプラグが確実にロックされていない場合、音声信号にパチパチというノイズが発生することがあります。



MKE 1 クリップオンマイク

MKE 1は、高品質で超小型、耐汗性のクリップ式コンデンサーマイクです。優れた音質と頑丈な設計を特徴としています。周波数特性曲線は、ステージ、スタジオ、報道（ENG）用途向けに最適化されています。

MKE 1 は、非常に細い（わずか 1 mm）にもかかわらず非常に頑丈なケーブルが装備されており、あらゆるライブサウンド用途に理想的なマイクです。

特徴

- 超小型マイク
- 高い最大音圧レベル
- 広帯域周波数特性と調整可能な高域応答
- 薄型（わずか1mm）、柔軟かつ頑丈なケーブル、ハンドリングノイズが低い
- 特殊保護「傘型」ダイアフラムによる汗の浸透に対する高い耐性

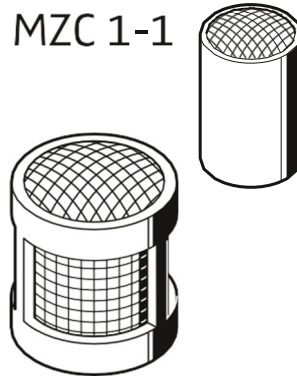


[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



高音域ブースト

本マイクには2種類の周波数特性調整キャップが付属しています。これらのキャップにより、マイクの高音域特性を調整できます。



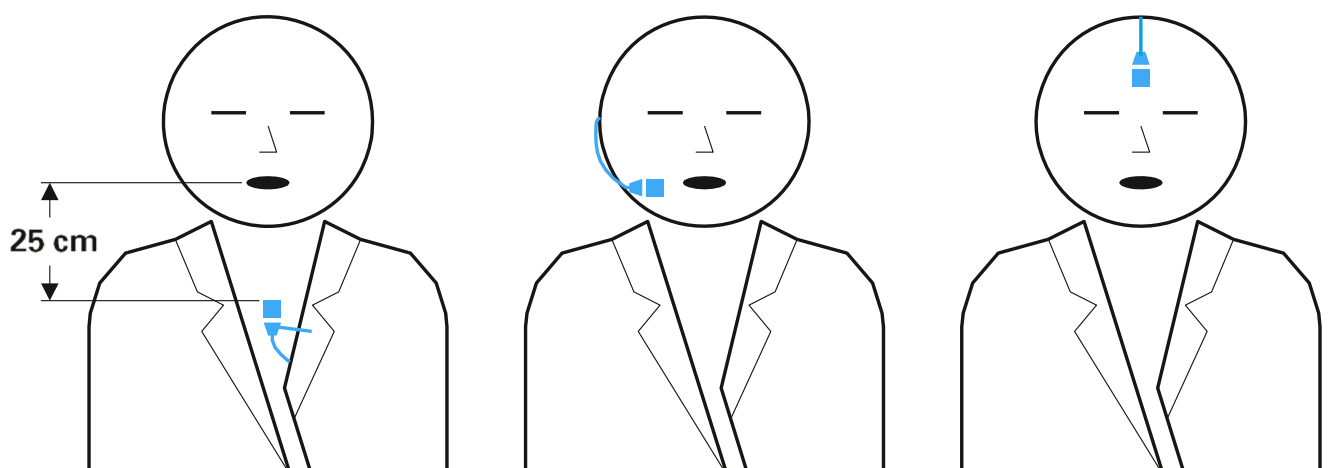
MZC 1-2

さらに、大型周波数応答キャップは風切り音を約15dB低減し、湿気の侵入に対する保護性能を拡張します。

▷お好みのキャップをマイクに装着し、カチッと固定されるまで押し込みます。

マイクの取り付け

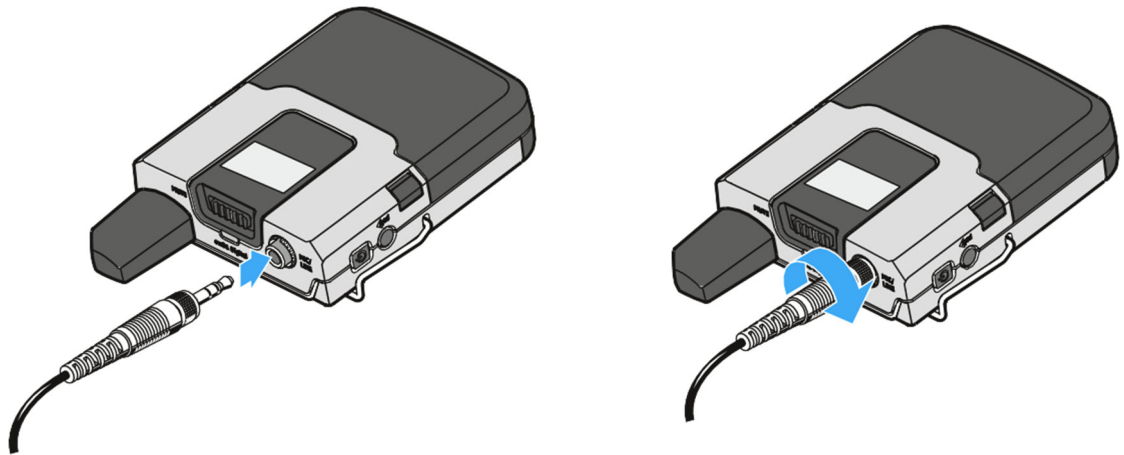
用途に応じて、MKE 1 を衣服や身体に様々な方法で取り付けることができます。



その際には、オプションの MZ 1 アクセサリーキットを使用してください。このキットには、複数かつ確実な取り付け方法を提供します。クリップ、ホルダー、マウントは、ほぼあらゆる装着状況に適しており、最適な音質を保証します。



MKE 1 を SL ボディパック DW に接続する



- ▷ MKE 1のジャックプラグをボディパック送信機のMIC/LINEジャックソケット（3.5 mm）に接続します。
- ▷ カップリングリングを締め付けてジャックプラグを固定してください。

ジャックプラグが確実にロックされていない場合、音声信号にパチパチという雑音が発生することがあります。



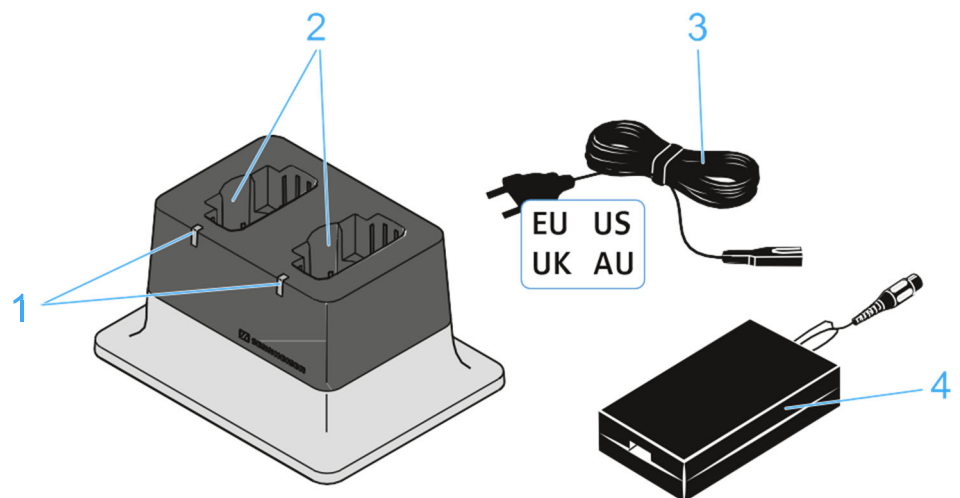
CHG 2 充電器

CHG 2 充電器は、SpeechLine Digital Wireless シリーズの送信機を最大2台同時に充電できます。各充電スロットのバイカラーLEDが現在の充電レベルを表示します。ハンドヘルド型とボディバック型の両方の送信機を充電できるユニバーサル充電スロットを備えています。



取扱説明書の最初のページに戻る

製品概要



1 充電レベル LED

- 緑色に点灯：バッテリーパックが完全に充電されています。
- 赤色点灯：バッテリーパックが充電中です。

2 充電スロット

- SLハンドヘルドDWとSLボディバックDWの両方に適しています

3 電源コード

- EU、US、UK、AU 対応

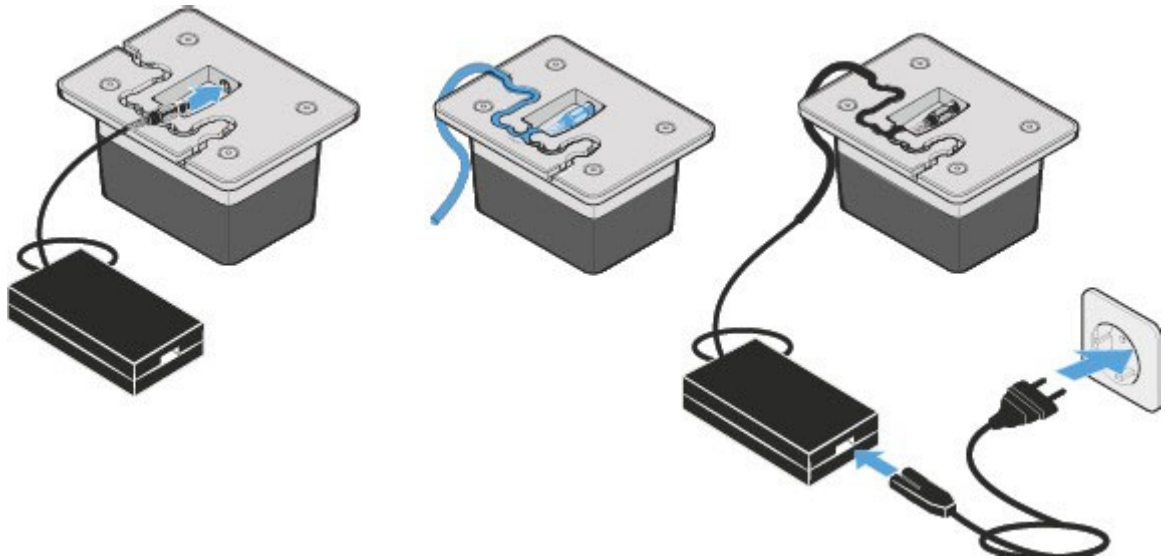
4 NT 12-50CS 電源ユニット

- CHG 2 充電器接続用中空ジャックプラグ付き



CHG 2充電器を電源システムに接続する

CHG 2充電器を電源システムに接続するには：

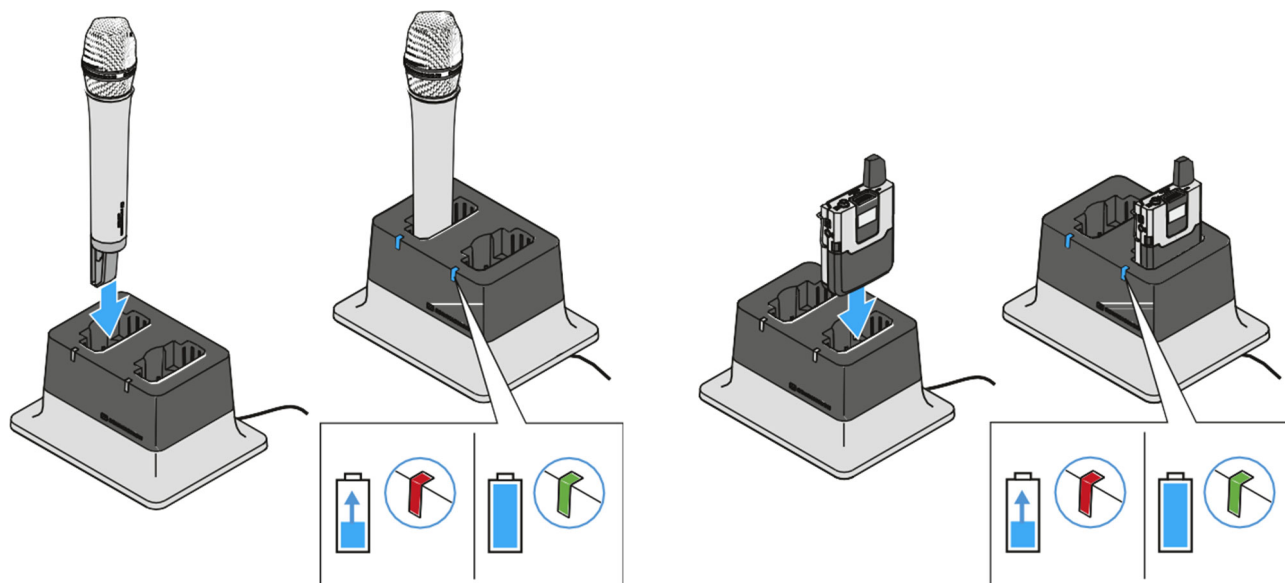


- ▷ 電源ユニットのケーブル端を、充電器底面のソケットに接続してください。
- ▷ 充電器の底面にあるケーブルガイドのいずれかにケーブルを通し、設置後に充電器が安定するようにしてください。
- ▷ 電源コードの一端を電源ユニットに接続し、もう一端を壁のコンセントに差し込んでください。



CHG 2充電器でのアキュパックの充電

CHG 2 充電器でアキュパックを充電するには：



- ▷ バッテリーパックを取り付けた送信機を、充電接点が下を向くように充電器に挿入します。

送信機を正しい向きで挿入してください：ボディパック送信機のスタンバイボタンは、充電器の充電状態LEDの方向を向く必要があります。充電パックが充電中は充電状態LEDが赤色に点灯します。充電パックが完全に充電されると、充電状態LEDは緑色に点灯します。



CHG 4N充電

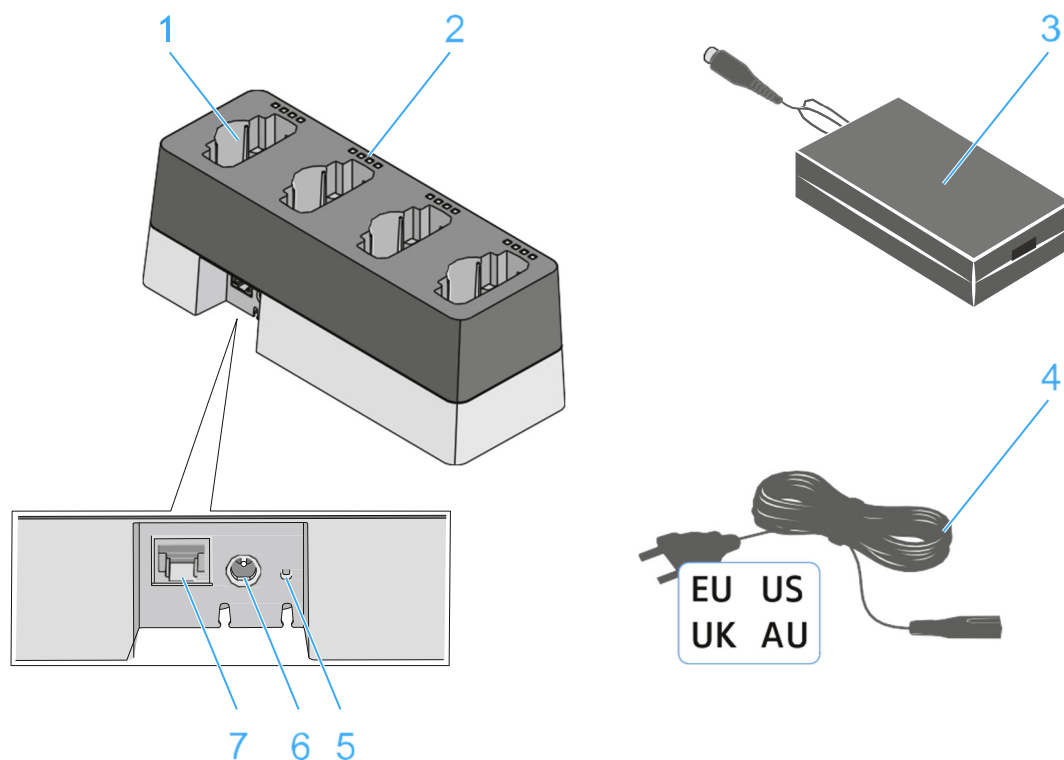
CHG 4Nは4つの独立した充電スロットを備えたネットワーク対応充電器です。これらのポートはSLボディパックDWおよびSLハンドヘルドDWに使用可能です。各充電スロットの4つのLEDが現在の充電状態を表示します。汎用性の高いネットワークインターフェースはIPv4およびIPv6に対応し、シームレスな統合を実現します。Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用すれば、設定やステータスメッセージの監視・リモート制御が可能です。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



1 充電スロット

- SLハンドヘルドDWとSLボディパックDWの両方に適しています

2 充電レベルLED

- 「充電スロット状態LEDの意味」を参照

3 電源ユニット

- CHG 4N充電器接続用中空ジャックプラグ付き

4 電源コード

- EU、US、UK、AU 対応

5 ネットワークリセットボタン

- 「ネットワーク経由でのCHG 4N充電器の制御と監視」を参照

6 電源ユニット用入力ソケット

- 「CHG 4N充電器の電源システムへの接続」を参照

7 イーサネットソケット

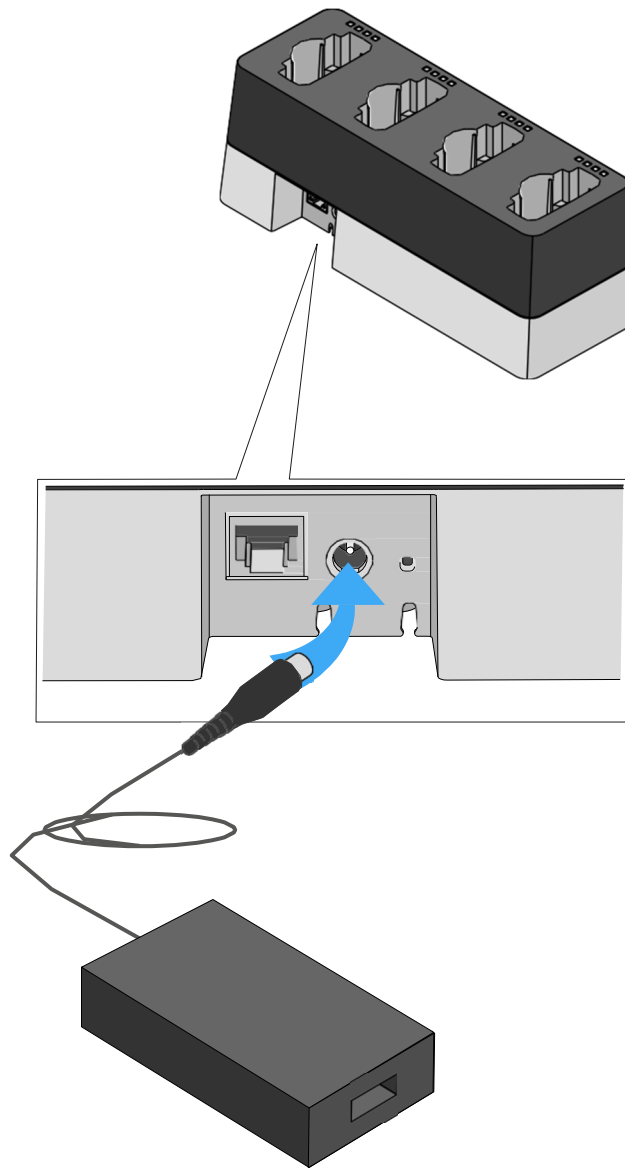
- 「ネットワーク経由での CHG 4N 充電器の制御と監視」を参照



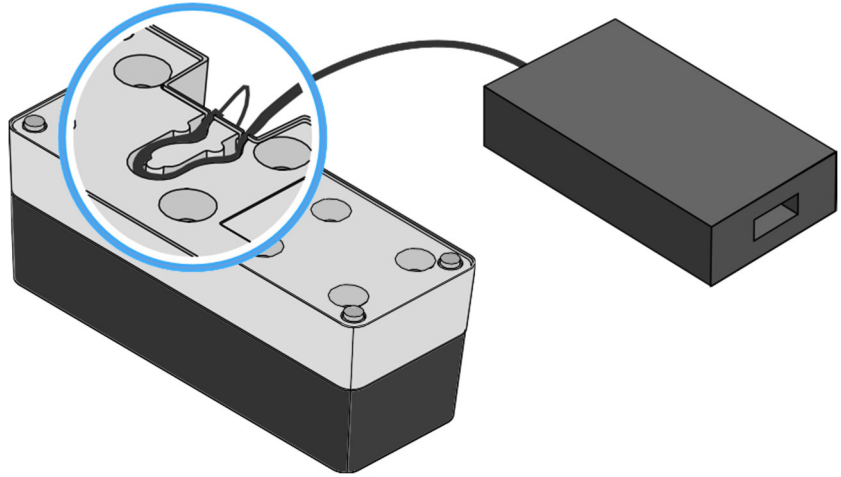
CHG 4N充電器の電源システムへの接続

CHG 4N充電器を電源システムに接続するには：

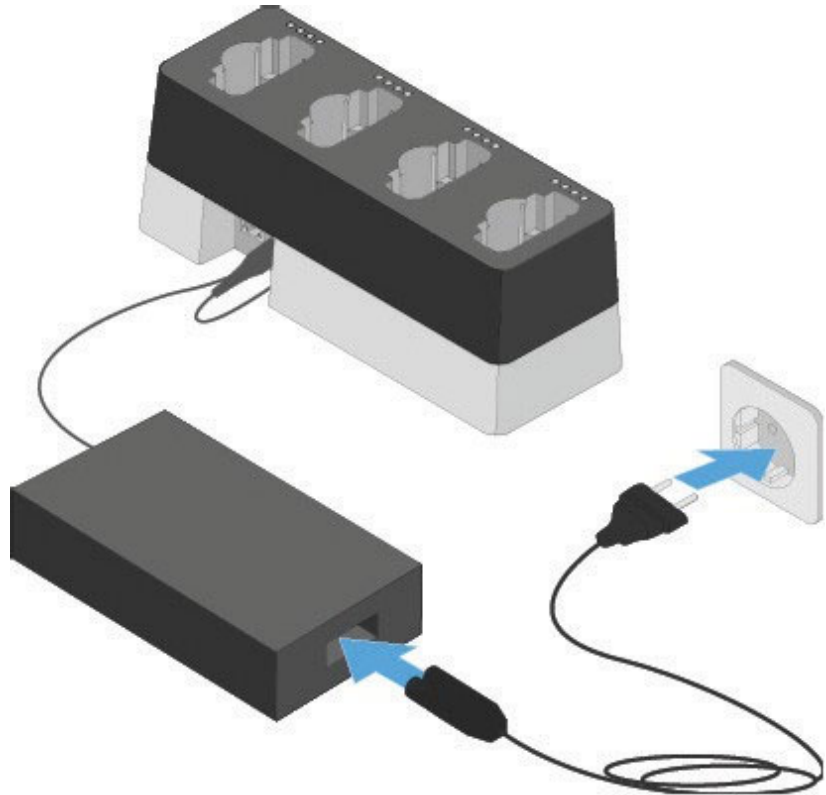
- ▷ 電源ユニットのケーブル端を、充電器底面のソケットに接続してください。



- ▷ 充電器が設置後に安定するように、充電器底部のケーブルガイドにケーブルを通します。



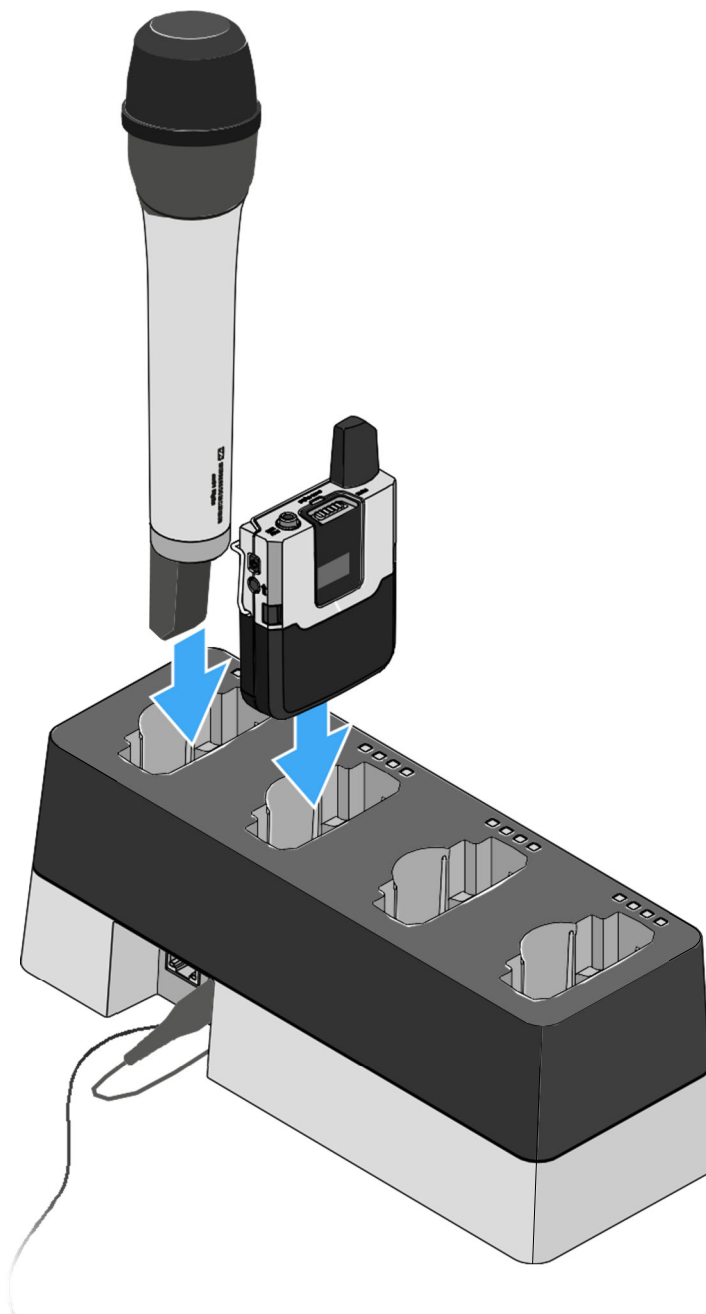
- ▷ 電源コードの一端を電源ユニットに接続し、もう一端を壁のコンセントに差し込みます。





CHG 4N充電器でのアキュパックの充電

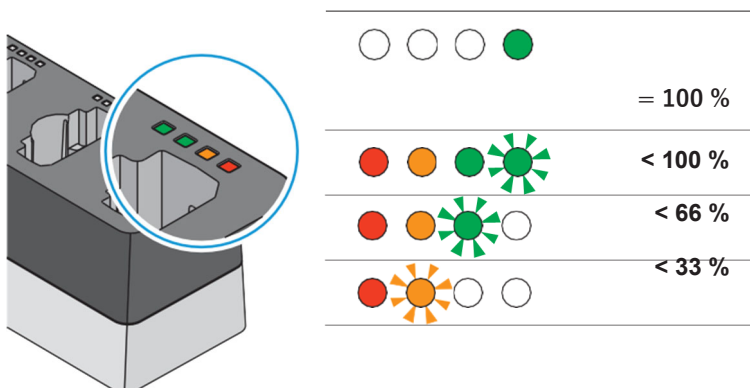
CHG 4N充電器でバッテリーパックを充電するには：



- ▷ バッテリーパックを取り付けた送信機を、充電器の4つの充電スロットのいずれかに挿入します。充電接点が下を向いていることを確認してください。
- ▷ 送信機を正しい向きで挿入してください。送信機は充電器に一方方向のみ挿入可能です。



4つの充電スロットそれぞれに配置された充電レベルLEDが、バッテリーパックの現在の充電レベルを示します：



詳細：「充電スロット状態LEDの意味」

充電スロットの状態LEDの意味

各充電スロットに配置された4つのステータスLEDは、以下の状態情報を表示します：

○ ○ ○ ● Accupack充電レベル = 100 %

● ● ● ● バッテリーパック充電レベル < 100 %

● ● ● ○ バッテリーパック充電レベル < 66 %

● ● ○ ○ Accupack 充電レベル < 33 %

● ● ● ● エラーが発生しました。対応するエラーメッセージが Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアに表示されます。

○ ● ● ● CHG 4Nのファームウェアが更新中です。
このLEDステータスは、SLハンドヘルドDWまたはSLポディパックDWトランスミッター用の新しいファームウェアが



がCHG 4N充電器にロードされている場合にのみ表示されます。送信機のファームウェアがロードされ、実際の更新が完了すると、LEDは次の状態に切り替わります。



SLハンドヘルドDWまたはSLボディパックDW送信機のファームウェアが更新中です。



送信機がサポート対象外であるか、ファームウェアの更新が必要です。



ネットワーク経由での CHG 4N 充電器の制御および監視

CHG 4N充電器はルーターまたはスイッチを介してネットワークに接続できます。これにより、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用してアキュパックの充電レベルを監視・制御したり、CHG 4N充電器のネットワーク設定を変更したりできます。

ネットワーク内のシステムを Sennheiser Control Cockpit ソフトウェアで制御する方法の詳細については、ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

Sennheiser Control Cockpit Service がインストールされているホスト PC は、監視および制御対象のデバイスと同じネットワーク上にある必要があることにご注意ください。

CHG 4N 充電器をネットワークに接続する

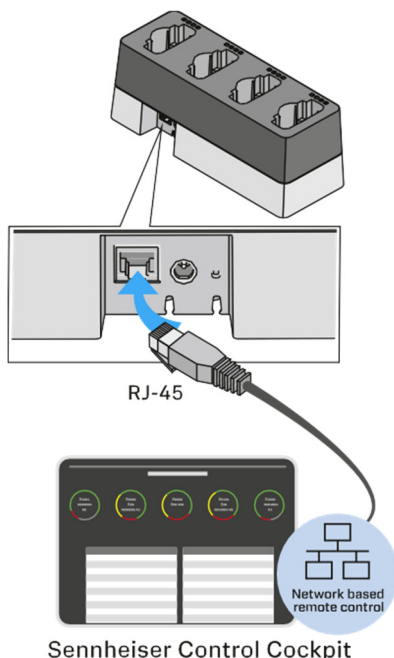
Sennheiser Control Cockpitアプリを使用して充電器を接続するには：

- ▷ 標準ネットワークケーブル（最低Cat 5）を充電器のイーサネットソケットに接続します。
- ▷ ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークに接続します。
例：スイッチやルーターに接続する場合、あるいは初期設定を容易にするために直接PCに接続する場合。

CHG 4N充電器のイーサネットソケット横にある黄色LEDは接続状態を示します：

黄色LED:

- 点灯 -> 充電器がネットワークに接続されています
- 消灯 -> 充電器がネットワークに接続されていない





DHCP ネットワークへの CHG 4N 充電器の統合

選択したネットワークでDHCPサーバーが稼働している場合、CHG 4N充電器は自動的にIPアドレスを取得します。

CHG 4N充電器は、デフォルトでmDNSが有効化された状態で出荷されるため、ネットワークに接続されるとSennheiser Control Cockpitで自動的に検出されます。

chargerを一度設定したら、mDNSを無効化できます。IPアドレスは、リース時間とDHCPサーバーの設定に応じて、動作中に変更される可能性があります。



mDNS = マルチキャストドメインネームシステム：ローカルネームサーバーを含まない小規模ネットワーク内で、ホスト名をIPアドレスに解決します。自動デバイス検出に使用されます。

Auto IPを使用したDHCP非対応ネットワークへのCHG 4N充電器の統合

ネットワークにDHCPサーバーが存在せず、自動生成されたIPアドレスを使用している場合、以下の情報に注意してください。

▷ Sennheiser Control Cockpit サービスがインストールされているホスト PC は、IP アドレスが静的設定ではなく自動的に割り当てられるように構成されていることを確認してください。

数分後、ネットワーク内のすべての充電器は [169.254.x.x](#) の範囲のリンクローカルアドレスを取得します。

CHG 4N 充電器は、デフォルトで mDNS が有効化された状態で出荷されるため、Sennheiser Control Cockpit で自動的に検出されます。

充電器の設定が完了したら、mDNS を無効にすることができます。



mDNS = マルチキャストドメインネームシステム：ローカルネームサーバーを含まない小規模ネットワーク内で、ホスト名を IP アドレスに解決します。デバイスの自動検出に使用されます。



一部のDHCPサーバーを内蔵した基本ルーターは起動に時間がかかる場合があります。この場合、Speech-Lineデバイスは初期段階で自動的に署名済みIPアドレスを取得することがあります。ただし、DHCPサーバーが利用可能になると、サーバーから割り当てられたIPアドレスが使用されます。



固定IPを使用したDHCP非対応ネットワークへのCHG 4N充電器の統合

ネットワークにDHCPサーバーが存在せず固定IPアドレスを使用している場合、以下の情報に注意してください。

CHG 4N充電器は出荷時、自動IP割り当てがデフォルト設定されています。Sennheiser Control Cockpitに追加後、固定IPに再設定可能です。その際は上記の手順「自動IPを使用したDHCP非対応ネットワークへのCHG 4N充電器の統合」に従ってください。

この操作を行うには、Sennheiser Control CockpitがインストールされているホストPCを一時的に自動IP割り当てに再設定する必要があります。

Sennheiser Control CockpitでCHG 4N充電器が認識されている場合、IP設定を手動で行うことができます：

- ▷ Sennheiser Control Cockpitの「デバイス詳細」→「ネットワーク」でIP設定を変更してください。

事前設定済みのCHG 4N充電器をSennheiser Control Cockpitに接続する

mDNSが有効化されている場合（工場出荷時設定）、CHG 4N充電器はネットワーク内で自動的に検出されます。

充電器が上記の手順のいずれかに従って再構成され、mDNSが無効化されている場合、Sennheiser Control Cockpitの「デバイス追加」機能を使用して手動で充電器を追加できます。

Sennheiser Control Cockpitで充電器を追加するには：

- ▷ Sennheiser Control Cockpitの「デバイス追加」機能を使用し、事前設定済みのIPアドレスを入力してください。

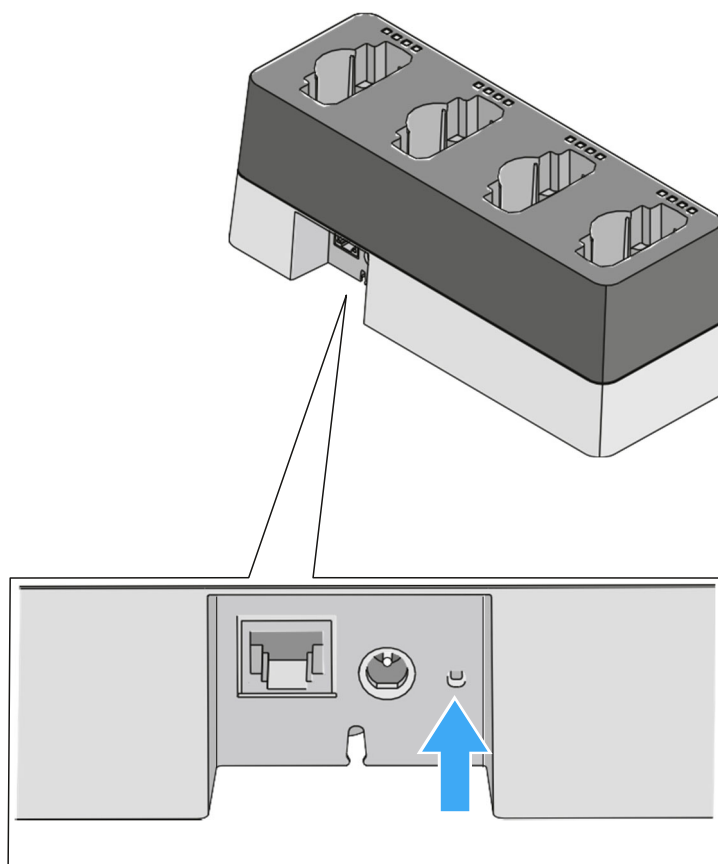
CHG 4N充電器のネットワーク設定をリセットする

ネットワーク設定を工場出荷時のデフォルトにリセットするには：

- ▷ 先の尖った物で小さなリセットボタンを1秒以上押し続けてください。
リセットボタンを離すと設定がリセットされます。工場出荷時の設定が復元されます：
- 自動IP割り当て
- mDNSが有効化されます



- Sennheiser Control Cockpitで変更された場合、名称と設置場所がリセットされます。



ファームウェアの更新

CHG 4N充電器のファームウェアは、Sennheiser Control Cockpitソフトウェアを使用して更新します。この手順の詳細については、Sennheiser Documentationアプリ内のソフトウェア取扱説明書、またはSennheiserウェブサイト（www.sennheiser.com/download）のダウンロードエリアでご確認ください。

Sennheiser Control Cockpit取扱説明書

Sennheiser ウェブサイトのダウンロードエリア



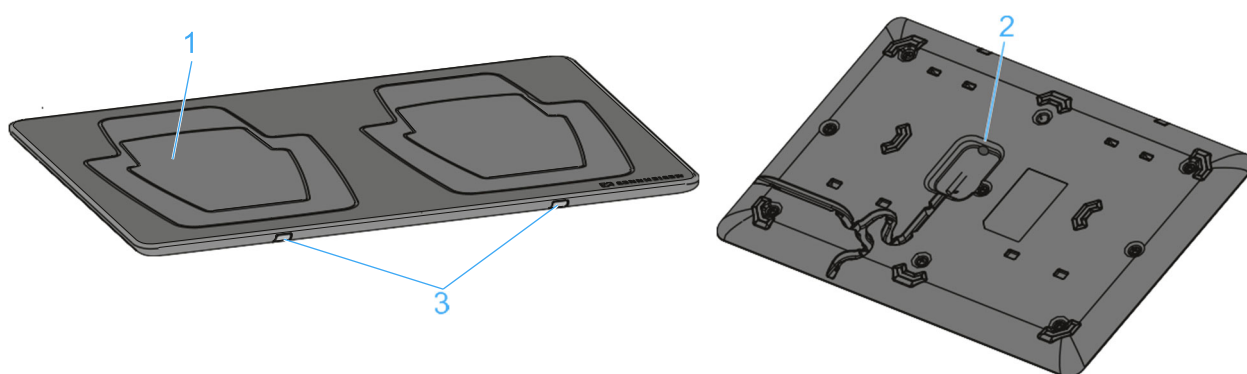
CHG 2W 充電ベース

CHG 2Wは便利なワイヤレス充電を提供する充電ベースです。CHG 2W充電ベースはSL Tablestand 133-S DW、SL Tablestand 153-S DW、SL Boundary 114-S DWと互換性があります。



取扱説明書の最初のページに戻る

製品概要



1 ワイヤレスエネルギー転送用充電面

- SL Tablestand 133-S DW および SL Tablestand 153-S DW ユニット用

2 電源ユニット用ソケット

- 「CHG 2W充電ベースの電源システムへの接続」を参照

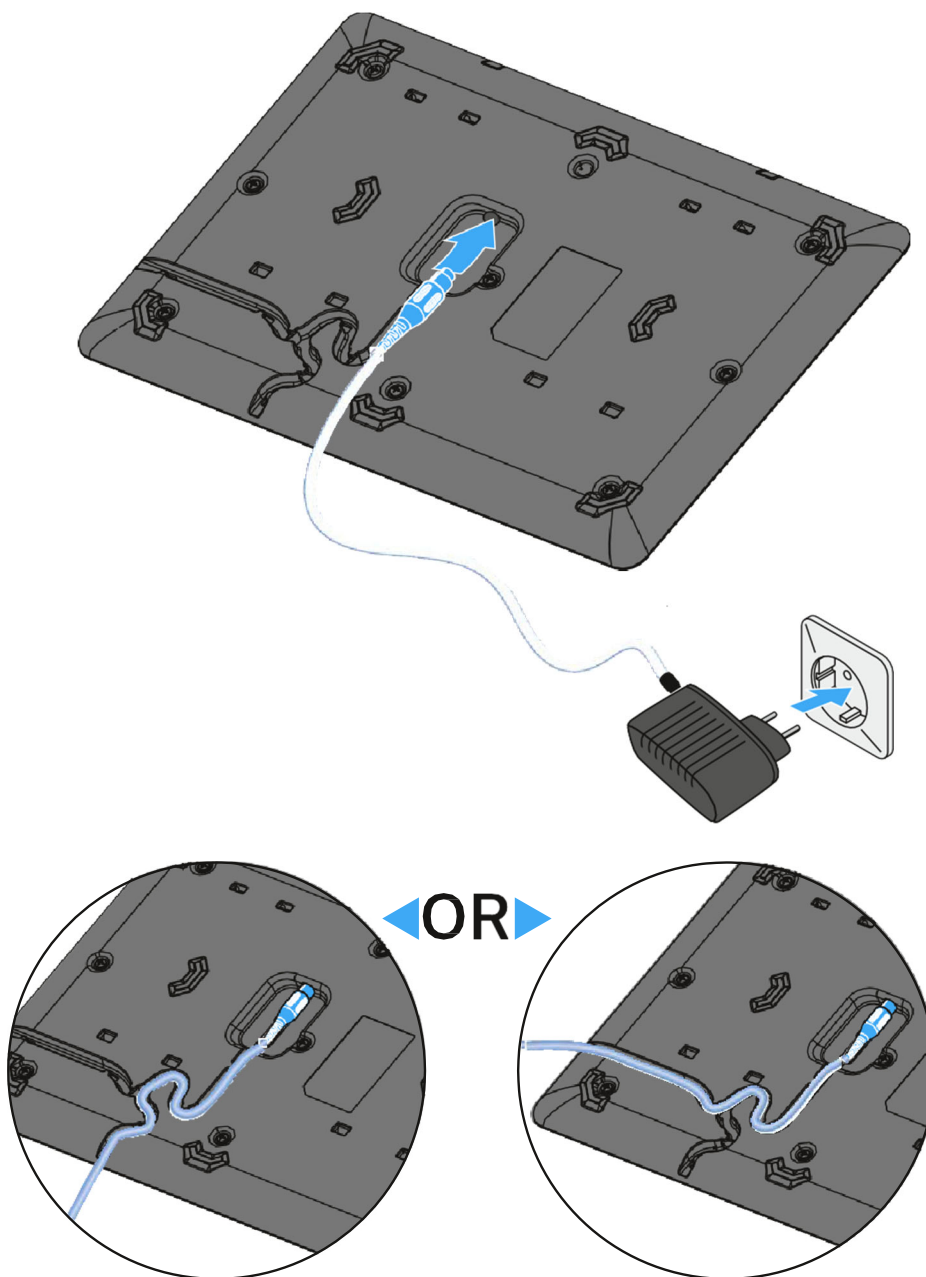
3 ステータスLED

- 点滅：デバイスが充電中
- 高速点滅：温度が高すぎる
- 点滅：充電器上の不明なデバイス
- 「充電面上のステータスLEDの意味」を参照



CHG 2W充電ベースの電源システムへの接続

CHG 2W充電器を電源システムに接続するには：



- ▷ 電源ユニットのケーブル端子を充電器ベース部のソケットに接続します。
- ▷ プラグが完全に差し込まれていることを確認してください。カチッと固定される感触があります。
- ▷ 充電器が設置後に安定するよう、充電器底面の2つのケーブルガイドのいずれかを通してケーブルを通してください。
- ▷ 電源ユニットを壁のコンセントに差し込みます。

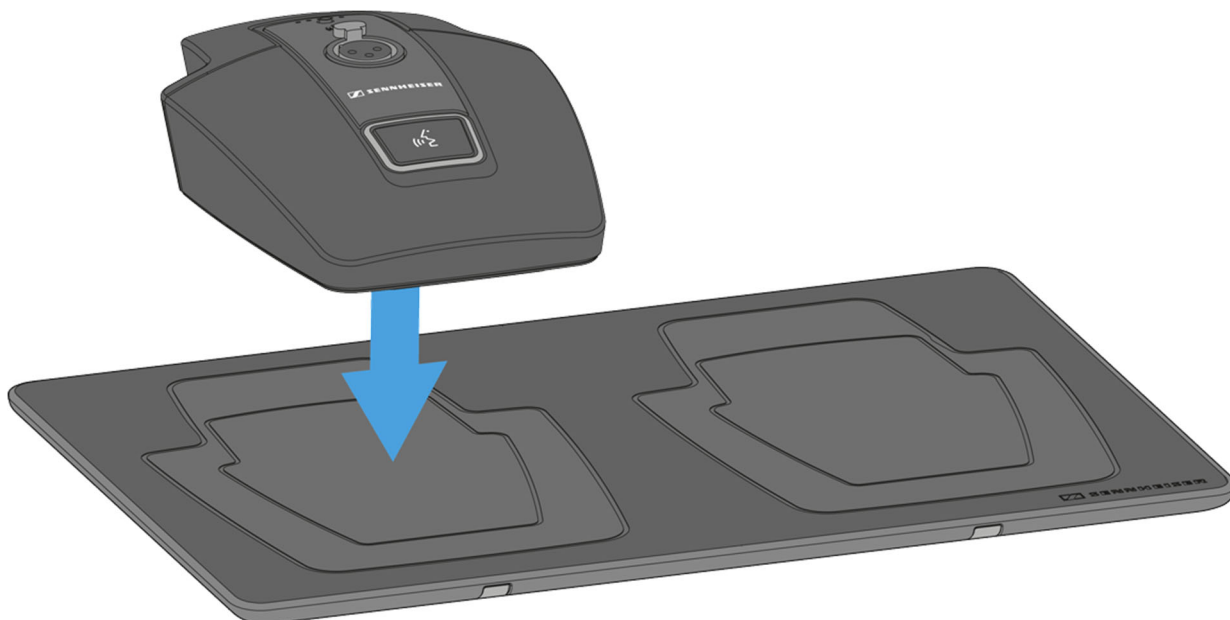


CHG 2W充電ベースを使用したデバイスの充電

CHG 2W 充電ベースを使用して、ワイヤステープルスタンド SL Tablestand 133-S DW および SL Tablestand 153-S DW、ならびにワイヤレス境界マイク SL Bound-ary 114-S DW を充電できます。

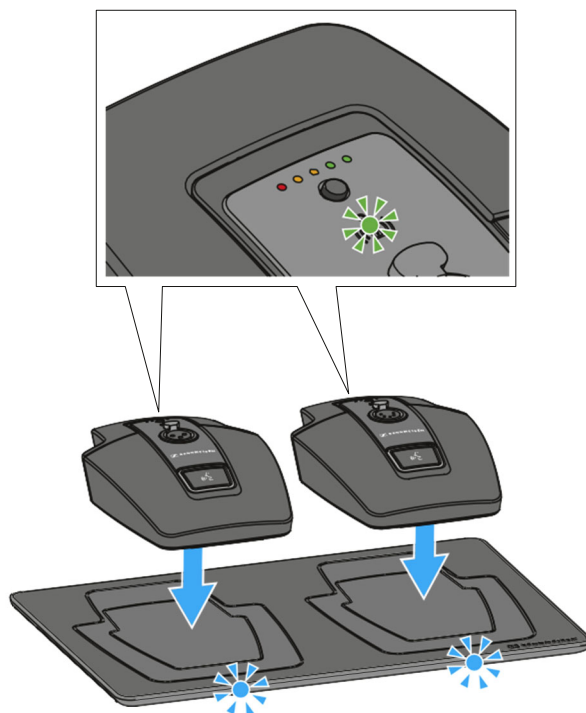
デバイスの充電方法:

▷ デバイスを2つの充電面のいずれかに置きます。



充電中は、充電中の充電面の青いステータスLEDが点滅します。

デバイス上の位置合わせ LED は、デバイスが正しく配置されているかどうかを示します。





充電面上のステータスLEDの意味

充電面にある2つの青色ステータスLEDは、以下の状態情報を提供します：

通常点滅：デバイスが充電中

高速点滅：過熱警告

非常に高速に点滅/ちらつき：充電器上に未知のデバイスが接続されています



AWM 2 アンテナ壁掛けマウント

AWM 2 アンテナ壁掛けマウントを使用すると、アンテナを受信機から離れた位置に設置できます。これにより、アンテナを最適な位置に配置しつつ、ほぼ目立たなく設置することが可能です（例：受信機を目立たない場所に設置する必要がある場合、または受信機の設置位置が受信性能を最適化するアンテナ位置として不適切な場合）。AWM 2 はマイクスタンドへの簡易取り付けや壁への恒久設置が可能です。



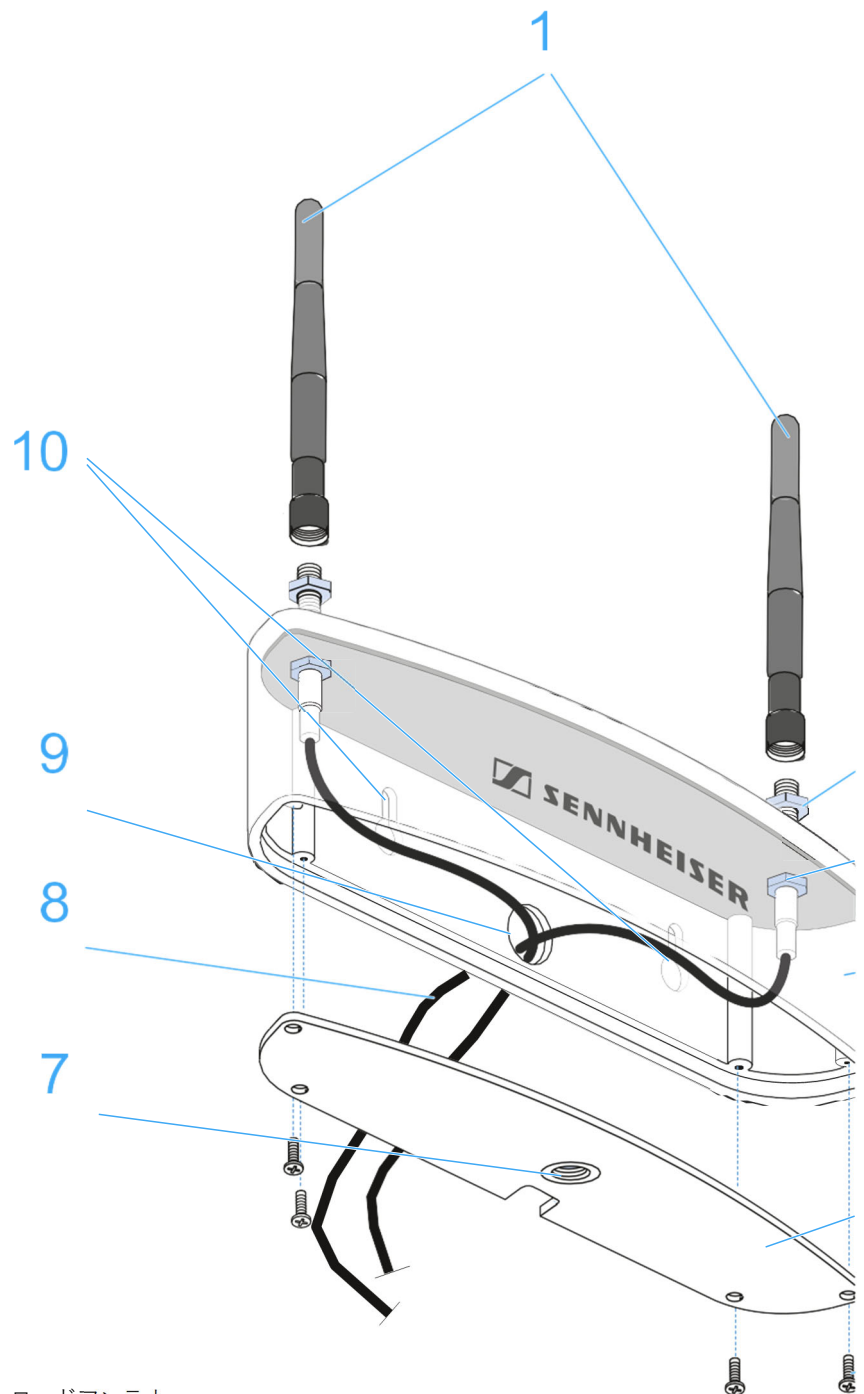
AWM 2を使用した設置方法の詳細やアンテナ使用に関する一般的な推奨事項は、「アンテナ設置に関する推奨事項」をご参照ください。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



1 ロッドアンテナ

- アンテナ壁マウント上部にあるR-SMAソケットへの接続用

2 アンテナケーブルのR-SMAソケット

- ロッドアンテナ接続用アンテナ入力端子

3 アンテナ穴

- アンテナケーブルのR-SMAソケットを固定するためのネジ穴

**4** アンテナハウジング

- アンテナケーブル配線用

5 アンテナハウジングのネジ止めカバー

- 取り外し可能（取り付けおよびアンテナケーブル配線用）

6 4つの皿頭ネジ

- カバー固定用

7 内ネジ

- マイクスタンドへの取り付け用

8 R-SMAケーブル

- R-SMAソケットとR-SMAコネクタ付き、ワッシャーとナット付属

9 ケーブル穴

- 壁取付用

10 細長い取り付け穴

- 壁取り付け用



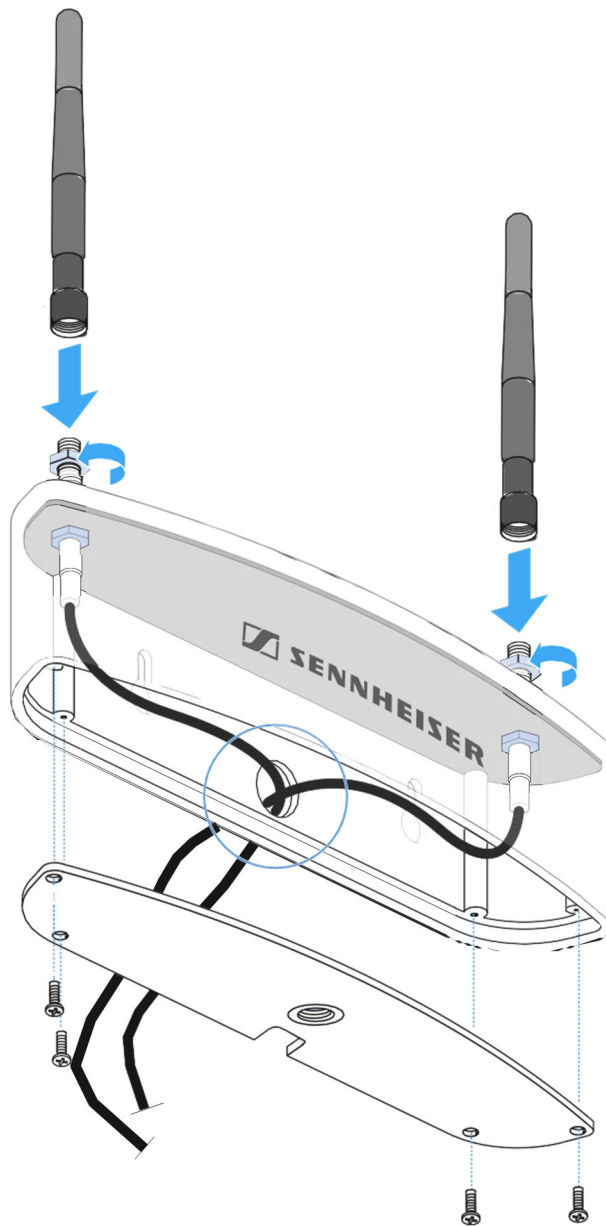
AWM 2の接続と取り付け

ロッドアンテナの代わりに、オプションのAWM 2アンテナ壁掛けマウントをレシーバーに接続できます。AWM 2は、アンテナをレシーバーから離れた位置に設置する必要があるすべての用途に適しています。

- ▷ アンテナ壁掛けマウントのベースから4本のネジを緩めて取り外し、カバーを外します。

アンテナ壁掛けマウントを壁に取り付けるには

- ▷ アンテナハウジング後部にあるケーブル穴から、R-SMAソケットを取り付けたアンテナケーブル端子を背面から通します。



- ▷ アンテナケーブルを折り返さないでください。ケーブルを配線する際は、曲げ半径43mmを超えて曲げないようにしてください。



- ▷ これより小さい曲げ半径では、ケーブルに目に見えない亀裂や破損が生じる可能性があります。これにより受信品質が低下する恐れがあります。
- ▷ 付属のワッシャーとナットを使用して、ソケットをアンテナ穴にねじ込みます。
- ▷ カバーをアンテナハウジングにねじ止めます。ケーブルの正しい配線に注意してください。
- ▷ アンテナ壁マウントの2本のロッドアンテナをR-SMAソケットに接続してください。
- ▷ 延長された取り付け穴を使用して、アンテナ壁掛けマウントを壁に取り付けるか、3/8インチネジ山付きのマイクスタンドにネジ止めしてください。

アンテナケーブルは、アンテナハウジングの背面パネルから直接壁を通して配線できます。アンテナ壁マウントを壁に取り付ける場合、アンテナ壁マウントの上端と天井の間には最低160mmの距離を確保してください。

- ▷ 必要に応じて延長ケーブルをアンテナ壁掛けマウントのR-SMAソケットに接続してください。
- ▷ R-SMAコネクタをレシーバーのR-SMAソケットに接続してください。

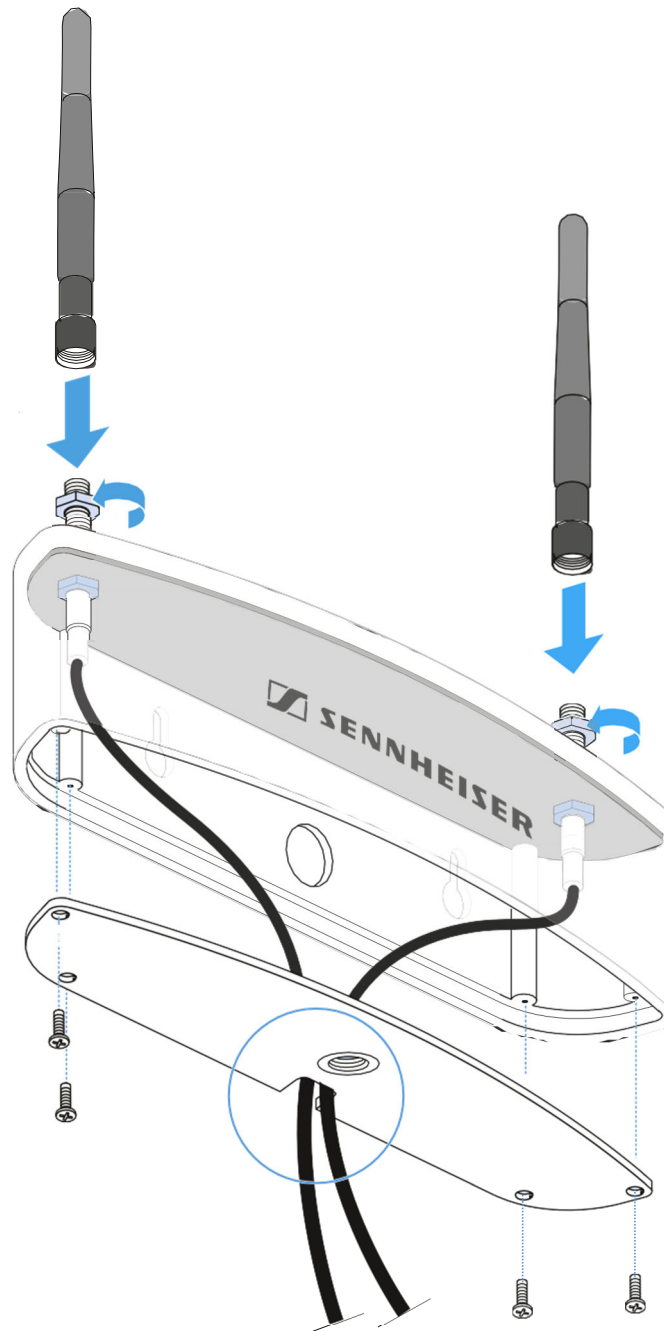


AWM 2を使用した設定例やアンテナ使用に関する一般的な推奨事項は、「アンテナ設置に関する推奨事項」を参照してください。



アンテナ壁マウントをマイクスタンドに取り付ける場合

- ▷ アンテナハウジング後部下端にあるケーブル用切り欠きに、R-SMAソケットを取り付けたアンテナケーブルの端を通します。



- ▷ アンテナケーブルを折り返さないでください。ケーブルを配線する際は、曲げ半径43mmを超えて曲げないようにしてください。
- ▷ これより小さい曲げ半径では、ケーブルに目に見えない亀裂や破損が生じる可能性があります。これにより受信品質が低下する恐れがあります。
- ▷ 付属のワッシャーとナットを使用して、ソケットをアンテナ穴にねじ込みます。



- ▷ カバーをアンテナハウジングにねじ止めます。ケーブルの正しい配線に注意してください。
- ▷ アンテナ壁マウントの2本のロッドアンテナをR-SMAソケットに接続します。
- ▷ 延長取り付け穴を使用してアンテナ壁マウントを壁に取り付けるか、3/8インチネジ山を持つマイクスタンドにねじ込みます。

アンテナケーブルは、アンテナハウジングの背面パネルから直接壁を通して配線できます。アンテナ壁掛けブラケットを壁に取り付ける場合、ブラケット上部と天井の間に最低160mmの距離を確保してください。

- ▷ 必要に応じて、延長ケーブルをアンテナ壁掛けブラケットのR-SMAソケットに接続してください。
- ▷ R-SMAコネクタを受信機のR-SMAソケットに接続してください。



AWM 2を使用した設定例やアンテナ使用に関する一般的な推奨事項は、「アンテナ設置に関する推奨事項」を参照してください。



AWM 4アンテナ壁掛けマウント

AWM 4アンテナ壁掛けマウントを使用すると、アンテナを受信機から離れた位置に設置できます。これにより、最適な位置に配置でき、ほぼ目立たなくなります（例：受信機を目立たない場所に設置する必要がある場合、または受信機の位置が最適な受信状態を得るためのアンテナ設置位置に合わない場合）。AWM 4はマイクスタンドに簡単に取り付けられるほか、壁への恒久設置も可能です。



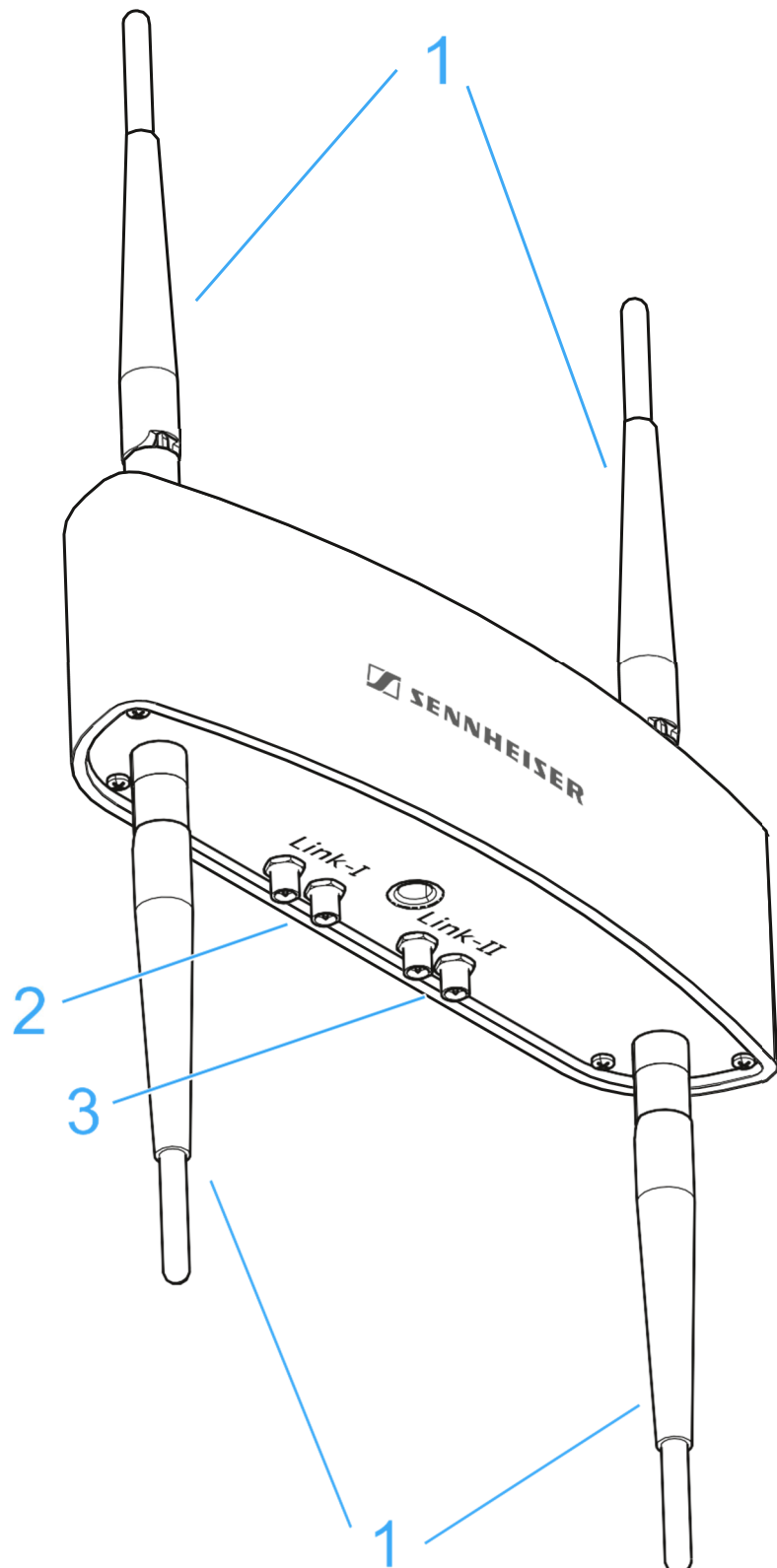
AWM 4を使用した設置方法の詳細やアンテナ使用に関する一般的な推奨事項は、「アンテナ設置に関する推奨事項」をご参照ください。



[取扱説明書の最初のページに戻る](#)



製品概要



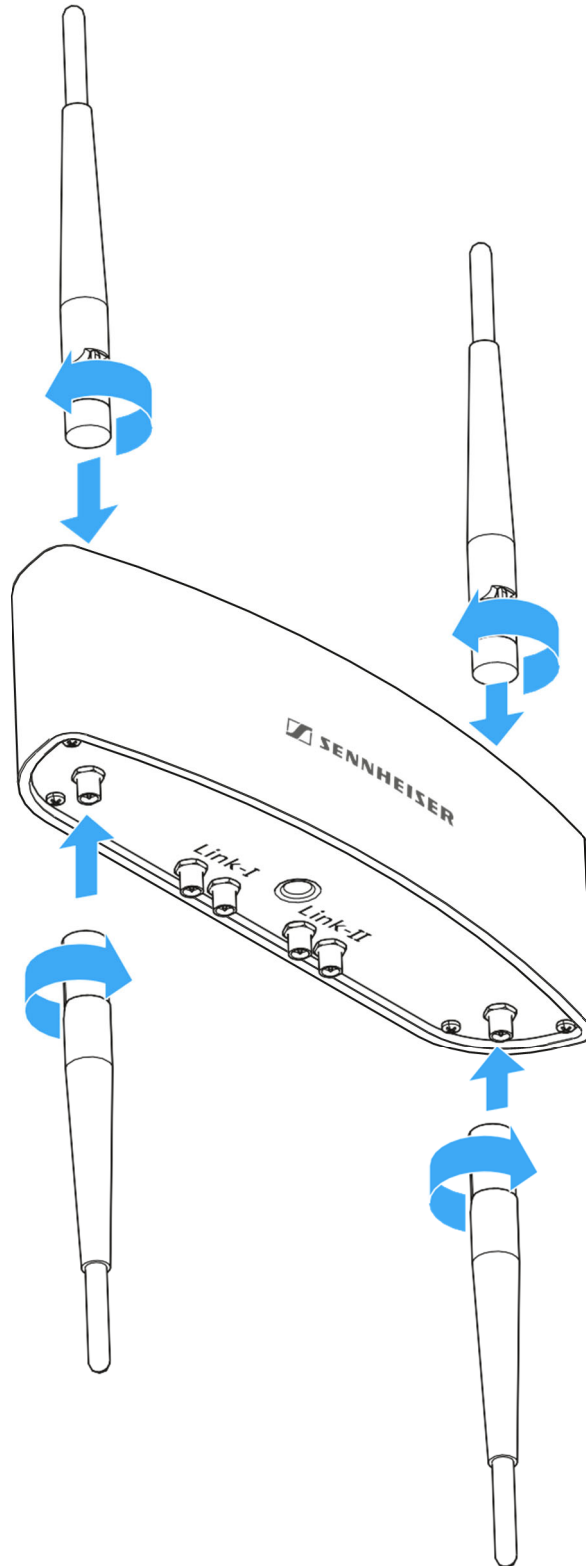
- 1** アンテナ
- 2** リンクI（受信機1）用接続端子
- 3** Link II（レシーバー2）の接続



AWM 4 の接続と取り付け

アンテナの取り付け

▷ 付属のロッドアンテナ4本を、図のように筐体にはねじ込みます。

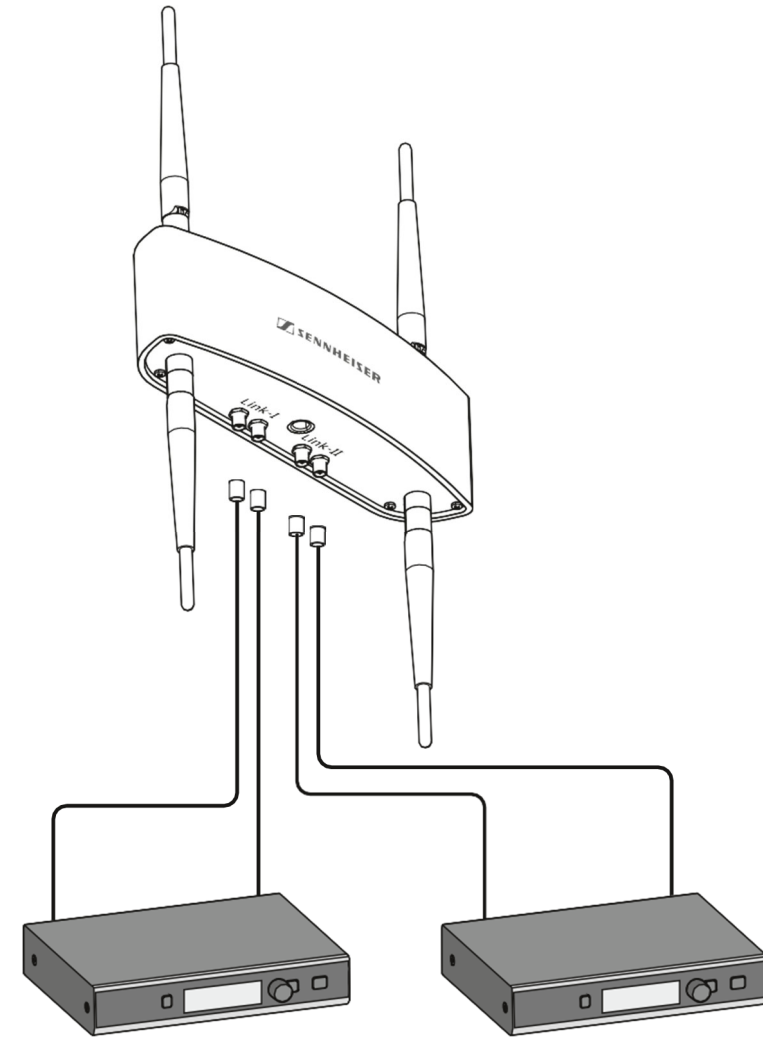




アンテナケーブルの接続

AWM 4には2台の受信機を直接接続できます。

- ▷ 最初の受信機の2つのアンテナ出力ANT IおよびANT IIを、AWM 4の接続端子LINK Iに接続します。
- ▷ 2台目の受信機の2つのアンテナ出力ANT IおよびANT IIを、AWM 4のLINK II端子に接続します。



AWM 4を使用した設定例やアンテナ使用に関する一般的な推奨事項については、「アンテナ設置に関する推奨事項」を参照してください。

受信機をAWM 4に直接接続する場合は、以下の低損失Sennheiserアンテナケーブルの使用を推奨します：

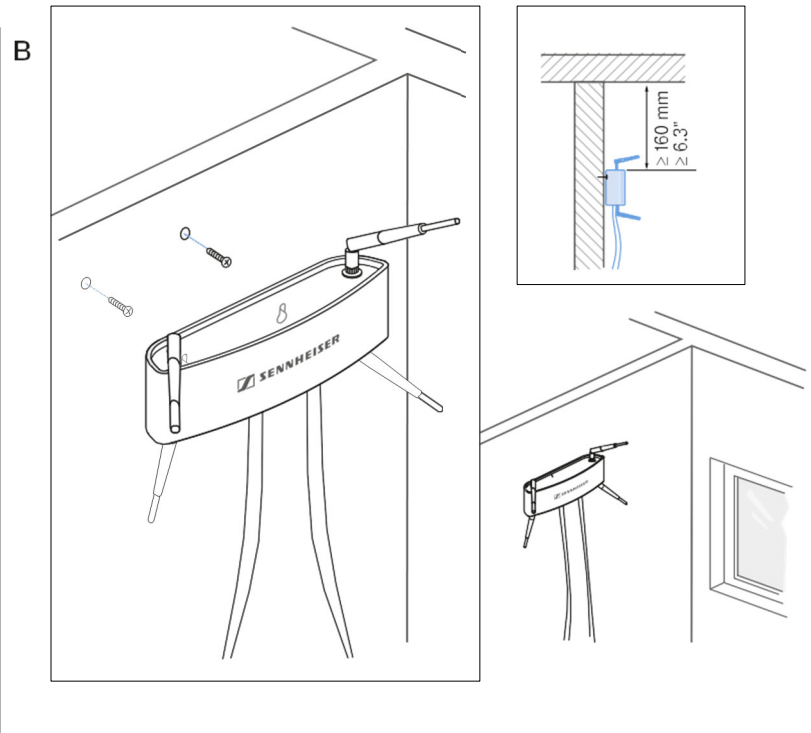
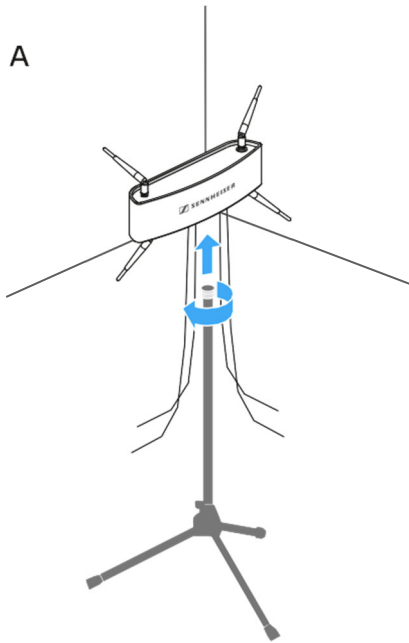
- CL 1 PP
- CL 5 PP
- CL 10 PP
- CL 20 PP

これらのケーブルは、アダプターを必要とせずに SL Rack Receiver DW および AWM 4 に直接接続できます。



スタンドまたは壁へのAWM 4の取り付け

AWM 4 は、標準的なマイクスタンドにネジで固定するか、図のように筐体の既存の穴を利用して壁に取り付けることができます。





SL PASC 2 パッシブアンテナスプリッター/コンバイナー

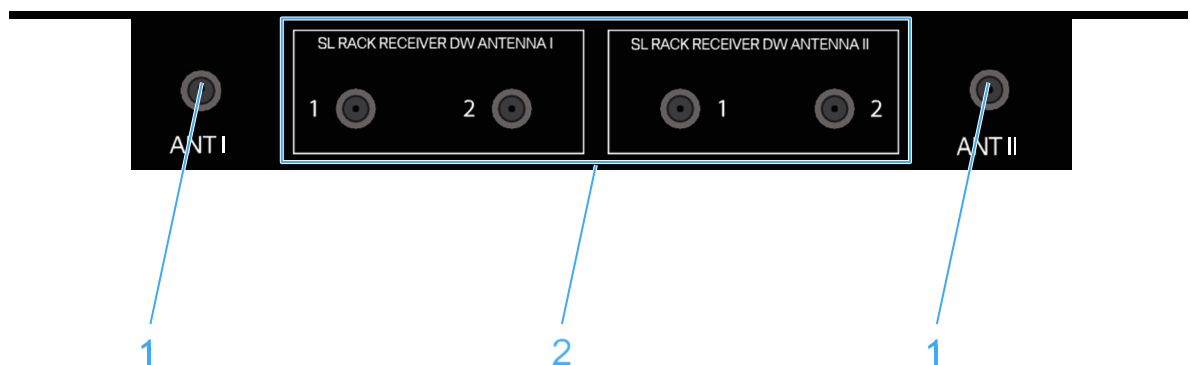
SL PASC 2 は、SpeechLine Digital Wireless マイクロホンシリーズ用のパッシブ 2 ウェイ トゥルーダイバーシティアンテナスプリッター/コンバイナーです。最大 2 つの SpeechLine Digital Wireless 無線リンクからのアンテナ信号を分配するために使用されます。AWM 2 または AWM 4 リモートアンテナと組み合わせることで、必要なアンテナケーブルの数を最小限に抑えることができます。 ラック受信機は付属の SMA-R ケーブルを使用して SL PASC 2 に接続します。



取扱説明書の最初のページに戻る

装置背面のコネクタ

製品概要 – SL PASC 2 背面パネル



- 1** R-SMA出力ソケット **ANT I** および **ANT II**
 - アンテナ (AWM 2 または AWM 4) 接続用
- 2** R-SMA入力ソケット **SLラックレシーバーDWアンテナI**および**SLラックレシーバーDWアンテナII**
 - レシーバー接続用

配線に関する詳細は「オプション2：複数のリンクを1台のAWM 2/AWM 4に統合する」の章を参照してください。





SL PASC 4 パッシブアンテナスプリッター/コンバイナー

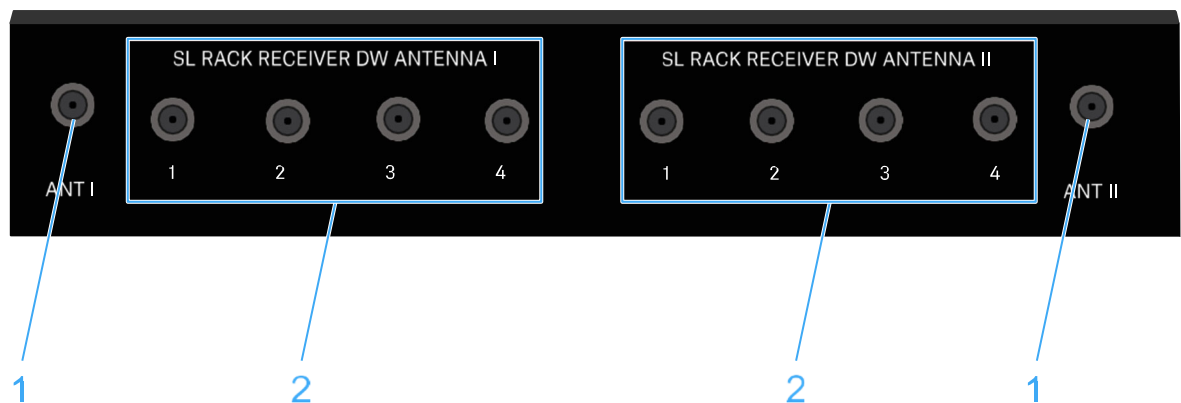
SL PASC 4は、SpeechLine Digital Wirelessマイクロホンシリーズ用のパッシブ4ウェイ真のダイバーシティアンテナスプリッター/コンバイナーです。最大4つのSpeechLine Digital Wireless無線リンクからのアンテナ信号を分配するために使用されます。AWM 2またはAWM 4リモートアンテナと組み合わせることで、必要なアンテナケーブルの数を最小限に抑えます。ラック受信機は付属のSMA-Rケーブルを使用してSL PASC 4に接続します。



取扱説明書の最初のページに戻る

デバイスの背面にあるコネクタ

製品概要 – SL PASC 4 背面パネル



- 1** R-SMA出力ソケット **ANT I** および **ANT II**
 - アンテナ（AWM 2 または AWM 4）接続用
- 2** R-SMA入力ソケット **SLラックレシーバーDWアンテナI**および**SLラックレシーバーDWアンテナII**
 - レシーバー接続用

配線に関する詳細は「オプション2：複数のリンクを1台のAWM 2/AWM 4に統合する」の章を参照してください。





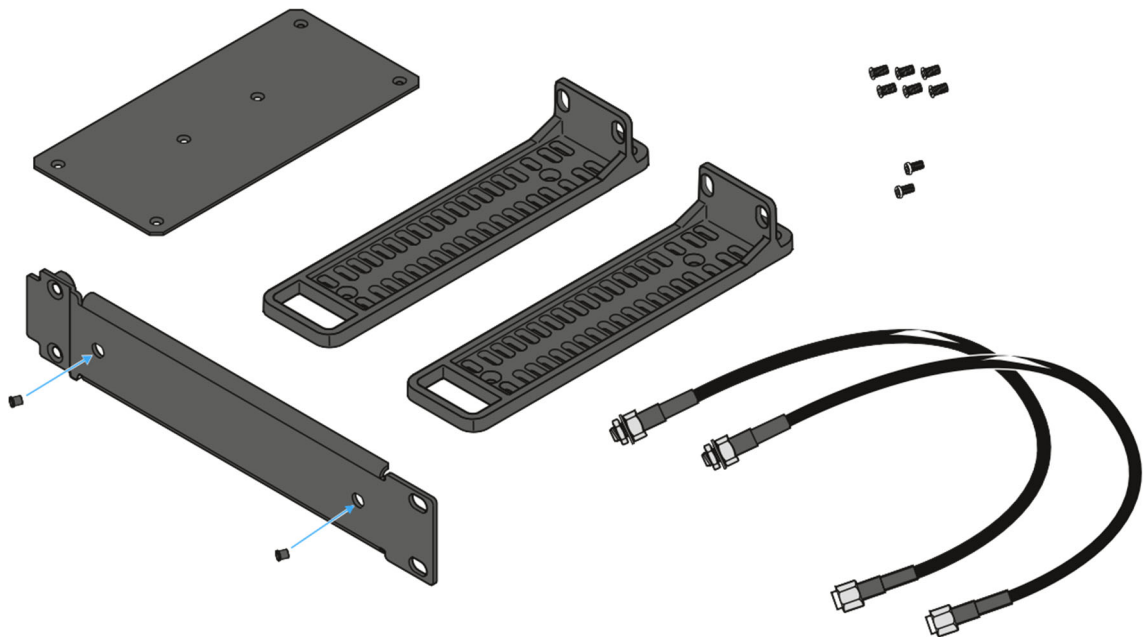
ラックへのアンテナスプリッターの取り付け

この章では、ラック内に単体のアンテナスプリッター、または2つのアンテナスプリッターを並べて設置する方法について説明します。

GA 4 取り付けキット

アンテナスプリッターをラックに取り付けるには、GA 4 取り付けキットが必要です。

GA 4 取り付けキットの内容:



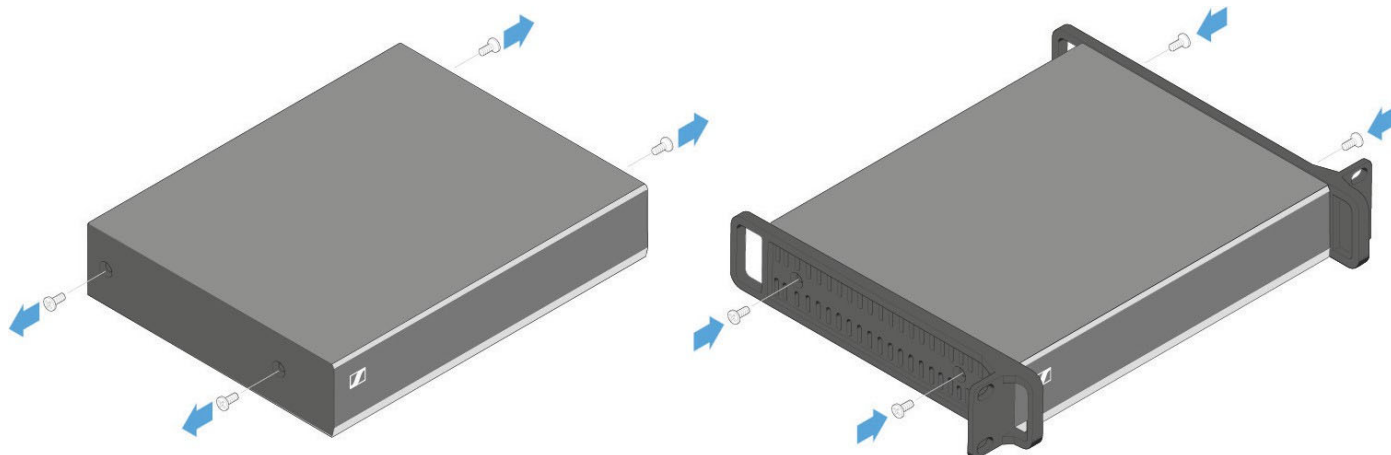


取り付けブラケットの固定（アンテナスプリッター設置時）

取り付けブラケットの固定方法：

- ▷ アンテナスプリッターの両側にある2本の皿頭ネジを外します。
- ▷ 取り外した皿ネジを締め、取り付けブラケットをアンテナスプリッターの側面に固定します。

取付アングルの角度付き端が前方に向いていることを確認してください。

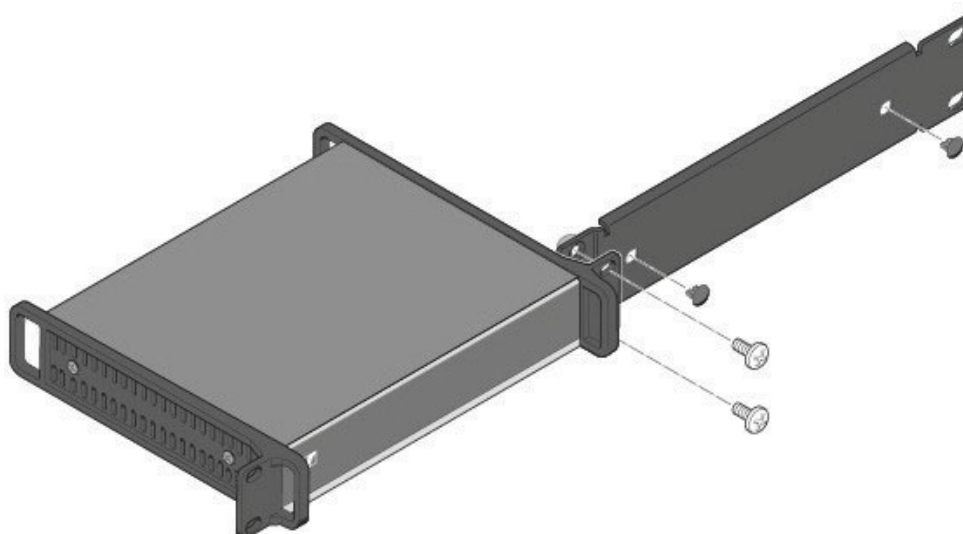


アンテナスプリッターのラックへの取り付け

アンテナスプリッターをラックに取り付けるには：

- ▷ 図のように、付属の皿ネジ2本を使用して、GA 4取り付けキットのフロントパネルをアンテナスプリッターの取り付けアングルにねじ込みます。

ブラインドプレートをマウントアングルに固定する際は、丸穴のある正しい面を使用してください。



- ▷ 未使用のアンテナ穴に2つの小さなブラッキングプラグを挿入してください。



- ▷ アンテナスプリッターと取付付属品で構成されるユニットを19インチラックにねじ込みます。

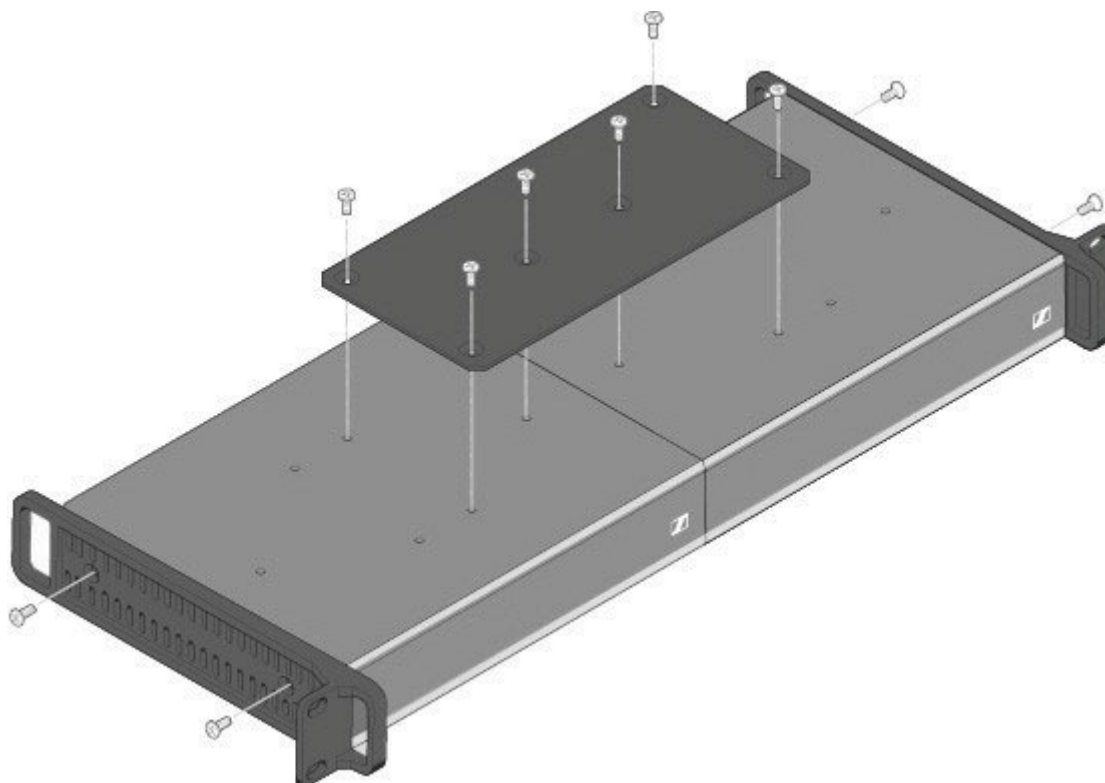
ジョイントプレートの取り付けと取り付けアングルを固定する（2つのアンテナスプリッターを並べて設置する場合）

取付アングルを固定するには：

- ▷ アンテナスプリッターの両側面にある2本の皿頭ネジを外します。
- ▷ 取り外した皿頭ネジを使用して、取り付けブラケットをアンテナスプリッターの外側面に固定します。

ジョイントプレートの取り付け：

- ▷ 2つのアンテナスプリッターを底面を上向きにして平らな面に並べて置きます。
- ▷ 図に示すように、ジョイントプレートと6本の皿頭ネジを使用して、2つのアンテナスプリッターをねじ止めします。



- ▷ 2つのアンテナスプリッターで構成されるユニットを19インチラックにねじ込みます。

AUDIO BRAINS



輸入販売代理店：株式会社オーディオブレインズ

〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎649-3 TEL：044-888-6761 <https://audiobrainz.com/>